

地域文化専攻

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋哲学思想論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 脇條靖弘 | | | | |

- 授業の概要 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を 探究する。/
検索キーワード 哲学
- 授業の一般目標 一つの哲学的問題について深く探究する
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： とりあげた問題とその解決の試みを理解する。 思考・判断の観点： その問題について哲学的考察を加える。
- 授業の計画（全体） 空間、時間は実体的なのかと関係的なのか、時間と因果性の方向性等、時間空間と時間に関する諸問題のうち、一つを取り上げて講義する。
- 成績評価方法（総合） レポートによる。
- 連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋哲学思想論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 脇條靖弘 | | | | |

- 授業の概要 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を 探究する。/
検索キーワード 哲学
- 授業の一般目標 一つの哲学的問題について深く探究する
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： とりあげた問題とその解決の試みを理解する。 思考・判断の観点： その問題について哲学的考察を加える。
- 授業の計画（全体） 空間、時間は実体的なのかと関係的なのか、時間と因果性の方向性等、時間空間と時間に関する諸問題のうち、一つを取り上げて講義する。
- 成績評価方法（総合） レポートによる。
- 連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋哲学思想論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 脇條靖弘 | | | | |

- 授業の概要 古代ギリシアの哲学関連の文献を読む。／検索キーワード 古代ギリシア哲学
- 授業の一般目標 文献を正確に読み、そこに見られる哲学的議論を整理し、評価する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 文献を正確に読む。 思考・判断の観点： 文献の議論を哲学的に考察する。
- 授業の計画（全体） 取り上げる文献は未定。
- 成績評価方法 (総合) レポートによる。
- 連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋哲学思想論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 脇條靖弘 | | | | |

- 授業の概要 古代ギリシアの哲学関連の文献を読む。／検索キーワード 古代ギリシア哲学
- 授業の一般目標 文献を正確に読み、そこに見られる哲学的議論を整理し、評価する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：文献を正確に読む。 思考・判断の観点：文献の議論を哲学的に考察する。
- 授業の計画（全体） 取り上げる文献は未定。
- 成績評価方法（総合） レポートによる。
- 連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋倫理思想論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 古荘真敬 | | | | |

- 授業の概要 人間として生まれ、生き、死に逝く・・・とは、いったいどういうことなのだろうか。幾人かの論者たちによる問題提起を検討しながら、私たちの「生」と「死」をめぐる若干の原理的考察を試みたい。
- 授業の一般目標 生・死という観念のうちに映る私たちの現実を、哲学的に掘り下げる。
- 授業の計画（全体） 生と死をめぐる展開された幾つかの論考を紹介し、批判的に検討していく。
- 成績評価方法（総合） 期末レポートで評価する。
- 教科書・参考書 教科書：教科書は用いないが、授業中に指示する参考書を各自積極的に読解することが望ましい。／参考書：『無為の共同体』, J.-L. ナンシー, 以文社, 2001 年；『ホモ・サケル』, G. アガンベン, 以文社, 2003 年；『私的所有論』, 立岩真也, 勁草書房, 1997 年；その他、適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋倫理思想論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 古荘真敬 | | | | |

- 授業の概要 人間として生まれ、生き、死に逝く・・・とは、いったいどういうことなのだろうか。幾人かの論者たちによる問題提起を検討しながら、私たちの「生」と「死」をめぐる若干の原理的考察を試みたい。
- 授業の一般目標 前期の授業に引き続き、生・死という観念のうちに映る私たちの現実を、哲学的に掘り下げる。
- 授業の計画（全体） 前期の授業に引き続き、生と死をめぐる展開された幾つかの論考を紹介し、批判的に検討していく。
- 成績評価方法（総合） 期末レポートで評価する。
- 教科書・参考書 教科書：教科書は用いないが、授業中に指示する参考書を各自積極的に読解することが望ましい。／参考書：『無為の共同体』, J.-L. ナンシー, 以文社, 2001 年；『ホモ・サケル』, G. アガンベン, 以文社, 2003 年；『私的所有論』, 立岩真也, 勁草書房, 1997 年；その他、適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋倫理思想論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 菊地恵善 | | | | |

- 授業の概要 現代哲学に大きな影響を与えた哲学者ニーチェ（1844?1900）を取り上げ、認識論や存在論や倫理学などの基礎に対する、その根本的な問い直しの意義を検証する。特に、その後期の遺稿に注目して、そこにかがわれる思索の方向を見定めたい。／検索キーワード 価値、解釈、存在
- 授業の一般目標 テキストを読み解くことと、自分で考えることとを結びつけること。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：哲学的な問いを理解すること。 思考・判断の観点：その問いに参加して、自分の思考を進めること。
- 授業の計画（全体） おおよそ次の四つの段階で講義を進める。1．ニーチェの道徳批判、2．力への意志と遠近法主義、3．力への意志と永遠回帰思想の関連、4．現代哲学への影響。
- 成績評価方法（総合） レポートによる。但し、講義回数の半分以上に出席した者のみにレポート提出を認める。
- 教科書・参考書 教科書： 特になし。／参考書： ニーチェ全集（ちくま学芸文庫）など。
- 備考 集中授業

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋倫理思想論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 古荘真敬 | | | | |

- 授業の概要 西洋の哲学・倫理思想に関する研究発表（または文献報告）と討議を行う。
- 授業の一般目標 哲学・倫理学の諸問題に関して、各自の問いの水準を深化し、専門的な知見にもとづく議論を構成すること。
- 授業の計画（全体） 毎回、担当者による発表と、受講者全員による討議を行う。
- 成績評価方法（総合） 授業内レポートによって評価する。
- 教科書・参考書 教科書：未定。受講者の課題にふさわしいものを適宜選択していく。／参考書：適宜指示する。
- 連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋倫理思想論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 古荘真敬 | | | | |

- 授業の概要 西洋の哲学・倫理思想に関する研究発表（または文献報告）と討議を行う。
- 授業の一般目標 哲学・倫理学の諸問題に関して、各自の問いの水準を深化し、専門的な知見にもとづく議論を構成すること。
- 授業の計画（全体） 毎回、担当者による発表と、受講者全員による討議を行う。
- 成績評価方法（総合） 授業内レポートによって評価する。
- 教科書・参考書 教科書：未定。受講者の課題にふさわしいものを適宜選択していく。／参考書：適宜指示する。
- 連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国哲学思想論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 高木智見 | | | | |

- 授業の概要 時代・地域・民族という三重の意味で異文化世界に属する先秦時代を共感的追体験的に理解する。そのために、当時の儀礼や習俗を復元し、それらを支えていた観念を明らかにする。史料の面では、伝来文献と出土資料を有機的に関連させて分析を進める。今年度は、国君の機能を分析して、中国における国家共同体の原像をさぐる。／検索キーワード 古代中国 国家共同体 金文
- 授業の一般目標 講義を通じて、つまり史料の解読を通じて、先秦時代というはるか彼方の世界の人々が作りあげていた社会に入り込み、実際に体験して、再び現代世界に戻ってくるといった実感を持つことが出来るようにしたい。先秦時代は、中国文化の「核心」が形成された時期であり、この時代に対する十全な理解がなければ、真の意味での中国理解はできない、というのが私の考えである。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 左伝や国語などの伝来文献、金文や木竹簡などの出土文献を日常的に読むことによって、史料から何をどのように汲み取るのかということを理解する 思考・判断の観点： 構想に基づき史料を読み込み、立論していく過程を示し、研究論文作成に必要な一連の事柄を理解する 関心・意欲の観点： 思想史学、歴史学、文学、考古学のいずれの分野であろうと、古代中国の様々な事象に対して、興味を感じることができるようになる。
- 授業の計画（全体） 当時の人々の観念の中における社会のイメージを明らかにし、特に君主の役割、民衆との関係などに焦点を当てて、中国における国家共同体の原初的なあり方について考える。この問題についても、春秋時代以前と戦国時代以降において、その性格や様相が全く異なっていたことを確認することになると思われる。今年度は、とくに中国の研究者 晁福林氏の研究を意識して授業を進める。
- 成績評価方法（総合） レポートにおけるテーマの選択、構想力、論理力などを見て、総合的に判断する
- 教科書・参考書 教科書： なし。プリント配布／参考書： 講義の中で指示
- メッセージ 何を語っているのかではなく、史料をどのように読み、そこから何を語ろうとしているのか、その過程を見ていただきたい。
- 連絡先・オフィスアワー 人文5階 金曜日15時から16時

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国哲学思想論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 高木智見 | | | | |

- 授業の概要 前期と同じ／検索キーワード 前期と同じ
- 授業の一般目標 前期と同じ
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 前期と同じ 思考・判断の観点： 前期と同じ 関心・意欲の観点： 前期と同じ
- 授業の計画（全体） 前期と同じ
- 成績評価方法（総合） 前期と同じ
- 教科書・参考書 教科書： なし プリント配布／ 参考書： 講義の中で指示
- メッセージ 前期と同じ
- 連絡先・オフィスアワー 人文棟5階 金曜15時から16時

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国哲学思想論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 李 承律 | | | | |

●授業の概要 戦国楚簡研究は、中国古代研究に従事する者なら誰もが認めるように、中国古代の思想・歴史・文化研究において最先端の研究分野の一つと言える。本授業では、現在公表されている大量の戦国楚簡の中でも、最も注目されている上海博物館蔵戦国楚竹書（以下、上海博楚簡と略称）、その中でも特に第2冊目に収録されている『容成氏』について講義する。上海博楚簡は、1994年香港の文物市場で発見された竹簡群であるが、現在上海博物館で順次整理・刊行されている、古代思想史研究に非常に貴重な資料である。枚数は全部で約1,200余枚とされているが、まだその3分の1しか公表されていない。その中には、『周易』のように後に儒教経典の一つに数えられるものも含まれているが、その大部分はすでに散逸して今日伝わらない古佚書である。その古佚書は、大ざっぱに分けると、六経関連の文献と諸子関連の文献とに二別される。また諸子関連の文献はさらに儒家系の文献、道家系の文献、兵家の文献などに分類することができる。今回取り上げる『容成氏』は、諸子関連の文献中の儒家系の文献に属するものと考えられるが、戦国時代に古代人が書いた中国古代王朝史である点において極めて珍奇な文献である。今回の講義では、その具体的な内容は勿論、いつ、誰が、何のためにこのようなものを書いたのかについても一緒に考える機会を設けたい。／検索キーワード 出土資料、楚簡、上海博物館蔵戦国楚竹書、上海博楚簡、上博楚簡、郭店楚墓竹簡、郭店楚簡、中国、古代、思想史、古代王朝史、容成氏、堯舜禹、啓、桀、湯、受、紂、文王、武王、禪讓、篡奪、放伐、誅伐

●授業の一般目標 1. 本授業のメインテーマに入る前に楚簡とは何か、ひいては出土資料とは何かを知る。 2. 楚簡研究は、単に楚簡を読むだけで終わるのではなく、文献資料と比較考察することによってはじめて楚簡そのものの価値やその資料的性格、位置づけ、研究意義などが判明することを理解する。 3. 楚簡を研究することが今後の中国古代思想史研究においてどれほど重要なのか、その価値を認める。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 出土資料（特に楚簡）研究の必要性や重要性を説明できる。 2. 文献資料とどのように関係づけられるかその方法論を習得する。 思考・判断の観点： 1. 文献資料のみによってなされた従来の中国古代思想史研究の諸問題を指摘する。 2. 出土資料を用いて中国古代思想史を再構築することができる。 関心・意欲の観点： 1. 出土資料を利用した新しい中国古代思想史研究に興味を持つ。 態度の観点： 1. 既存の研究成果を無批判的に鵜呑みにする研究態度を止揚し、研究する側の主体性を確立する。 2. 常に「発想の転換」に心がける。

●授業の計画（全体） まず最初に楚簡を中心とした出土資料の概況について説明し、次に上海博楚簡『容成氏』について講義する。上海博楚簡『容成氏』には中国古代王朝の興亡盛衰の歴史が書かれているが、具体的には、(1)「〔尊〕盧氏・赫胥氏・高辛氏(?)・倉頡氏・軒轅氏・神農氏・渾沌氏・包羲氏」の八名の古帝王の時代（第53号簡背面の「容成氏」を含むと九名あるいはそれ以上）、(2)「□□氏」の時代、(3)逸名の帝王の時代（竹簡の残欠や散逸のため帝王の名は未詳）、(4)「堯」の時代、(5)「舜」の時代、(6)「禹」の時代、(7)「啓」による王位篡奪事件、(8)「桀」の虐政、(9)「湯」の放伐、(10)「受」(=紂)の無道、(11)「文王」の補佐、(12)「武王」の誅伐、の順に書かれている。これを大ざっぱにまとめると、禪讓→篡奪→誅伐の歴史が書かれているわけであるが、本講義では文献資料や他の出土資料（例えば郭店楚簡）と比較しながら、その歴史叙述や歴史観、思想的特徴、思想史的位置・意義などについて説明する。

●成績評価方法（総合） 1. 毎回質問要旨に質問を書いて提出する。

●教科書・参考書 教科書：『上海博物館蔵戦国楚竹書（二）』，馬承源主編，上海古籍出版社，2002年／参考書： 1. 李承律「先秦古佚書の宝庫（信陽楚簡・郭店楚簡・上海楚簡）」（『東方』276、2004年2月） 2. 李承律「上海博物館蔵戦国楚竹書『容成氏』の古帝王帝位継承説話研究」（『大巡思想論叢』17、韓国、大巡思想学術院、2004年6月） 3. 李承律「上海博楚簡『容成氏』の堯舜禹禪讓の歴史」（『中国研究集刊』36、2004年12月） 4. 姜広輝「上博蔵簡『容成氏』的思想史意義—上海博物館蔵戦国楚竹書（二）《容成氏》初読印象札記—」（簡帛研究網站、2003年1月9日） 5. 李存山「反思經史關係：從“啓

攻益”説起」(簡帛研究網站、2003年1月20日／『中国社会科学』2003-3、2003年5月／『中国哲学』2003-8、2003年8月) 6. 趙平安「楚竹書《容成氏》的篇名及其性質」(饒宗頤主編『華學』6、2003年6月) 7. 邱德修「從上博〈容成氏〉簡揭開大禹治水之謎」(簡帛研究網站、2003年1月31日) 8. 晏昌貴「上博簡《容成氏》九州東積」(簡帛研究網站、2003年4月6日) 9. 朱淵清「禹画九州論」(簡帛研究網站、2003年8月2日) 10. 陳偉「禹之九州与武王伐商的路綫—以竹書(容成氏)為例看楚簡的資料的價值—」(『國際シンポジウム「アジア地域文化学の構築」資料集』、早稲田大学21世紀COEプログラム アジア地域文化エンハンシング研究センター、2003年12月) 11. 陳偉「竹書《容成氏》共、滕二地小考」(『文物』2003-12、2003年12月) 12. 朱淵清・廖名春主編『上博館藏戰国楚竹書研究続編』(上海書店出版社、2004年7月)所収の『容成氏』關係論文 13. 浅野裕一「孔子は『易』を学んだか?—新出土資料による古代中国思想史の再検討」(『図書』656、2003年12月／『戦国楚系文字資料の研究』、平成12年度～平成15年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書、2004年3月／浅野裕一・湯浅邦弘『諸子百家〈再発見〉掘り起こされる古代中国思想』、岩波書店、2004年8月) 14. 浅野裕一「上博楚簡『容成氏』における禪讓と放伐」(『中国研究集刊』36、2004年12月)

●連絡先・オフィスアワー sungryul@hotmail.com

●備考 集中授業

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国哲学思想論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 林文孝 | | | | |

- 授業の概要 理想的人格像とそこに到達するための方法論について、中国伝統思想がどのように論じてきたのかを、儒・仏・道三教の異同という観点をふまえて考察する。
- 授業の一般目標 1. 中国思想（中世・近世を中心とする）における諸問題について、その諸側面と意義について自分なりの理論的考察を行う。 2. 儒・仏・道三教にわたる視野をもち、上記の考察に適用する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 講義で扱われる問題について、その諸側面を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 特定の問題をめぐる思想間の異同を、それぞれの思想の特質や特定の社会的・歴史的条件などに関係づけることができる。 2. 特定の問題について、思想間の異同をふまえつつ原理的なレベルで独自の考察を行うことができる。 関心・意欲の観点： 1. 一つの問題をめぐる多様な考え方の存在に関心をもつ。
- 授業の計画（全体） 序論において問題意識を述べた後、重要な原典資料を取り上げてその思想内容を読みとり、儒教、道教、仏教の諸側面と相互関係をあわせて確認していく。質疑応答と討論を随時行い、理解を深めていく。
- 成績評価方法（総合） 期末レポート 80 %、質疑応答・討論への参加 20 %。
- 教科書・参考書 教科書： なし。資料を適宜配布する。／参考書： 適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 5 階

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国哲学思想論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 林文孝 | | | | |

- 授業の概要 前期に引き続き、理想的人格像とそこに到達するための方法論について、中国伝統思想がどのように論じてきたのかを、儒・仏・道三教の異同という観点をふまえて考察する。
- 授業の一般目標 1. 中国思想（中世・近世を中心とする）における諸問題について、その諸側面と意義について自分なりの理論的考察を行う。 2. 儒・仏・道三教にわたる視野をもち、上記の考察に適用する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 講義で扱われる問題について、その諸側面を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 特定の問題をめぐる思想間の異同を、それぞれの思想の特質や特定の社会的・歴史的条件などに関係づけることができる。 2. 特定の問題について、思想間の異同をふまえつつ原理的なレベルで独自の考察を行うことができる。 関心・意欲の観点： 1. 一つの問題をめぐる多様な考え方の存在に関心をもつ。
- 授業の計画（全体） 前期の内容を概括した後、重要な原典資料を取り上げてその思想内容を読みとり、儒教、道教、仏教の諸側面と相互関係をあわせて確認していく。質疑応答と討論を随時行い、理解を深めていく。
- 成績評価方法（総合） 期末レポート 80 %、質疑応答・討論への参加 20 %。
- 教科書・参考書 教科書： なし。資料を適宜配布する。／参考書： 適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 5 階

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国哲学思想論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 高木智見 | | | | |

- 授業の概要 現代中国を代表する古代中国史家、晁福林氏の『先秦社会形態研究』から論文選び精読する。
／検索キーワード 古代中国、考古学、甲骨文、金文、
- 授業の一般目標 古代中国研究に必要な古代漢語、現代漢語の読解能力は言うまでもなく、論文作成に求められる史料解釈、史料操作、立論の方法などについての基本的知識を摂取する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 現代中国語で書かれた論文を、難読のものでも読みこなすことが出来る。 思考・判断の観点： 論者の立場に立って論旨を理解した後、自分の頭でその是非を判断できるようになる。 関心・意欲の観点： 中国人研究者の研究に対して、抵抗感無く接することが出来るような意欲を引き出す。
- 授業の計画（全体） 受講者と相談の上、適当な論文を選定して、順次読み進める。言うまでもなく、引用史料は、原典に当たって作者の理解が妥当であるか確認しつつ読む。
- 成績評価方法（総合） 毎回の受講態度とレポートの出来による。
- 教科書・参考書 教科書： プリント配布／ 参考書： その都度指示
- メッセージ 正確にかつ速くよむことが求められる
- 連絡先・オフィスアワー 人文棟5階 金曜日15時から16時

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国哲学思想論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 高木智見 | | | | |

- 授業の概要 前期と同じ／検索キーワード 前期と同じ
- 授業の一般目標 前期と同じ
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 前期と同じ 思考・判断の観点： 前期と同じ 関心・意欲の観点： 前期と同じ
- 授業の計画（全体） 前期と同じ
- 成績評価方法（総合） 前期と同じ
- 教科書・参考書 教科書： 前期と同じ／ 参考書： 前期と同じ
- メッセージ 前期と同じ
- 連絡先・オフィスアワー 人文棟5階 金曜日 15時から16時

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国哲学思想論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 林文孝 | | | | |

- 授業の概要 中国思想史の史料を、必要な手順を踏んで厳密に読解していく。
- 授業の一般目標 中国思想分野において、独力での研究遂行に堪えうる読解・分析能力を養う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 古代漢語あるいは現代漢語のやや難しい文章について、独力でもほぼ正しい読解ができる。2. 中国思想史の史料読解に必要な作業手順を体得できる。思考・判断の観点：1. 史料に語られた思想を再構成できる。2. 史料に即して、対象とした思想の含意や可能性を分析できる。態度の観点：1. 難解な史料にも主体性をもって取り組む。
- 授業の計画（全体） 第1回に顔合わせ、進め方の打ち合わせ等を行い、第2回から演習に入る。
- 成績評価方法（総合） 平常の読解作業と参加態度をもって評価する。
- 教科書・参考書 教科書：コピーを配布する。／参考書：必要に応じて紹介する。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国哲学思想論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 林文孝 | | | | |

- 授業の概要 中国思想史の史料を、必要な手順を踏んで厳密に読解していく。
- 授業の一般目標 中国思想分野において、独力での研究遂行に堪えうる読解・分析能力を養う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 古代漢語あるいは現代漢語のやや難しい文章について、独力でもほぼ正しい読解ができる。2. 中国思想史の史料読解に必要な作業手順を体得できる。思考・判断の観点：1. 史料に語られた思想を再構成できる。2. 史料に即して、対象とした思想の含意や可能性を分析できる。態度の観点：1. 難解な史料にも主体性をもって取り組む。
- 授業の計画（全体） 第1回に顔合わせ、進め方の打ち合わせ等を行い、第2回から演習に入る。
- 成績評価方法（総合） 平常の読解作業と参加態度をもって評価する。
- 教科書・参考書 教科書：コピーを配布する。／参考書：必要に応じて紹介する。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本思想論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 豊澤 一 | | | | |

- 授業の概要 受講者の研究テーマ、希望するテーマにしたがって、講義内容を決定します。また、インタラクティブな講義の試行をいたします。
- 授業の一般目標 人文科学研究科における研究テーマの深化。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：受講者の研究テーマ、希望するテーマに従いますので、予め設定することはいたしません。思考・判断の観点：受講者の研究テーマ、希望するテーマに従いますので、予め設定することはいたしません。関心・意欲の観点：インタラクティブな講義を試行しますので、受講者の積極的な意欲・関心を必須とします。態度の観点：インタラクティブな講義を試行しますので、受講者の積極的な態度を必須とします。技能・表現の観点：受講者の研究テーマ、希望するテーマに従いますので、予め設定することはいたしません。
- 授業の計画（全体）受講者の研究テーマ、希望するテーマにしたがって講義内容を決定しますので、計画は、受講者が決まり次第、相談の上組み立てます。
- 成績評価方法（総合）学期末に、各自のテーマにしたがって、レポート（1年生は修士論文1章分、2年生は修士論文2章分）を提出してください（100%）。
- 連絡先・オフィスアワー 大抵、研究室におりますので、電話で（あるいは e-mail で）在室を確認してからご来室ください。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本思想論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 豊澤一 | | | | |

- 授業の概要 前期同様、受講者の研究テーマ、希望するテーマにしたがって、講義内容を決定します。また、インタラクティブな講義の試行をいたします。
- 授業の一般目標 人文科学研究科における研究テーマの深化。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 前期同様、受講者の研究テーマ、希望するテーマに従いますので、予め設定することはいたしません。 思考・判断の観点： 前期同様、受講者の研究テーマ、希望するテーマに従いますので、予め設定することはいたしません。 関心・意欲の観点： 前期同様、インタラクティブな講義を試行しますので、受講者の積極的な意欲・関心を必須とします。 態度の観点： 前期同様、インタラクティブな講義を試行しますので、受講者の積極的な態度を必須とします。 技能・表現の観点： 前期同様、受講者の研究テーマ、希望するテーマに従いますので、予め設定することはいたしません。
- 授業の計画（全体） 前期同様、受講者の研究テーマ、希望するテーマにしたがって講義内容を決定しますので、計画は、受講者が決まり次第、相談の上組み立てます。
- 成績評価方法（総合） 前期同様、学期末に、各自のテーマにしたがって、レポート（1年生は修士論文1章分、2年生は修士論文2章分）を提出してください（100%）。
- 連絡先・オフィスアワー 大抵、研究室にありますので、電話で（あるいは e-mail で）在室を確認してからご来室ください。

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本思想論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 柏木寧子 | | | | |

- 授業の概要 —古代・中世日本倫理思想史研究— 古代・中世日本の倫理思想史における基本的文献を読み解きつつ、人とは何か、人の生の拠りどころは何か、といった問いをめぐる倫理的思索の実態を探究します。今年度はとくに〈物語〉という思想形態がもつ意味について、具体的テキストの読解と哲学的・倫理的物語論とを併せ、考えていく予定です。／検索キーワード 古代・中世日本倫理思想史
- 授業の一般目標 古代・中世日本倫理思想史について、知識・理解を深め、関心を広げること。
- 授業の計画（全体） 毎回具体的な文献を読み、その思想解明を試みます。受講者には、あらかじめテキストが指示されている場合にはそれを読み、問題意識を明確にして授業に臨むこと、また、授業のおわりの10分程度で小レポートを書き提出すること、が求められます。
- 成績評価方法（総合）(1) 授業内の小レポート。(2) 期末試験。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。
- 教科書・参考書 教科書：プリントを配付する予定です。／参考書：参考文献は随時授業中に紹介します。
- 連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4階 410 研究室

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本思想論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 豊澤一 | | | | |

- 授業の概要 受講者と相談の上、講義内容を決定します。
- 成績評価方法 (総合) 受講者のテーマ等に応じて、適宜、対応します。一応、期末レポート 50 %，出席 50 %としておきます。
- 連絡先・オフィスアワー 大抵、研究室にありますので、電話で（あるいは e-mail で）在室を確認してからご来室ください。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本思想論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 豊澤一 | | | | |

- 授業の概要 前期を参照。
- 授業の一般目標 前期を参照
- 授業の計画（全体） 前期を参照
- 成績評価方法（総合） 前期を参照
- 連絡先・オフィスアワー 大抵、研究室にありますので、電話で（あるいは e-mail で）在室を確認してからご来室ください。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本思想論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 柏木寧子 | | | | |

- 授業の概要 ー日本思想史の諸問題ー 受講生の関心に従って、日本思想史における基本的文献を採り上げ、主として内在的読解に拠り、併せて関連文献・先行研究の検討も行いながら、その思想内容を具体的に解明する。／検索キーワード 内在的読解
- 授業の一般目標 日本思想史に関わる知識・理解をもち、内在的研究の方法を学び習得するとともに、自らの関心に従って問いを発見・追求すること。
- 授業の計画（全体） 受講者と相談の上決定する。
- 成績評価方法（総合）(1) 授業時間内の報告（演習）。(2) 期末レポート。
- 教科書・参考書 教科書： 受講者と相談の上決定する。
- 連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本思想論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 柏木寧子 | | | | |

- 授業の概要 ー日本思想史の諸問題ー 受講生の関心に従って、日本思想史における基本的文献を採り上げ、主として内在的読解に拠り、併せて関連文献・先行研究の検討も行いながら、その思想内容を具体的に解明する。／検索キーワード 内在的読解
- 授業の一般目標 日本思想史に関わる知識・理解をもち、内在的研究の方法を知り習得するとともに、自らの関心に従って問いを発見・追求すること。
- 授業の計画（全体） 受講者と相談の上決定する。
- 成績評価方法（総合）(1) 授業時間内の報告（演習）。(2) 期末レポート。
- 教科書・参考書 教科書： 受講者と相談の上決定する。
- 連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 比較宗教論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | ジュマリ・アラム | | | | |

- 授業の概要** 今年度前期の特殊講義は「宗教と女性」をテーマとする。次のような問いを扱う。シャーマン（巫女など）や呪術師・妖術師（魔女など）の担い手とされるのはなぜ女性が多いのか？なぜ「母なる大地」と呼ばれるのか？男神にはなぜ、その力を上回る神妃や女神が常につくのか？性差と宗教的な表現には、何か相関関係があるのか？男性は、女性に何の宗教的・神秘的な力を見るのか？彼らは何を恐れて女性を支配したがるのか？／検索キーワード 宗教、女性、シャーマン、巫女、呪術、妖術、魔女、女神、神秘、性差
- 授業の一般目標** 「宗教と女性」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。
- 授業の到達目標**／ 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。
- 授業の計画（全体）** 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性と印象の面を重視する。毎回の授業は、およそ以下三つのパートからなる。・映像（VHS／DVD）・解説・フリーディスカッション
- 成績評価方法（総合）** 1. 出席は10回を単位取得の条件とする。 2. 中間レポートを一回課す。 3. 学期末の試験期間中に最終レポートを課す。
- 教科書・参考書** 教科書：授業のレジメを毎回配布する／参考書：参考書は授業中に適宜案内する
- メッセージ** 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。
- 連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 比較宗教論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | ジュマリ・アラム | | | | |

- 授業の概要** 今年度前期の特殊講義は「宗教と女性」をテーマとする。次のような問いを扱う。シャーマン（巫女など）や呪術師・妖術師（魔女など）の担い手とされるのはなぜ女性が多いのか？なぜ「母なる大地」と呼ばれるのか？男神にはなぜ、その力を上回る神妃や女神が常につくのか？性差と宗教的な表現には、何か相関関係があるのか？男性は、女性に何の宗教的・神秘的な力を見るのか？彼らは何を恐れて女性を支配したがるのか？／検索キーワード 宗教、女性、シャーマン、巫女、呪術、妖術、魔女、女神、神秘、性差
- 授業の一般目標** 「宗教と女性」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。
- 授業の到達目標**／ 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。
- 授業の計画（全体）** 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性と印象の面を重視する。毎回の授業は、およそ以下三つのパートからなる。・映像（VHS／DVD）・解説・フリーディスカッション
- 成績評価方法（総合）** 1. 出席は10回を単位取得の条件とする。 2. 中間レポートを一回課す。 3. 学期末の試験期間中に最終レポートを課す。
- 教科書・参考書** 教科書：授業のレジメを毎回配布する／参考書：参考書は授業中に適宜案内する
- メッセージ** 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。
- 連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部413号室

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 比較宗教論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 白川 琢磨 | | | | |

●授業の概要 宗教は私たちの社会的現実 (social reality) の重要な一角を構成している。今日、私たちは「神社」や「寺院」といった長く慣れ親しんだ宗教環境の下で、神の前では拍手し、仏の前では合掌するという「当たり前」の行為を繰り返しているが、こうした習慣は一体いつ形成され、そこから導かれる漠然とした神仏の観念はどのように構成されてきたのか。宗教人類学は宗教を鍵概念として社会や文化を読み解いていく知の営みである。まず世界宗教のうち、私たちにとって異質性の大きいユダヤ教－キリスト教－イスラム教といった預言者型一神教を概説し、その論理構造を文化的背景をもとに捉えていく。次にそれと対比させるヒンドゥー教－仏教というアジア宗教の特徴を述べ、最後にそうした知識を前提に日本宗教を位置づけ、「神」と「仏」の関係を軸に身近なフィールドから解明していく。フィールド調査の具体的な手順や実践を習得することも目標の一つである。／検索キーワード 宗教人類学、世界宗教、フィールド調査、神仏分離、神仏習合

●授業の一般目標 世界宗教と呼ばれる主な宗教について概略的な知識を身につけ、曖昧とされる日本人の宗教及び宗教観を、客観的に位置づけることが第一目標である。次に、神仏分離という日本の近代化に関わる宗教変革がどのように行なわれたか、そしてそれが私たちの宗教観をどのように構成しているかを考える。そして、答えの定まらない問いかけに答えていく一つのやり方として、フィールド調査の手順を学び、実践する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：世界宗教に対する知識と理解を図り、日本宗教の客観的な位置づけができること。思考・判断の観点：神仏習合・神仏分離といった宗教史上の出来事が日本宗教の構成にいかに関連しているかを思考する。政教分離や靖国問題などに対して客観的な論理的思考に基く判断ができるかを目標とする。関心・意欲の観点：身近な宗教環境にいかに関心を持ち、具体的なフィールド調査でどの位各自が設定した問題を明らかにできるかを目標とする。態度の観点：授業中の質問や態度。

●授業の計画（全体）全体を3段階に分け、まず、講義によって世界宗教を概説する。預言者型一神教の共通性と分岐を把握し、次に、アジア宗教のあり方を対比する。3段階目に応用問題として、日本宗教を取り上げる。ここからは質疑時間を拡大する。神仏分離・神仏習合の概略的な説明を終了し、各自が調査課題を提出し、調査計画を策定する。各自の調査結果を報告し、質疑を踏まえて、各自の調査レポートを提出する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 世界宗教 内容 宗教とは何か？
- 第 2 回 項目 世界宗教 内容 アブラハム信仰の論理と構造
- 第 3 回 項目 世界宗教 内容 ユダヤ教とキリスト教
- 第 4 回 項目 世界宗教 内容 イスラム教と西欧社会
- 第 5 回 項目 世界宗教 内容 ヒンドゥー＝仏教とアジア社会 授業外指示 第 1 回レポート提出
- 第 6 回 項目 日本宗教 内容 日本宗教をどう捉えるか？
- 第 7 回 項目 日本宗教 内容 「靈魂」と「死」の関係
- 第 8 回 項目 日本宗教 内容 仏教と神道
- 第 9 回 項目 日本宗教 内容 神仏分離と現代社会
- 第 10 回 項目 日本宗教 内容 神仏習合と宗教民俗 授業外指示 第 2 回レポート提出
- 第 11 回 項目 宗教民俗調査の実践 内容 フィールド調査の手順
- 第 12 回 項目 宗教民俗調査の実践 内容 宗教民俗の調査事例
- 第 13 回 項目 宗教民俗調査の実践 内容 調査報告と質疑 (1)
- 第 14 回 項目 宗教民俗調査の実践 内容 調査報告と質疑 (2)
- 第 15 回 項目 宗教民俗調査の実践 内容 全体のまとめと総括 授業外指示 調査レポートの提出

- 成績評価方法 (総合) レポートが70%、質疑が20%、出席・態度その他を10%で評価する。
- 教科書・参考書 教科書：教科書は用いない。授業中に適宜プリントを配布する。理解を深めるために一部ビデオ教材も使用する。／参考書：宗教人類学入門, 関一敏・大塚和夫編, 弘文堂, 2004年；カミとヒトの解剖学, 養老孟司, ちくま学芸文庫, 2002年；Seven Theories of Religion, Pals, D.L., Oxford U.P., 1996年；神々の明治維新—神仏分離と廃仏毀釈, 安丸良夫, 岩波新書, 1979年；フィールドワーク—書を持って街へ出よう, 佐藤郁哉, 新曜社, 1992年；その他、授業の中で適宜紹介する。
- メッセージ 強い関心と意欲をもった学生の履修を望みます。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail: tshirak@cis.fukuoka-u.ac.jp
- 備考 集中授業

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 比較宗教論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | ジュマリ・アラム | | | | |

- 授業の概要 この演習は、宗教研究に関する論文を作成するための、ガイダンスと相互の情報交換・ディスカッションを主な内容とする。テーマの選定から論文の作成に至るまでの各段階において、順番にプレゼンテーションを行う。／検索キーワード 宗教、宗教学、記述、説明、資料、比較研究、研究方法、方法論
- 授業の一般目標 宗教研究に関する論文の作成とプレゼンテーションの実践練習を行い、研究内容の充実と高度化を図る。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 態度の観点：宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。
- 授業の計画（全体） 毎回の授業（初回と最終回は多少異なる）は、次のようなかたちで進める（多少の工夫や変更はありうる）。(1) 当日のテーマのプレゼンテーション、コメント、ディスカッション (2) 次回テーマのプロポーサルの発表・紹介
- 教科書・参考書 教科書：使用しない。／参考書：テーマに沿って、適宜案内する。
- 連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 比較宗教論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | ジュマリ・アラム | | | | |

- 授業の概要 この演習は、宗教研究に関する論文を作成するための、ガイダンスと相互の情報交換・ディスカッションを主な内容とする。テーマの選定から論文の作成に至るまでの各段階において、順番にプレゼンテーションを行う。／検索キーワード 宗教、宗教学、記述、説明、資料、比較研究、研究方法、方法論
- 授業の一般目標 宗教研究に関する論文の作成とプレゼンテーションの実践練習を行い、研究内容の充実と高度化を図る。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 態度の観点：宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。
- 授業の計画（全体） 毎回の授業（初回と最終回は多少異なる）は、次のようなかたちで進める（多少の工夫や変更はありうる）。(1) 当日のテーマのプレゼンテーション、コメント、ディスカッション (2) 次回テーマのプロポーサルの発表・紹介
- 教科書・参考書 教科書：使用しない。／参考書：テーマに沿って、適宜案内する。
- 連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本歴史文化論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 橋本義則 | | | | |

●授業の概要 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した8世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでしかないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず8世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象をおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。／検索キーワード 日本古代史、貴族社会、喪葬、墳墓

●授業の一般目標 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度とその成立の経緯を理解することを通じて、日本古代の貴族社会について理解を深める。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：古代の喪葬制度とその背景にある政治・社会状況を説明できる。
 思考・判断の観点：史料や資料を用いて、古代貴族社会の実態を論理的に解釈する能力を身につける。
 関心・意欲の観点：古代貴族社会に関心・興味を抱く。学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。態度の観点：1, 古代の史料・資料を博搜し、正しく解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。授業計画【概要・授業の目標(予定)】

●授業の計画(全体) 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した8世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでしかないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず8世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象をおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。

●成績評価方法(総合) 1. 学期末にレポートを提出する。2. レポートの分量と内容については別途指示する。

●教科書・参考書 教科書：指定されたホームページにアクセスして講義レジュメをダウンロードする必要がある。／参考書：授業中に適宜指摘する。

●メッセージ 日本史概説を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代についてやや詳しい知識をもっていることが望ましい。また講義レジュメのダウンロードと受講のためにノートパソコンが必携である。

●連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本歴史文化論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 田中俊明 | | | | |

- 授業の概要 朝鮮古代王都の研究。 朝鮮三国、具体的には高句麗・百濟・新羅のそれぞれの王都について、その立地・構造、定都の経緯、政治的背景などについて詳述し、三国の国家史の変遷のなかに位置づける。また東アジア都城制における位置づけにもふれる。／検索キーワード 朝鮮古代、高句麗、百濟、新羅、王都
- 授業の一般目標 (1) 朝鮮古代史の基礎知識を身につけ、現在の課題を知る。(2) 東アジアにおける普遍性・特殊性などについての認識を高める。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 朝鮮古代史の概要を理解することができる。 思考・判断の観点： 諸問題について自分の意見を述べるができる。 関心・意欲の観点： 朝鮮史に関する問題意識を高めることができる。 態度の観点： 朝鮮との関わりについて再認識できる。
- 授業の計画(全体) 1, 高句麗の建国と卒本、2, 高句麗の国内遷都、3, 高句麗の平壤遷都、4, 高句麗長安城の築造、5, 百濟の建国と漢城、6, 百濟の熊津遷都、7, 百濟の泗=遷都、8, 泗=王都の都市構造、9, 新羅王京の成立、10, 新羅王京の改造、11, 新羅人の王京生活、12, 新羅五小京の意義、13, 三国王都の比較、14, 東アジア都城制における位置づけ
- 備考 集中授業

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本歴史文化論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 真木隆行 | | | | |

●授業の概要 鳥羽法皇の生涯とその呪術的世界についてお話する。いわゆる「院政時代」の3代の院権力、白河—鳥羽—後白河のうち、白河院政期はその最初として注目される。また後白河院政期は、平氏政権・鎌倉幕府が成立する激動の時代であった。ところが、その間にはさまれた鳥羽院政の政治史的な位置づけは必ずしも明確ではなく、その前後に比して一般的な注目度も高くはない。そこで本講義では、鳥羽法皇の前半生（＝白河院政期後半）とその後半生（鳥羽院政期）に注目し、とりわけその呪術的世界や宗教勢力の動向を捉えながら、中世初頭における王権の動向の一端を明らかにしたい。

●授業の一般目標 白河院政後期および鳥羽院政期の歴史的な位置について、理解を深める。

●授業の計画（全体） 当面、以下の時期ごとに検討したい。(1) 鳥羽天皇即位以前 (2) 鳥羽天皇在位期 (3) 白河院政下の鳥羽上皇 (4) 鳥羽院政期前半（出家以前） (5) 鳥羽院政期後半（出家以後） (6) 鳥羽法皇の死と保元の乱 (7) 鳥羽法皇の追善仏事 今期は (1)～(3) を中心に講義を行いたい。

●成績評価方法 (総合) 授業内レポートと期末レポートによって評価する。

●教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。／参考書：講義時間中に紹介する。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本歴史文化論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 武田佐知子 | | | | |

●備考 集中授業

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本歴史文化論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 横田冬彦 | | | | |

●授業の概要 この講義の主題は、「日本近世の出版文化と村落社会」である。近世の出版文化は、これまで町人文化とみなされてきた。しかし兵農分離にもとづく近世村落社会もまた、村役人をはじめとした読書階層をもっていた。これら村落読者層の実像と、彼らの読書行為の意味について論じたい。キーワード：近世村落、書物史、読者論、ナショナリズム

●教科書・参考書 参考書：日本の歴史16 天下泰平, 横田冬彦, 講談社, 2002年

●備考 集中授業

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本歴史文化論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 橋本義則 | | | | |

- 授業の概要 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。／検索キーワード よりよい修士論文の作成を目指す。
- 授業の一般目標 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 修士論文作成に必要な日本古代史の高度な知識を獲得する。 思考・判断の観点： 修士論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。 関心・意欲の観点： 修士論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。 態度の観点： 修士論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決する姿勢を養う。 技能・表現の観点： 1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。 2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。
- 授業の計画（全体） 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。
- 成績評価方法（総合） 1. 学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。 2. レポートの分量については別途指示する。
- 教科書・参考書 教科書： なし／ 参考書： なし
- メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード）を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。
- 連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本歴史文化論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 橋本義則 | | | | |

- 授業の概要** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。／検索キーワード よりよい修士論文の作成を目指す。
- 授業の一般目標** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。
- 授業の到達目標**／ 知識・理解の観点： 修士論文作成に必要な日本古代史の高度な知識を獲得する。 思考・判断の観点： 修士論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。 関心・意欲の観点： 修士論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。 態度の観点： 修士論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決する姿勢を養う。 技能・表現の観点： 1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。 2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。
- 授業の計画（全体）** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。
- 成績評価方法（総合）** 1. 学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。 2. レポートの分量については別途指示する。
- 教科書・参考書** 教科書： なし／ 参考書： なし
- メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード）を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。
- 連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本歴史文化論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 真木隆行 | | | | |

- 授業の概要 題目：日本中世史の諸問題 概要：日本中世史を専攻する修士課程の大学院生を対象とし、修士論文の作成に向けた指導を行う。受講生と相談の上で選定する史料の輪読と、受講生自身の研究成果報告をおこなう。
- 授業の一般目標 修士論文作成につながるような研究成果を重ねる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： ・関係史料や先行研究について把握する。 ・関心ある事象の時代背景を把握する。 思考・判断の観点： 史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 関心・意欲の観点： 関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。 態度の観点： 一研究者としての誇りを持つ。 技能・表現の観点： 自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。
- 授業の計画（全体） 各自が設定した修士論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。
- 成績評価方法（総合） 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。
- メッセージ いい修士論文を読ませてください。
- 連絡先・オフィスアワー ご来訪ご質問は、いつでも歓迎する。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本歴史文化論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 真木隆行 | | | | |

- 授業の概要 題目：日本中世史の諸問題 概要：修士課程の大学院生を対象とし、修士論文の作成に向けた指導を行う。受講生と相談の上で選定する史料の輪読と、受講生自身の研究成果報告をおこない、検討する。
- 授業の一般目標 修士論文作成につながるような研究成果を重ねる。
- 授業の計画（全体） ・輪読史料を選定し、その読解を深める。 ・各自が設定した修士論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。
- 成績評価方法（総合） 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。
- メッセージ いい修士論文を読ませてください。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本歴史文化論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 田中誠二 | | | | |

- 授業の概要 「日本歴史文化論演習」：受講者の課題に近い原史料の写真版をテキストに、史料を精読していく。また、受講者の課題に基づく発表を行い、討論をして内容を深める機会も適宜織り込む。／検索キーワード 日本近世史、歴史学、演習
- 授業の一般目標 1. 近世史料の内難度の高いものが読解できる。 2. 自分の主題について、史料に基づき論を立てることができる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 難度の高いくずし字の史料が読解できる。 2. 自分の主題に関する研究史の整理が的確にできる。 思考・判断の観点： 1. 史料を用いての論証が精密にできる。 2. 自分の主題をオリジナリティーをもった論として立てることができる。 技能・表現の観点： 1. 自分の見解を論理的に文章で表現できる。
- 授業の計画（全体） 受講者の課題に近い原史料の写真版を用いて、精読していく。また、受講者の課題に基づく報告を行い、討論をして内容を深める機会を適宜もうける。
- 成績評価方法（総合） 定期試験にかえてレポートを提出させ、その内容によって成績評価を行う。レポートは、400字詰15枚以上。
- 教科書・参考書 教科書： 特になし。適宜レジュメ・資料を配付する。
- 連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・木曜昼休み。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本歴史文化論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 田中誠二 | | | | |

- 授業の概要 前期と同様。／検索キーワード 日本近世史、歴史学、演習
- 授業の一般目標 前期と同様
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 前期と同様 思考・判断の観点： 前期と同様 技能・表現の観点： 前期と同様
- 授業の計画（全体） 前期と同様
- 成績評価方法（総合） 前期と同様
- 教科書・参考書 教科書： 前期と同様
- 連絡先・オフィスアワー 前期と同様

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国歴史文化論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 馬彪 | | | | |

- 授業の概要 百年前、甲骨文の発見と同じく意味していて、20C 末～21C の初、中国古代の秦漢時代（BC.220～AD.220）の出土文字資料——簡牘を大量に発見したのは、中国歴史学上に画期的な時代を迎えています。世界の第八大奇観と呼ばれている秦始皇帝の兵馬俑は考古学の大発見ですが、残念ながら今のところには文字史料が発見されていない。これと違う、出土した簡牘の史料文字は、すでに百万字を超えました。この数は『史記』の 50 万字の倍以上になる貴重な史料です。本講義は辺境簡と内地簡の二部構造に分けて、紹介したいと計画する。／検索キーワード 出土文字
- 授業の一般目標 出土文字の研究によって、21 世紀における中国史研究の先端動態を説明できる目標である。
- 授業の計画（全体） まず、簡牘史学の形成と特性を説明し、その後具体的な実例を説明する。
- 成績評価方法（総合） 成績評価は基本的に、出席（30％）と試験（70％）で行う。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国歴史文化論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 滝野正二郎 | | | | |

- 授業の概要 山口大学の図書館には『新刻客商一覽醒迷天下水陸路程』という17世紀前半の「旅行ガイド」あるいは「商人教訓書」ともいふべき本が所蔵されている（ただし、図書館の所蔵目録上は『水陸路程』という書名になっている）。世界中にこれ1セットしかないと言われる山口大学の宝である。これらの「旅行ガイド」・「商人教訓書」を一般には『路程書』・『商業書』というが、『新刻客商一覽醒迷天下水陸路程』その他の『路程書』『商業書』を用いてその地理的記述や商業指南の仕方、商業倫理について検討する。／検索キーワード 路程書、商業書、商業指南、商人倫理、『新刻客商一覽醒迷天下水陸路程』
- 授業の一般目標 （1）明清時代の商業書について一応の知識を得る。（2）当時の商業路について理解する。（3）当時の地理的な記述の特徴を理解する。（4）当時の商人倫理について理解する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：（1）明清時代の商業書について一応の知識を得る。（2）当時の商業路について理解する。（3）当時の地理的な記述の特徴を理解する。（4）当時の商人倫理について理解する。 思考・判断の観点：商人の日常的な活動について思考する。 関心・意欲の観点：当時の商人の日常的な活動、商業地理に関心を持つ。
- 授業の計画（全体） 『新刻客商一覽醒迷天下水陸路程』その他の『路程書』『商業書』を用いてその地理的記述や商業指南の仕方、商業倫理について検討する。
- 成績評価方法（総合） 学期末に提出するレポートによって評価する。
- 教科書・参考書 教科書：なし。授業中にプリントを配布する。／参考書：「商業書にみる商人と商業」、寺田隆信、『山西商人の研究』（東洋史研究会）、1972年；「『新刻客商一覽醒迷天下水陸路程』について」、斯波義信、『森三樹三郎博士頌寿記念東洋学論集』、1979年；「商賈便覧について」、森田明、『福岡大学研究所報』16、1972年；「『新安原板士商類要』について」、水野正明、『東方学』60、1980年；『明清時期商業書及商人書之研究』、陳学文、中華發展基金管理委員会・洪葉文化事業有限公司、1997年
- メッセージ 漢文史料を紹介しつつ授業を進めるので、漢文史料に興味のある学生の聴講を望む。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部517号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 12:30～14:00

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国歴史文化論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 鶴間 和幸 | | | | |

●備考 集中授業

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国歴史文化論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 馬彪 | | | | |

- 授業の概要 百年前、甲骨文の発見と同じく意味していて、20C 末～21C の初、中国古代の秦漢時代（BC.220～AD.220）の出土文字資料——簡牘を大量に発見したのは、中国歴史学上に画期的な時代を迎えています。世界の第八大奇観と呼ばれている秦始皇帝の兵馬俑は考古学の大発見ですが、残念ながら今のところには文字史料が発見されていない。これと違う、出土した簡牘の史料文字は、すでに百万字を超えました。この数は『史記』の 50 万字の倍以上になる貴重な史料です。本講義は辺境簡と内地簡の二部構造に分けて、紹介したいと計画する。／検索キーワード 出土文字
- 授業の一般目標 出土文字の研究によって、21 世紀における中国史研究の先端動態を説明できる目標である。
- 授業の計画（全体） まず、簡牘史学の形成と特性を説明し、その後具体的な実例を説明する。
- 成績評価方法（総合） 成績評価は基本的に、出席（30％）とレポート（70％）で行う。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国歴史文化論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 馬彪 | | | | |

- 授業の概要 『龍崗秦簡』をテキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、院生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。
- 授業の一般目標 院生に出土文字資料を読ませて、一層研究の能力を養成することを目標とする。
- 成績評価方法 (総合) レポート。
- 教科書・参考書 教科書：『龍崗秦簡』, 整理小組, 中華書局, 2002 年

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国歴史文化論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 馬彪 | | | | |

- 授業の概要 『龍崗秦簡』をテキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、院生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。
- 授業の一般目標 院生に出土文字資料を読ませて、一層研究の能力を養成することを目標とする。
- 成績評価方法 (総合) レポート。
- 教科書・参考書 教科書：龍崗秦簡, 整理小組, 中華書局, 2002 年

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国歴史文化論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 滝野正二郎 | | | | |

- 授業の概要 テーマ：中国史史料の研究 受講生の研究に関する史料を読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の歴史像を構築する。／検索キーワード 中国、史料、読解、時代像
- 授業の一般目標 史料を読解し、そこから当該時代の歴史像を構築する力を獲得する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：中国史料に関する基礎的な知識を獲得する。 思考・判断の観点：史料から歴史像を考える。 関心・意欲の観点：歴史に関心を持ち、史料そのものから歴史像を構築する意欲を持つ。 態度の観点：史料から歴史を考える態度を持つ。 技能・表現の観点：中国史料を操作する基本的技能を獲得する。
- 授業の計画（全体） 受講生の研究に関する史料を受講生が分担して読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の歴史像を構築する。
- 成績評価方法（総合） 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。
- 教科書・参考書 教科書：受講者との相談によって決定する。／参考書：その都度紹介する。
- メッセージ 受講生は学期途中で、受講を取りやめないこと。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517 号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー（前期）月曜日 9/10 時限

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国歴史文化論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 滝野正二郎 | | | | |

- 授業の概要 テーマ：中国史史料の研究 受講生の研究に関する史料を読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の歴史像を構築する。／検索キーワード テーマ：中国史史料の研究
- 授業の一般目標 史料を読解し、そこから当該時代の歴史像を構築する力を獲得する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：中国史料に関する基礎的な知識を獲得する。 思考・判断の観点：史料から歴史像を考える。 関心・意欲の観点：歴史に関心を持ち、史料そのものから歴史像を構築する意欲を持つ。 態度の観点：史料から歴史を考える態度を持つ。 技能・表現の観点：中国史料を操作する基本的技能を獲得する。
- 授業の計画（全体） 受講生の研究に関する史料を受講生が分担して読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の歴史像を構築する。
- 成績評価方法（総合） 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。
- 教科書・参考書 教科書：受講者との相談によって決定する。／参考書：その都度紹介する。
- メッセージ 受講生は学期途中で、受講を取りやめないこと。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517 号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー（後期）木曜日 12:30～14:00

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋歴史文化論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 尼川創二 | | | | |

●授業の概要 【19世紀末までのロシア史の展開】9世紀のキエフ国家の成立から反体制知識人たちが「人民主義」の革命運動を開始し挫折した19世紀末のロシア帝国の状況までのロシア史を通観するが、ロシアの反体制知識人たちが常に意識していた西ヨーロッパの国家・社会の歴史とロシアのそれとの対比も絶えず行なうことにしたい。

●授業の一般目標 専制政治と農奴制を特徴とするロシア帝国が何ゆえ、またどのようにして形成されたのか、そして19世紀末に始まりまもなく挫折する人民主義者の革命運動がいかなる問題点を内包していたかについての理解を深める。西ヨーロッパとロシアでの国家・社会の形成過程および反体制運動の類似点と相違点にも留意する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：上記の点について知識をもち、理解する。思考・判断の観点：上記の点について自分で深く考えてみる。関心・意欲の観点：ロシアとヨーロッパの歴史に強い関心をもつ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに
- 第2回 項目 ロシアの自然環境とその影響（1）
- 第3回 項目 ロシアの自然環境とその影響（2）
- 第4回 項目 キエフ国家の成立
- 第5回 項目 キエフ国家の崩壊
- 第6回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ（1） 軍事的中央集権国家の出現
- 第7回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ（2） 農奴制の形成
- 第8回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ（3） 農奴制の確立
- 第9回 項目 皇帝と貴族
- 第10回 項目 ラジーシチェフとデカブリスト
- 第11回 項目 スラヴ主義者対西欧主義者の大論争
- 第12回 項目 ゲルツェンの「ロシア社会主義」論
- 第13回 項目 農奴解放と人民主義運動
- 第14回 項目 人民主義の思想家たち
- 第15回 項目 人民主義運動の展開と挫折

●成績評価方法（総合） レポート（読書感想文）100点。無断欠席1回につきマイナス5点。

●教科書・参考書 教科書：用いない。適宜プリントを配付する。／参考書：授業中に適宜紹介する。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部4階407号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋歴史文化論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 尼川創二 | | | | |

●授業の概要 【ロシア革命の考察】19世紀の末に人民主義に代わってマルクス主義がロシアの革命的 インテリゲンツィアの心を捉え始めたのはなぜなのか。1902年にレーニンが提起した党組織論はどのような問題点を孕んでいたか。社会主義革命が、資本主義の発達した西欧においてではなく、発展途上国ロシアで達成されたのはなぜなのか。そもそも西欧で社会主義革命を目指す大きな動きが生じなかったのはなぜだろう。レーニンに率いられたボリシェヴィキ党（共産党の前身）がロシアの革命勢力の中心になりえたのはなぜか。同党とロシアの労働者、農民、少数民族との関係はどのようであったか。同党が革命体制形成過程で逢着した問題はなんであったのか。その革命体制はのちに出現するスターリンの強権的政治体制とどの点でつながり、どの点で断絶しているのか。——こうした問題を考えてみたい。

●授業の一般目標 概要に記したような諸問題の考察を通じて、ロシア革命についての理解を深める。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：ロシア革命について知識を得、理解を深める。思考・判断の観点：ロシア革命の原因・経過・結果について自分で考えてみる。関心・意欲の観点：ロシアとヨーロッパの歴史に強い関心をもつ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ロシアにおけるマルクス主義の受容と拡大（1）
- 第 2 回 項目 ロシアにおけるマルクス主義の受容と拡大（2）
- 第 3 回 項目 レーニンの党組織論
- 第 4 回 項目 ボリシェヴィキとメンシェヴィキの対立
- 第 5 回 項目 西欧における革命運動の退潮
- 第 6 回 項目 1905年革命
- 第 7 回 項目 1917年の2月革命
- 第 8 回 項目 2月革命から10月革命へ
- 第 9 回 項目 創建期ソヴィエト政府の諸政策
- 第 10 回 項目 内戦の勃発
- 第 11 回 項目 「戦時共産主義」
- 第 12 回 項目 内戦の終結、「戦時共産主義」の続行、農民反乱
- 第 13 回 項目 ネップ（新経済政策）への転換、共産党一党独裁の完成
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備日

●成績評価方法（総合）授業外レポート 100点。無断欠席1回につきマイナス5点。

●教科書・参考書 教科書：用いない。適宜プリントを配付する。／参考書：授業中に適宜紹介する。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部4階407号室(TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋歴史文化論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 藤永康政 | | | | |

●授業の概要 アメリカの人種関係を根底から変化させた1960年代の公民権運動について、史料をもとに、考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較や、現代のアメリカ文化やアメリカ社会への理解を深めながら、「60年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。「激動の60年代」の動因とは何か、historical agency とは何かを考える。／検索キーワード アメリカ史、黒人、社会運動

●授業の一般目標 (1) 史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2) 現代史特有の問題点に関し理解を含める

●授業の到達目標／知識・理解の観点：運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める 思考・判断の観点：既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける 関心・意欲の観点：現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める 態度の観点：積極的に発言し、意見を交換することが学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

●授業の計画（全体）できれば前・後期通年の受講が望ましい

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODakション
- 第 2 回 項目 今日のアメリカの人種関係
- 第 3 回 項目 ブラックパンサー党の歴史（映画『パンサー』）
- 第 4 回 項目 ブラックパンサー党の歴史（映画『パンサー』の討論）
- 第 5 回 項目 ヒップホップ文化考察(1)
- 第 6 回 項目 ヒップホップ文化考察(2)
- 第 7 回 項目 ヒップホップ文化考察(3)
- 第 8 回 項目 ヒップホップ文化考察(4)
- 第 9 回 項目 第2次世界大戦と公民権運動(1)
- 第10回 項目 第2次世界大戦と公民権運動(2)
- 第11回 項目 冷戦、脱植民地化と公民権運動の関係
- 第12回 項目 『ブラウン』判決とその社会政治的反響
- 第13回 項目 今日のアメリカにおける人種隔離(1)
- 第14回 項目 今日のアメリカにおける人種隔離(1)
- 第15回 項目 予備日

●成績評価方法（総合）毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。予習なしには当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。

●教科書・参考書 教科書：Eyes on the Prize Civil Rights Reader, Clayborne Carson, Penguin, 1991年；教科書販売場所：大学生協

●メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。（ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfuji nag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋歴史文化論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 藤永康政 | | | | |

●授業の概要 アメリカの人種関係を根底から変化させた1960年代の公民権運動について、史料をもとに、考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較や、現代のアメリカ文化やアメリカ社会への理解を深めながら、「60年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。「激動の60年代」の動因とは何か、historical agency とは何かを考える。／検索キーワード アメリカ史、黒人、社会運動

●授業の一般目標 (1) 史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2) 現代史特有の問題点に関し理解を含める

●授業の到達目標／知識・理解の観点：運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める 思考・判断の観点：既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける 関心・意欲の観点：現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める 態度の観点：積極的に発言し、意見を交換することが学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 シット・インと学生非暴力調整委員会
- 第 3 回 項目 フリーダム・ライド運動
- 第 4 回 項目 バーミングハム闘争
- 第 5 回 項目 ネイション・オヴ・イスラームの歴史
- 第 6 回 項目 マルコムX
- 第 7 回 項目 イコンとしてのモハメド・アリ
- 第 8 回 項目 モハメド・アリの表象 (1)
- 第 9 回 項目 モハメド・アリの表象 (2)
- 第 10 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (1)
- 第 11 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (2)
- 第 12 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (3)
- 第 13 回 項目 公民権法制定後のアメリカ黒人の政治運動 (1)
- 第 14 回 項目 公民権法制定後のアメリカ黒人の政治運動 (2)
- 第 15 回 項目 予備日

●成績評価方法 (総合) 毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。予習なしには当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。

●教科書・参考書 教科書：Eyes on the Prize Civil Rights Reader, Clayborne Carson, Penguin, 1991 年；教科書販売場所：大学生協

●メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

●連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfuji@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋歴史文化論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 未定 | | | | |

●備考 集中授業

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋歴史文化論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 尼川創二 | | | | |

- 授業の概要 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。
- 授業の一般目標 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。
- 授業の計画（全体） 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。
- 成績評価方法（総合） 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋歴史文化論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 尼川創二 | | | | |

- 授業の概要 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。
- 授業の一般目標 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。
- 授業の計画（全体） 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。
- 成績評価方法（総合） 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋歴史文化論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 藤永康政 | | | | |

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 イントロダク ション 内容 今後のゼミの進 行について打ち 合わせをする。受講希望者は 必 ず出席のこと

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第10 回

第11 回

第12 回

第13 回

第14 回

第15 回

●メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。（ただし、携帯電話か らのメールの場 合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：1 1 時 5 0 分から 1 2 時 5 0 分

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 西洋歴史文化論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 藤永康政 | | | | |

●授業の概要 アメリカ史が直面している諸問題を批判的に検討する。具体的内容はゼミ参加者の関心にしたがって決定する／検索キーワード アメリカ史

●授業の一般目標 (1) 歴史学諸理論の把握 (2) 理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ (3) 時代錯誤の研究、背理の考察、イデオロギーに染まりきった設問を考察することにならないように、「問い」のたてかたを学ぶ

●授業の到達目標／知識・理解の観点：現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める 思考・判断の観点：歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 インTRODク ション 内容 今後のゼミの進行について打ち合わせをする。受講希望者は必ず出席のこと

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●成績評価方法 (総合) 授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そのみを評価基準とする。

●メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

●連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfuji@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会変動論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 小谷典子 | | | | |

●授業の概要 産業都市における企業組織とコミュニティの関わりを、前期・後期通して、テキストを使って具体的な事例を紹介しながら考察する／検索キーワード 産業都市、企業組織、企業の社会的責任、コミュニティ

●授業の一般目標 産業都市の企業組織とコミュニティのかかわりを認識し、よりよいまちづくりについて考える。前期は特に環境問題に焦点をおく。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：産業都市の企業組織についての理解を深める 思考・判断の観点：コミュニティとアソシエーションの関係について考える 関心・意欲の観点：身近な地域社会の社会問題についてに関心を持つ 態度の観点：身近な地域に目を向けるようになる

●授業の計画（全体）テキストを用いて、具体的な産業都市の企業組織と地域社会のかかわりについて紹介し、地域形成に関する理解を深める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 産業都市の成立
- 第 2 回 項目 企業と都市の関わり（1）
- 第 3 回 項目 企業と都市の関わり（2）
- 第 4 回 項目 地場産業都市の地域形成（1）
- 第 5 回 項目 地場産業都市の地域形成（2）
- 第 6 回 項目 地場産業都市の地域形成（1）
- 第 7 回 項目 地場産業都市の地域形成（2）
- 第 8 回 項目 企業進出とコミュニティ（1）
- 第 9 回 項目 企業進出とコミュニティ（2）
- 第 10 回 項目 企業の環境対策
- 第 11 回 項目 公害都市の再生
- 第 12 回 項目 公害都市から環境国際協力都市へ（1）
- 第 13 回 項目 公害都市から環境国際協力都市へ（2）
- 第 14 回 項目 公害都市から環境国際協力都市へ（3）
- 第 15 回 項目 企業と都市の関わり

●成績評価方法（総合）出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

●教科書・参考書 教科書：三浦典子『企業の社会貢献とコミュニティ』ミネルヴァ書房、2004年／参考書：適宜紹介する

●メッセージ 前期・後期通して使用するので、購入すること

●連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会変動論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 小谷典子 | | | | |

●授業の概要 産業都市における企業組織とコミュニティの関わりを、前期・後期通して、テキストを使って、具体的な事例を紹介しながら考察する／検索キーワード 企業組織、企業の社会貢献、企業メセナ、コミュニティ

●授業の一般目標 産業都市の企業組織とコミュニティのかかわりを認識し、よりよいまちづくりについて考える。後期は特に企業の地域社会への社会貢献に焦点をおく

●授業の到達目標／知識・理解の観点：企業の社会貢献についての理解を深める 思考・判断の観点：コミュニティとアソシエーションの関係について考える 関心・意欲の観点：身近な地域社会の企業の社会貢献活動についてに関心を持つ 態度の観点：身近な地域社会の企業活動に目を向けるようになる

●授業の計画（全体） テキストを用いて、具体的な産業都市の企業組織と地域社会のかかわりについて紹介し、地域形成に関する理解を深める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 企業の経営理念 と社会貢献活動
- 第 2 回 項目 企業の社会貢献 活動（1）
- 第 3 回 項目 企業の社会貢献 活動（2）
- 第 4 回 項目 山口県における 企業の社会貢献 活動（1）
- 第 5 回 項目 山口県における 企業の社会貢献 活動（2）
- 第 6 回 項目 防府市における 企業の社会貢献 活動（1）
- 第 7 回 項目 防府市における 企業の社会貢献 活動（2）
- 第 8 回 項目 防府市における 企業の社会貢献 活動（1）
- 第 9 回 項目 宇部市における 企業文化の形成
- 第 10 回 項目 宇部市における 企業の社会貢献 活動（1）
- 第 11 回 項目 宇部市における 企業の社会貢献 活動（2）
- 第 12 回 項目 山口市における 企業の社会貢献 活動（1）
- 第 13 回 項目 産業都市における 環境市民団体 （1）
- 第 14 回 項目 産業都市における 環境市民団体 （2）
- 第 15 回 項目 企業と都市の関わりを考える

●成績評価方法（総合） 出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

●教科書・参考書 教科書：三浦典子『企業の社会貢献とコミュニティ』ミネルヴァ書房、2004年／参考書：適宜紹介する

●メッセージ 前期・後期通して使用するので、購入すること

●連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会変動論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 庄司興吉 | | | | |

●授業の概要 現代社会の広がり（外延）がますます大きくなり、地球社会という概念を必要としてきているという考えから、その中味（内包）をどうとらえたらよいか検討する。「どう」ということのなかには方法と理論とが含まれるので、それらにたいする検討も含む。また、対象が大きくなると話が抽象的になりやすく、自分との関係がとらえにくくなるという問題もあるので、大きなもの（マクロ）と小さなもの（ミクロ）とをどう関連づけて理解する（媒介するか）という問題にたいする検討も行う。／検索キーワード 現代社会、地球社会、市民社会、市民運動

●授業の一般目標 自分が生きている社会をそのなかにあってとらえるとはどういうことか、ということにたいする理解を深める。できあがった知識を学習して身につけるというのではなく、むしろそれらの不十分さをたえず疑いながら、生きている自分の身体で自分の世界をどうとらえたらいいのかを学ぶのが目標である。現代社会の混沌を見つめ、いつの間にか身につけている多くの憶説（ドクサ）を洗い落としながら、つねに新鮮な知を構築し直すことの大切さを理解する。

●授業の計画（全体） テキストを活用して講義する

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 現代社会への視座
- 第 3 回 項目 地球社会の現代的生成
- 第 4 回 項目 地球社会の現代的生成
- 第 5 回 項目 新日本主義と地球社会
- 第 6 回 項目 新日本主義と地球社会
- 第 7 回 項目 風土・民族・普遍人類性
- 第 8 回 項目 風土・民族・普遍人類性
- 第 9 回 項目 日本人から地球市民へ
- 第 10 回 項目 市民社会から地球共生社会へ
- 第 11 回 項目 市民社会から地球共生社会へ
- 第 12 回 項目 地球社会の構造と主体
- 第 13 回 項目 地球社会の構造と主体
- 第 14 回 項目 市民運動から市民連携へ
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 授業期間中に何回か小テスト・授業内レポートと宿題・授業外レポートを行い、授業終了後に一定期間をおいて総括レポートを出してもらう。

●教科書・参考書 教科書：地球社会と市民連携, 庄司興吉, 有斐閣, 1999 年

●備考 集中授業

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 地域社会計画論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 横田尚俊 | | | | |

●授業の概要 地震、噴火、風水害、大火災といった災害が社会を襲った場合、人々や集団・組織はどのように対応するのか。災害情報の収集・伝達はどのように行われるのか。災害はコミュニティの社会構造にどのような影響を及ぼすのか。この講義では、これら災害の社会過程をめぐるテーマに検討を加えるとともに、災害社会学の基本的な視座や研究枠組みについて説明する。／検索キーワード 都市災害、災害情報、防災対策、援助行動、ボランティア、集合行動、パニック、避難行動、コミュニティ

●授業の一般目標 (1) 災害社会学の基本的な視座や研究方法を理解する。(2) 災害の特質を現代社会の構造・変動との関連で捉え、災害に強い社会をどう構築していくかという課題について考える。

●授業の計画(全体) 現代社会における災害の特質や社会学における災害研究の諸相を概観していく。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODakション(授業の進め方についての説明)、災害をどう捉えるか
- 第 2 回 項目 災害の社会学的定義、都市災害の特質
- 第 3 回 項目 災害社会(心理)学の展開
- 第 4 回 項目 災害警報と人間行動
- 第 5 回 項目 災害警報と人間行動(続き)
- 第 6 回 項目 災害と集合行動
- 第 7 回 項目 災害と集合行動(続き)
- 第 8 回 項目 災害と避難行動
- 第 9 回 項目 災害と援助行動
- 第 10 回 項目 災害と援助行動(続き)
- 第 11 回 項目 災害と組織—災害時における組織の対応—
- 第 12 回 項目 災害と組織(続き)
- 第 13 回 項目 災害と社会変動
- 第 14 回 項目 災害と社会変動
- 第 15 回 項目 試験

●成績評価方法(総合) 定期試験(論述式) 50% 出席 40% 小レポート・授業参加度 10%

●教科書・参考書 教科書: 教科書は特に使用しない。／参考書: 防災白書(平成 16 年版), 国土交通省, ぎょうせい, 2004 年; 都市防災, 吉井博明, 講談社(現代新書), 1996 年; 災害に出合うとき, 広瀬弘忠, 朝日新聞社, 1996 年; 阪神・淡路大震災の社会学(全 3 巻), 岩崎信彦ほか, 昭和堂, 1999 年; 震災ボランティアの社会学, 山下祐介ほか, ミネルヴァ書房, 2002 年; その他の参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

●メッセージ 時間的に余裕があれば、テーマに関連するビデオ映像なども積極的に利用したい。

●連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 地域社会計画論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 横田尚俊 | | | | |

●授業の概要 前期に引き続き、災害と現代社会をテーマに、戦後最悪の大災害となった阪神・淡路大震災（1995年）を事例として、災害後の諸問題や教訓、今後の都市防災対策や都市政策、コミュニティ形成のあり方などについて説明する。／検索キーワード 都市災害、阪神・淡路大震災、都市社会構造、都市政策、インナーシティ、コミュニティ形成

●授業の一般目標 （1）都市災害の特質について理解を深める。（2）都市政策全般を視野に入れて、災害に強い社会（コミュニティ）を今後どう形成していくかという課題について考える。

●授業の計画（全体） 阪神・淡路大震災に見られる都市災害の特質と被害・対応の教訓、今後の都市政策、コミュニティ形成のあり方について、社会学の立場から検討を加えていく。講義科目ではあるが、受講生には、適宜課題を与えて、授業の中で報告してもらうので、あらかじめ了解してほしい。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨン（授業の進め方についての説明）、前期授業の概要説明
- 第 2 回 項目 阪神・淡路大震災の特質
- 第 3 回 項目 阪神・淡路大震災の特質（続き）
- 第 4 回 項目 都市社会の構造—震災前の神戸市をめぐって—
- 第 5 回 項目 都市社会の構造（続き）
- 第 6 回 項目 都市社会の構造（続き）
- 第 7 回 項目 阪神・淡路大震災とコミュニティ
- 第 8 回 項目 阪神・淡路大震災とコミュニティ（続き）
- 第 9 回 項目 阪神・淡路大震災とコミュニティ（続き）
- 第 10 回 項目 阪神・淡路大震災とコミュニティ（続き）
- 第 11 回 項目 阪神・淡路大震災とコミュニティ（続き）
- 第 12 回 項目 災害に強いコミュニティの形成は可能か（続き）
- 第 13 回 項目 災害に強いコミュニティの形成は可能か（続き）
- 第 14 回 項目 災害に強いコミュニティの形成は可能か（続き）
- 第 15 回 項目 試験

●成績評価方法（総合） 定期試験（論述式） 40% 出席 40% 授業外レポート・報告 20%

●教科書・参考書 教科書：教科書は特に使用しない。／参考書：都市政策と地域形成、蓮見音彦ほか、東京大学出版会、1990年；インナーシティのコミュニティ形成、今野裕昭、東信堂、2001年；防災福祉コミュニティ、倉田和四生、ミネルヴァ書房、1999年；阪神・淡路大震災の社会学（全3巻）、岩崎信彦ほか、昭和堂、1999年；震災ボランティアの社会学、山下祐介ほか、ミネルヴァ書房、2002年；その他の参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

●メッセージ 時間的に余裕があれば、テーマに関連するビデオ映像なども積極的に利用したい。

●連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会意識調査論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 辻正二 | | | | |

●授業の概要 現代の日本社会は大きな変革期に遭遇している。国際化、高齢化、情報化に起因した構造変動が失業や機構改革などを引き起こし、人々の不適応状態を醸成している。そのため犯罪や非行といった社会病理現象が蔓延している。この講義では、逸脱行動論を学ぶなかから調査の方法にも ついても学ぶ。

●授業の一般目標 (1) 逸脱行動や社会病理の学説・理論について理解を促す。(2) それを生かして現実起こっている現象を如何に説明するかを学ぶ。(3) こうした逸脱行動の調査の仕方を学ぶ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義の狙い
- 第 2 回 項目 現代の社会問題
- 第 3 回 項目 社会病理学の考え方 内容 価値判断の課題
- 第 4 回 項目 デュルケームの自殺論と病理的視点
- 第 5 回 項目 マートンのアノミー論
- 第 6 回 項目 マートン後のアノミー論
- 第 7 回 項目 シカゴ学派の逸脱論
- 第 8 回 項目 分化的接触論とサブカルチャー論
- 第 9 回 項目 サブカルチャー論と青少年非行
- 第 10 回 項目 社会的相互作用論と社会的反作用論
- 第 11 回 項目 ベッカーのラベリング論
- 第 12 回 項目 ベッカー後のラベリング論
- 第 13 回 項目 キツセの社会問題論
- 第 14 回 項目 構築主義の逸脱理論
- 第 15 回 項目 まとめ

●メッセージ 教科書は、使いません。参考書についてはその都度紹介します

●連絡先・オフィスアワー 辻研究室（人文309室）

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会意識調査論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 辻正二 | | | | |

●授業の概要 我が国は、1994年に高齢化率14%を超え、高齢社会に突入した。この高齢化は、今後ますます進行し、我が国の社会全体に大きな影響を及ぼしつつある。現在の我が国の深刻な社会問題（産業の空洞化、犯罪の凶悪化など）の中には国際化や情報化といった別の要因も関係しているが、高齢化の要因も無視できない。ところが、高齢化については、福祉や社会保障制度などに関しては論議されているが、高齢社会全体についてはあまり論議されていないのが実情である。この講義では、現在に高齢者か抱えている問題やこれまであまり触れられなかったエイジズム（老人差別）、高齢者と時間、生涯現役社会の構築といったことについて触れながら、社会老年学の知識を深めることを目指している。同時に社会意識調査の仕方について学ぶ。 ぶ。／検索キーワード 高齢化、少子化、生涯現役、エイジング、ライフサイクル、ラベリング

●授業の一般目標 (1) 高齢化がもたらす意味とその社会心理学的諸問題についての知識を身につける。(2) 高齢化社会の問題への対応を考え、それへの適切なあり方を考える態度を学ぶ。(3) 生涯現役に向けての諸方策を捉え、あるべき方向性を考える。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義の狙い
- 第 2 回 項目 高齢化社会とは何か 内容 日本の高齢化は諸外国のそれとどこが違うか
- 第 3 回 項目 高齢者の自我
- 第 4 回 項目 高齢者の社会化 内容 社会化の理論
- 第 5 回 項目 高齢者文化と時間 内容 人生儀礼、通過儀礼
- 第 6 回 項目 高齢者の人間関係 内容 都市部と過疎地の 高齢者のつき合いの違い、孤独と孤立、老人の自殺
- 第 7 回 項目 高齢者の社会参加
- 第 8 回 項目 高齢者のグループ活動
- 第 9 回 項目 高齢者の生活意識
- 第 10 回 項目 高齢者の生きがい論 内容 生きがいを調べるには
- 第 11 回 項目 高齢者と死の問題
- 第 12 回 項目 高齢者差別と高齢者ラベリング
- 第 13 回 項目 介護意識と福祉意識
- 第 14 回 項目 生涯現役社会づくりについて
- 第 15 回 項目 今回の講義のまとめ

●教科書・参考書 教科書：エイジングの社会心理学, 辻正二・船津衛, 北樹出版, 2003年／参考書：辻正二『高齢者ラベリングの社会学』（恒星社厚生閣）2000年

●メッセージ 参考書や資料は、その都度、紹介する予定です。

| | | | | | |
|------|--------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代コミュニケーション論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 高橋征仁 | | | | |

●授業の概要 コミュニケーションが問われる場合、「情報の共有」や「情緒的結合」が理念的前提とされていることが少なくない。しかし、こうした前提は、必ずしも現実的ではないし、諸々のコミュニケーション現象を説明する上で、困難に直面してしまうことになる。授業では、これらの観点から古典的コミュニケーション論の限界と、新しいコミュニケーション論の出発点について、検討を進めていく。／検索キーワード コミュニケーション、メディア、公共圏

●授業の一般目標 1. 古典的コミュニケーションモデルの限界を認識する 2. メディアの基本機能と新しいコミュニケーション論の基礎を検討する 3. 公共圏や民主主義、社会システムなどについて、新たな議論を展開するための基礎をつくる 4. パワーポイントを用いたプレゼンテーションやメーリングリストによる討論の方法を学ぶ

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス 内容 授業方法の解説 コミュニケーションをめぐるロマン主義的誤謬 授業外指示 メーリングリストの登録
- 第 2 回 項目 メディアの役割 内容 機械論的コミュニケーション論の限界 授業外指示 メーリングリストによる課題提出
- 第 3 回 項目 メディアとしての貨幣 内容 第 1 章 1, 2, 3
- 第 4 回 項目 現代社会におけるリスク 内容 第 1 章 4, 5
- 第 5 回 項目 パーソナル・メディア 内容 第 2 章 1, 2, 3
- 第 6 回 項目 マス・メディアと電子メディア
- 第 7 回 項目 第 1 中間考察 内容 ここまでの疑問点、問題点をめぐる質疑応答
- 第 8 回 項目 相互行為と間主観性 内容 第 3 章 1, 2
- 第 9 回 項目 コミュニケーションと合意 内容 第 3 章 3, 4, 5
- 第 10 回 項目 真理・規範・権力・影響力 内容 第 3 章 6, 7, 8
- 第 11 回 項目 第 2 中間考察 内容 ここまでの疑問点、問題点をめぐる質疑応答
- 第 12 回 項目 強制的権力と生成的権力 内容 第 4 章 1, 2
- 第 13 回 項目 「公共圏」の変容 内容 第 4 章 3, 4
- 第 14 回 項目 社会的コミュニケーションの構造 内容 第 5 章 1, 2
- 第 15 回 項目 原初的コミュニケーションによる自己組織化 内容 第 5 章 3, 4, 5

| | | | | | |
|------|--------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代コミュニケーション論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 高橋征仁 | | | | |

●授業の概要 大学院生専用の授業科目として、家族社会学の講義を行う。／検索キーワード 近代家族 情緒的結合 少子化

●授業の一般目標 1. 未婚化や晩婚化をめぐる現状と社会学的分析について学ぶ 2. 日本における近代家族の形成過程について学ぶ 3. 性やジェンダーをめぐる世代間ギャップ、世代内ギャップについて考察する

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 家族愛のパラドクス
- 第 2 回 項目 家族への思いこみ
- 第 3 回 項目 近代家族の基本的性格
- 第 4 回 項目 近代家族の危うさ
- 第 5 回 項目 近代家族を支える装置
- 第 6 回 項目 近代家族の成立と形成
- 第 7 回 項目 近代社会における愛情の意味
- 第 8 回 項目 母性愛の形成
- 第 9 回 項目 恋愛結婚と近代家族
- 第 10 回 項目 家事労働の基本的性格
- 第 11 回 項目 家事労働の意味
- 第 12 回 項目 家事労働とジェンダー
- 第 13 回 項目 現代化と家族
- 第 14 回 項目 現代家族の変貌
- 第 15 回 項目 現代家族の危機

●教科書・参考書 教科書：近代家族のゆくえ, 山田昌弘, 新曜社, 1994 年

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 比較社会生活誌論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 篠原徹 | | | | |

●授業の概要 この比較社会生活誌論は、日本の社会を中心に、中国やアフリカの事例も考慮にいれながら、「農」における自然と人間、「漁」における自然と人間、「遊び」における人間と自然の関係を照射し、私たちがあたりまえのことと考えている社会的な行為を再考します。

●授業の一般目標 自然と人間の乖離が現代ほど問われていることは歴史上かつてなかったと思います。自然と人間を結びつけてきたのは食料獲得など衣食住に関わる技術や技能です。しかし、この技術や技能は分業化されてしまい、多くの人間の手を離れてしまいました。人間の生活を豊かにするための工業的世界の現出ですが、農業や漁業は直接自然と関わっているため工業化すれば大きな環境問題が生じてしまいました。なぜこんなに大きな環境問題が生じてしまったのか、その問題を「農」における自然と人間の関係、「漁」における自然と人間の関係の変化のなかに探してみたいと思います。この授業での目標は、私たち現代に生きる人間が、日本という社会だけではなく地球上での「自然と人間の関係」のあるべき姿をひとりひとり模索することにあります。なにげなくおこなってきた「自然とつきあう」方法や技術を提示することによって、現在自然と人間の関係がどのように変化しているのか考えていただきます。

●備考 集中授業

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会生活伝承論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 湯川洋司 | | | | |

●授業の概要 この授業では、里山と森の民俗を取り上げ、ビデオ等の映像を用いつつ、山・森・里・川とつながる流域の相互的關係について紹介するとともに、現代における「流域の思想」の重要性を理解します。／検索キーワード 民俗 里山 森 流域

●授業の一般目標 1. 里山と森にかかわる民俗を知り、その意義を理解する。 2. 山と里、森と川の暮らしにおける相互的關係の実態を知る。 3. 「流域」という地域社会の把握法を知るとともに、「流域の思想」の意義を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 山と森の民俗を知る。 2. 「流域」という考え方を理解する。
 思考・判断の観点： 1. 開発と環境保全の観点から、「流域の思想」を理解する。 関心・意欲の観点： 1. 授業によく出席し、毎回、授業後のコメントを提出する。 態度の観点： 1. 授業によく出席し、毎回、授業後のコメントを提出する。

●授業の計画（全体） 「開発と環境」というテーマを意識して「里山と森の話」として、授業を構想する。
 具体的には、(1) 問題設定、(2) 里山とは、(3) 森のしくみ (4) 里山と森の暮らしと民俗、(5) 山と川と里が結ぶ暮らしと民俗、(6) 流域の思想、(7) まとめ、という構成にする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨（問題設定）と授業方法についての説明 明
- 第 2 回 項目 里山とは（1） 内容 里山の定義、「里山」概念の歴史
- 第 3 回 項目 里山とは（2） 内容 里山の暮らしの様子
- 第 4 回 項目 森のしくみ（1） 内容 森の生態
- 第 5 回 項目 森のしくみ（2） 内容 森のバランスが崩れると発生する災害等の事態
- 第 6 回 項目 里山と森の暮らしと民俗（1） 内容 木を利用した暮らし
- 第 7 回 項目 里山と森の暮らしと民俗（2） 内容 野生動物と人の暮らし
- 第 8 回 項目 里山と森の暮らしと民俗（3） 内容 山の神さまたち
- 第 9 回 項目 里山と森の暮らしと民俗（4） 内容 里山と森の空間認識と利用法
- 第 10 回 項目 山と川と里が結ぶ暮らしと民俗（1） 内容 川漁など生業の場としての川
- 第 11 回 項目 山と川と里が結ぶ暮らしと民俗（2） 内容 交通路としての川
- 第 12 回 項目 山と川と里が結ぶ暮らしと民俗（3） 内容 洪水と治水の歴史と民俗
- 第 13 回 項目 流域の思想（1） 内容 「流域」の概念と事例
- 第 14 回 項目 まとめ（流域の思想（2）） 内容 全体のまとめ、「流域の思想」の意義
- 第 15 回 項目 試験 内容 筆記試験

●成績評価方法（総合） 1. 毎回の授業終了後に、その授業内容に関して提出したコメントの内容評価（全体の 30 %） 2. 随時に課す授業外レポートの内容評価（全体の 30 %） 3. 期末試験の評価（全体の 40 %） 4. 欠席は欠格条項（全体の 75 % 以上の出席がないと期末試験受験資格がありません）

●教科書・参考書 教科書： 用いない。必要に応じて資料をプリンして配付します。／参考書： 授業中に適宜紹介する。

●連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟 2 階 2 1 0 号室 オフィスアワー：原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねください

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会生活伝承論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 湯川洋司 | | | | |

●授業の概要 この授業では、前期の授業を受け継ぐ形で、「山・川の開発の光と影」と題して、山・川の開発の歴史と民俗を踏まえて開発の功罪を考え、現代における開発のあり方について考察を深めます。／
検索キーワード 民俗 山と川の暮らし 開発の是非

●授業の一般目標 1. 暮らしの歴史や民俗から、開発の問題にアプローチできることを理解する。 2. 山・川の開発の歴史と民俗を具体的に知る。 3. 開発行為がもつ功罪—二面性—を理解し、開発の質の重要性を知る。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 開発の具体例を知る。 2. 山・川をめぐる暮らしの具体像を知る。 思考・判断の観点： 1. 開発には光と影が伴うことを理解する。 関心・意欲の観点： 1. 授業によく出席し、毎回、授業後のコメントを提出する。 態度の観点： 1. 授業によく出席し、毎回、授業後のコメントを提出する。

●授業の計画（全体） 「山・川の開発の光と影」題して、授業を構想する。具体的には、(1) 問題設定、(2) 開発の功罪、(3) 山・川をめぐる開発の歴史と民俗—九州山地を事例に一、(4) ダム開発とその問題点、(5) まとめ、という構成にする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨と授業 方法についての説明（問題設定）

第 2 回 項目 山と川と流域 内容 山川を流域として捉える視点

第 3 回 項目 開発をめぐる議論（1） 内容 民俗学における従来の議論の紹介

第 4 回 項目 開発をめぐる議論（2） 内容 文化人類学における従来の議論の紹介

第 5 回 項目 開発の光と影（1） 内容 鉱害事件の歴史—土呂久を事例に一

第 6 回 項目 開発の光と影（2） 内容 経済的豊かさを実現した開発

第 7 回 項目 開発の光と影（3） 内容 暮らしと文化が奪われた開発

第 8 回 項目 山・川をめぐる開発（1） 内容 開発の手法と地域社会の変容

第 9 回 項目 山・川をめぐる開発（2）

第 10 回 項目 山・川をめぐる開発（3）

第 11 回 項目 川辺川ダム問題（1） 内容 公共事業としてのあり方を問う

第 12 回 項目 川辺川ダム問題（2） 内容 地域再編の観点から問う

第 13 回 項目 いま、開発とは 内容 開発の功罪論議を踏まえて、今後の方向を考える

第 14 回 項目 まとめ 内容 開発に自分はどう向き合うか

第 15 回 項目 試験 内容 筆記試験

●成績評価方法（総合） 1. 毎回の授業終了後に提出するコメントの内容評価（全体の 30 %） 2. 随時提出する授業外レポートの内容評価（全体の 30 %） 3. 期末試験の評価（全体の 40 %）

●教科書・参考書 教科書： 用いない。必要に応じてプリント資料を配付する。／ 参考書： 授業中に適宜紹介する。

●連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟 2 階 2 1 0 号室 オフィスアワー：原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねください

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 造形伝承論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 坪郷英彦 | | | | |

- 授業の概要 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。／検索キーワード 文化人類学、物質文化研究、民俗学、住まい、家族制度、暮らし、もの
- 授業の一般目標 人間が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 基本的理論、用語の説明ができる。 思考・判断の観点： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 関心・意欲の観点： 消費社会の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 態度の観点： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。 技能・表現の観点： 自分の考えを正確に論述できる。
- 授業の計画（全体） 人類の住文化について講義をします。私たちの住んでいる住まいは自然からの避難場所としてだけでなく、家族制度が反映され、社会的地位を表すモノでもありました。また自然環境に適応した形を備えてきました。それは世界の様々な環境や社会によってあり方が異なっていました。具体的事例を示しながら、人類の原初の住まいから諸民族文化の住まいの異同について講じます。
- 成績評価方法（総合） 出席と期末レポート及び授業内レポートによる評価を行います。特に出席と期末レポートを重視します。
- 教科書・参考書 教科書： 教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。／参考書： その都度紹介します。
- メッセージ できるだけ視覚情報を使って理解を助けます。
- 連絡先・オフィスアワー Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239、研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10：00～12：00

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 造形伝承論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 坪郷英彦 | | | | |

- 授業の概要 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。／検索キーワード 文化人類学、物質文化、民俗学、民家、暮らし、もの
- 授業の一般目標 人間が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 基本的理論、用語の説明ができる。 思考・判断の観点： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 関心・意欲の観点： 消費社会の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 態度の観点： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。 技能・表現の観点： 自分の考えを正確に論述できる。
- 授業の計画（全体） 人類の住文化について講義をします。私たちの住んでいる住まいは自然からの避難場所としてだけでなく、家族制度が反映され、社会的地位を表すモノでもありました。前期では世界の住まいについて示しながら、住まいの持つ役割について考えますが、後期は日本の環境下での住まいについて民家調査の事例を具体的に示しながら講じていきます。
- 成績評価方法（総合） 出席と期末レポート及び授業内レポートによる評価を行います。特に出席と期末レポートを重視します。
- 教科書・参考書 教科書： 教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。／参考書： その都度紹介します。
- メッセージ できるだけ視覚情報を使って理解を助けます。
- 連絡先・オフィスアワー Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239、研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10：00～12：00

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代政治社会変動論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 瀬瀬厚 | | | | |

●授業の概要 現代政治社会に表する様々な政治変動を解析していくため現代政治学の研究成果の適用が求められている。そこで、本講義では現代政治学が取り組んでいる課題を紹介し、細部にわたる講義を展開する。／検索キーワード 社会変動 構造転換 構造分析

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 現代政治学の対象
- 第 2 回 項目 現代政治学の諸潮流
- 第 3 回 項目 世界システム論の適用
- 第 4 回 項目 現代民主主義の可能性と限界
- 第 5 回 項目 全体主義・保守主義・新自由主義のあいだ
- 第 6 回 項目 国家機能の拡大と政治決定過程
- 第 7 回 項目 現代政治を動かす要因
- 第 8 回 項目 現代国家論の展開
- 第 9 回 項目 近代政党と議会の役割
- 第 10 回 項目 圧力団体の社会的位置
- 第 11 回 項目 デモクラシー・ファシズム・ミリタリズムの接合
- 第 12 回 項目 支配システムの実際
- 第 13 回 項目 戦前期国家権力の特質
- 第 14 回 項目 戦後期国家権力の特質
- 第 15 回 項目 前期講義の纏め

●メッセージ 現代政治社会を構造的に切開する視点を

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代政治社会変動論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 瀬瀬厚 | | | | |

●授業の概要 本講義では、現代政治社会に表出する諸現象を解説するために不可欠な現代政治学の方法を基底に据えて、現代社会の変動要因を細部に亘って探求する。そこでは最新の当領域における研究成果をも紹介していく。

●授業の一般目標 現代社会の諸事象を客観的に考察できる視点を獲得する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 国家と人間
- 第 2 回 項目 政治社会と人間
- 第 3 回 項目 企業社会と人間
- 第 4 回 項目 現代民主主義と人間
- 第 5 回 項目 全体主義・国家主義と人間
- 第 6 回 項目 愛国主義・愛郷主義と人間
- 第 7 回 項目 現代政治の動要因としての人間
- 第 8 回 項目 自由・平等・安全思想と人間
- 第 9 回 項目 高度経済成長と人間
- 第 10 回 項目 競争と差別意識と人間
- 第 11 回 項目 学歴・階層社会と人間
- 第 12 回 項目 政治の人間化と人間の政治化（1）
- 第 13 回 項目 政治の人間化と人間の政治化（2）
- 第 14 回 項目 後期の纏め（1）
- 第 15 回 項目 後期の纏め（2）

●メッセージ 理論構築なき現状分析はあり得ない

●連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代政治社会変動論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 野村真理 | | | | |

- 授業の概要 授業の前半では、古代から近代にいたるまで、ヨーロッパのユダヤ人問題の歴史的、思想史的展開を概観する。 授業の後半では、20世紀のユダヤ人の運命に決定的な影響をおよぼしたシオニズムとナチズムを検討する。また中東問題も取り上げる予定である。／検索キーワード ユダヤ人、民族問題、ナチズム、シオニズム
- 授業の一般目標 ユダヤ人問題の歴史的展開を学ぶことにより、ヨーロッパ史に関する知識を豊富化する。現代のマイノリティ問題を考えるさいの方法的視野を広げる。
- 授業の計画（全体） 1. ユダヤ人とは誰のことか 2. 古代ユダヤ人の国家喪失と離散までの歴史的経緯 3. キリスト教ヨーロッパ世界の成立とユダヤ人 4. 西欧におけるユダヤ人の法的解放 5. 近代的反ユダヤ主義 6. 東欧ユダヤ人問題とは何か 7. シオニズムの歴史 8. ナチズムとホロコースト 9. イスラエルの建国とパレスティナ問題
- 成績評価方法（総合） 試験によって評価する。場合によってはレポートの提出を求め、評価の参考とする。
- 教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。プリントを用意する。／参考書：授業時間中に紹介する。
- 備考 集中授業

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代国際社会論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 山本真弓 | | | | |

- 授業の概要 世界最大の民主主義を自負し、ヒンドゥー教徒が8割を占めるにもかかわらず、政教分離の世俗主義を国是としているインドの現在を、政治、経済、軍事、外交の各方面より考察する。
- 授業の一般目標 日本社会に根強い「貧困」に代表されるネガティブなインドのイメージと、「悠久の歴史」といったポジティブなインド理解のいずれをも否定しつつ、コンピュータ産業が急成長している現在進行形のインドを等身大に捉えることを目標とする。
- 成績評価方法 (総合) テキストに添って、その背景なども説明しながら進める

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代国際社会論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 山本真弓 | | | | |

●授業の概要 日本、日本人という概念がどのような内容のものであり、それが近代日本においてどのように表象されていたか、という問題を、主に日本語という言語の面から考察する。

●授業の一般目標 日本語の近代のあり様を歴史的に理解する。

●授業の計画（全体） 「満州国」における言語政策の展開と、「東亜共通語」としての日本語について考察する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 異言語との対峙のなかの「国語」
- 第 2 回 項目 満州国における日本語の位置付け
- 第 3 回 項目 日本語の制度化
- 第 4 回 項目 「満州語」の創出
- 第 5 回 項目 「協和語」および満州国における日本語の諸相
- 第 6 回 項目 異言語との共存のあり方
- 第 7 回 項目 「大東亜共栄圏」構想と民族秩序
- 第 8 回 項目 「指導国」言語としての日本語
- 第 9 回 項目 「東亜共通語」の制度化への試み
- 第 10 回 項目 「東亜共通語」への試み：言語簡易化
- 第 11 回 項目 今日の問題
- 第 12 回 項目 「国際化」のなかの日本語
- 第 13 回 項目 「東亜共通語」の思想とその後
- 第 14 回 項目 補足・質問
- 第 15 回 項目 予備

●成績評価方法（総合） 出席および態度。

●教科書・参考書 教科書： 帝国日本の言語編制, 安田敏朗, 世織書房, 1997 年； 帝国日本の言語編制, 安田敏朗, 世織書房, 1997 年

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会分析論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 小谷典子 | | | | |

- 授業の概要 先行研究に関する文献研究の成果を報告する。修士論文のテーマを明確化する。
- 授業の一般目標 研究テーマを絞り込み、先行研究に関する文献研究の成果を報告し、自らの論文の作成計画をたて、計画に基づいて修士論文が作成できるよう指導する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 先行研究に関する知識を蓄積する 思考・判断の観点： 研究テーマを明確化する 関心・意欲の観点： 意欲の向上を図る 態度の観点： 積極的に取り組む
- 授業の計画（全体） 報告レポートに関して、議論し、理解を深める
- 成績評価方法（総合） 出席とレポートの作成、議論への参加度によって装具的に評価する
- 教科書・参考書 教科書： 研究テーマに応じて決める／ 参考書： 研究テーマに応じて紹介する
- 連絡先・オフィスアワー Eアドレス： otani@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会分析論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 小谷典子 | | | | |

- 授業の概要 先行研究に関する文献研究の成果を報告する。修士論文のテーマを明確化する。
- 授業の一般目標 研究テーマを絞り込み、先行研究に関する文献研究の成果を報告し、自らの論文の作成計画をたて、計画に基づいて修士論文が作成できるよう指導する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 先行研究に関する知識を蓄積する 思考・判断の観点： 研究テーマを明確化する 関心・意欲の観点： 意欲の向上を図る 態度の観点： 積極的に取り組む
- 授業の計画（全体） 報告レポートに関して、議論し、理解を深める
- 教科書・参考書 教科書： 研究テーマに応じて決める／ 参考書： 研究テーマに応じて紹介する

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会分析論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 横田尚俊 | | | | |

- 授業の概要 受講生が自らの研究テーマを深め、修士論文を作成できるよう、指導を行う。したがって、受講生自身による研究成果の報告と参加者全員による討論によって授業は進められていく。但し、受講生の人数と状況によっては、地域社会学または現代社会論のテキストを選び、各自の報告と並行する形で輪読し、討論を行うことも考えている。その場合、どのような文献をテキストに選ぶかは、受講生と相談して決定する。／検索キーワード 社会学理論、社会調査、社会構造、社会変動、修士論文
- 授業の一般目標 (1) 修士論文の研究課題を具体化し、必要な文献、資料、データ等を渉猟して、自らの研究を深められるようにする。(2) 各自の研究課題に基づいて、修士論文の作成に着手できるようにする。
- 授業の計画(全体) 受講生自身が、自らの問題関心と研究テーマにしたがって、研究報告を行う。それらの報告にしたがって、受講生全員による質疑、討論等を行う。報告の順番や授業外学習の指示等に関しては、受講生と相談の上、第1回目の授業において決定する。
- 成績評価方法(総合) 出席 40% 報告・授業への参加度 40% 課題レポート 20%
- 教科書・参考書 教科書：教科書は特に使用しない。／参考書：参考文献に関しては、授業の中で適宜指示する。
- メッセージ 初回の授業で、授業の進め方について説明するので、必ず初回の授業に出席すること。
- 連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会分析論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 辻正二 | | | | |

- 授業の概要 毎回1人ずつレポートを発表する形態の授業である。自分の大学院における研究テーマを発展するように指導する授業である。
- 授業の一般目標 (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。(3) 修士論文作成に向けての研究指導をする。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会分析論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 辻正二 | | | | |

- 授業の概要 毎回1人ずつレポートを発表する形態の授業である。自分の大学院における研究テーマを発展するように指導する授業である。
- 授業の一般目標 (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。(3) 修士論文作成に向けての研究指導をする。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会分析論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 高橋征仁 | | | | |

●授業の概要 大学院生を対象とする演習において、青年文化の形成と変容をめぐるアプローチについて検討する。／検索キーワード 対抗文化 サブカルチャー 島宇宙

●授業の一般目標 1. 日本の青年文化の形成と変容を概観する。 2. 青年現象の背後にある社会過程やメカニズムについて考察する。 3. 計量的分析の意義と限界について学ぶ。

●授業の計画（全体） 受講生の報告を中心に、授業を進める

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 ガイダンス 内容 文献検索、レジュメ作成等

第 2 回 項目 青年文化についての報告

第 3 回 項目 青年文化についての報告

第 4 回 項目 青年文化についての報告

第 5 回 項目 青年文化についての報告

第 6 回 項目 青年文化についての報告

第 7 回 項目 青年文化についての報告

第 8 回 項目 青年文化についての報告

第 9 回 項目 青年文化についての報告

第 10 回 項目 青年文化についての報告

第 11 回 項目 青年文化についての報告

第 12 回 項目 青年文化についての報告

第 13 回 項目 青年文化についての報告

第 14 回 項目 青年文化についての報告

第 15 回 項目 青年文化についての報告

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会分析論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 湯川洋司 | | | | |

- 授業の概要 民俗学に基づく個別テーマに関する演習を行なう。修士論文作成に向け、研究テーマに即した指導を行う。
- 授業の一般目標 1. 研究テーマに即した先行研究を行い、関連知識を蓄えること。 2. 研究テーマに即した研究法を考究すること。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会分析論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 湯川洋司 | | | | |

- 授業の概要 民俗学に基づく個別テーマに関する演習を行なう。修士論文作成に向け、研究テーマに即した指導を行う。
- 授業の一般目標 1. 研究テーマに即した先行研究を行い、関連知識を蓄えること。 2. 研究テーマに即した研究法を考究すること。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会分析論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 坪郷英彦 | | | | |

- 授業の概要 物質文化研究の基礎理論と研究の現状を理解する。／検索キーワード 物質文化、民俗技術
- 授業の一般目標 主要な論文の講読を中心にして、理論と研究方法についての理解を深める。
- 授業の計画（全体） 民俗技術研究の主要論文を提示し、読み進めていく。
- 成績評価方法（総合） 自主的な研究態度と期末のレポートによって評価する。
- 教科書・参考書 教科書：論文の複写をテキストとして進める。／参考書：適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10：00～12：00

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会分析論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 坪郷英彦 | | | | |

- 授業の概要 物質文化研究の基礎理論と研究の現状を理解する／検索キーワード 物質文化研究
- 授業の一般目標 基礎理論と研究方法の基本が理解できる。基本的英文文献からの情報の取得
- 授業の計画（全体） 文化人類学の物質文化に関する英文テキストを講読していく。対象は各自の研究に関連するものを取り上げる。
- 成績評価方法（総合） 各自の自主的研究態度と期末のレポートによって評価する
- 教科書・参考書 教科書： テキストは各自の研究に沿って選択する。／ 参考書： 適宜紹介する
- 連絡先・オフィスアワー Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10：00～12：00

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会分析論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 瀬瀬厚 | | | | |

●授業の概要 修士一年は二年後の修士論文提出までの研究計画を作成し、提出する義務を負う。テーマ設定については指導教官のアドバイスを受けて、自らの問題設定への取り組みに全力をあげる。修士二年は、年度末に提出を義務づけられている修士論文の執筆に向け、執筆計画の発表を行う。

●授業の一般目標 先行研究や資料を十分に精査し、論理的かつ説得的な論文の執筆を目指す。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 修士論文執筆計画の発表

第 2 回 項目 以下、論文要旨の報告を行う。適時、指導教官より講義を行う。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour PM1:00-2:30 TEL/933-5278

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会分析論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 瀬瀬厚 | | | | |

●授業の概要 前期に引き続き修士論文の執筆を目標にして報告と講義を同時的に進める。

●授業の一般目標 参考資料・文献・論文の収集と読み解きの手法を獲得する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 後期における修論執筆計画報告

第 2 回 項目 以下、順次報告と講義を進める。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●連絡先・オフィスアワー koketsy@yamaguchi-u.ac.jp Office Our Yhu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 現代社会分析論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 山本真弓 | | | | |

- 授業の概要 ネパール近現代史において重要な役割を演じ、パンチャーヤト時代には首相もつとめたことのあるひとりの政治家の生涯を、その家庭生活なども含めて記された記録を読んでいくことで、20世紀後半のネパールの政治変化とその背景を考える。
- 授業の一般目標 ネパール現代政治史を国際関係のなかで理解すること
- 授業の計画（全体） 出席および授業への参加度
- 教科書・参考書 教科書： Living Martyrs: Individuals and Revolution in Nepal, James F. Fisher, Oxford Univ. Press, 1997年 / 参考書： ネパールの歴史, 西澤憲一郎, ケイソウ書房, 1985年； ネパールの社会構造と政治経済, 西澤憲一郎, ケイソウ書房, 1987年

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会調査法演習 I | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 横田尚俊 | | | | |

●授業の概要 社会調査を企画・実施し、データを分析する能力を養うために、調査方法に関する知識と技法を演習（または実習）形式で実践的に学習する。原則として、共通の調査テーマを設定して調査を実施する予定だが、受講生の人数によっては、受講生自身の修士論文作成とかわかわらせて、調査を企画・設計し実施していく。／検索キーワード 社会調査方法論、統計調査、事例調査、調査票、サンプリング、調査対象、コーディング、データクリーニング、単純集計、クロス集計、図表

●授業の一般目標 社会調査を企画・実施し、データを収集・分析するための能力を養う。受講生自身が、調査の一連のプロセスを自立して実施できるだけの知識・能力を身につけることを目標とする。

●授業の計画（全体） 社会調査の専門的知識を習得しながら、調査の一連の過程を実践する。最終的には、調査データを分析してレポートをとりまとめてもらうか、あるいは、データを利用して修士論文を作成してもらう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨン（授業の進め方についての説明）
- 第 2 回 項目 社会調査の方法（基礎知識の確認）
- 第 3 回 項目 調査テーマの設定と調査方法の決定
- 第 4 回 項目 調査の企画（調査全体の手順とスケジュールの決定）
- 第 5 回 項目 仮説構成と調査票の検討（調査項目の洗い出し）
- 第 6 回 項目 調査票の検討
- 第 7 回 項目 調査対象（対象者、フィールド）の決定／サンプリングまたはラポール
- 第 8 回 項目 調査の実施（実査）
- 第 9 回 項目 調査の実施（実査）
- 第 10 回 項目 調査の実施（実査）
- 第 11 回 項目 調査データの処理（コーディング、データ入力）
- 第 12 回 項目 調査データの処理（データ入力）
- 第 13 回 項目 調査データの集計・分析（データクリーニングと単純集計）
- 第 14 回 項目 調査データの集計・分析（クロス集計、グラフ作成）
- 第 15 回 項目 データの分析と調査レポートの作成

●成績評価方法（総合） 授業への参加度（調査プロセス・作業への参加） 60 % 調査レポート 40 %

●教科書・参考書 教科書：ガイドブック 社会調査, 森岡清志, 日本評論社, 1998 年／参考書：社会学小辞典, 浜嶋朗ほか, 有斐閣, 1997 年；社会調査へのアプローチ, 大谷信介ほか, ミネルヴァ書房, 1999 年；その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

●連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会調査法演習 II | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 高橋征仁 | | | | |

●授業の概要 大学院生を対象として、多変量解析の基本的な考え方について講義を行うとともに、実際の調査データを用いながら、分析及びプレゼンの練習を行う。／検索キーワード 多変量解析 重回帰分析 パス解析

●授業の一般目標 1. 多変量解析の基本的な考え方について学ぶ 2. コンピュータソフトを用いて、実際に多変量解析を行う能力を身につける 3. 各自の研究テーマに関して、多変量解析を活用する方法を検討する

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 ガイダンス

第 2 回 項目 下準備と復習 内容 パソコン、統計ソフト、WEB 情報等々についての解説、基礎概念についての復習

第 3 回 項目 ウォーミングアップ 内容 第 1 章

第 4 回 項目 数量化理論 III 類 内容 第 2 章

第 5 回 項目 数量化理論 III 類 内容 第 2 章

第 6 回 項目 主成分分析 内容 第 3 章

第 7 回 項目 因子分析 1 内容 第 4 章

第 8 回 項目 因子分析 2 内容 第 4 章

第 9 回 項目 クラスター分析 内容 第 5 章

第 10 回 項目 復習と中間まとめ

第 11 回 項目 重回帰分析 内容 第 6 章

第 12 回 項目 パス解析

第 13 回 項目 判別分析 内容 第 7 章

第 14 回 項目 多変量解析における問題 内容 第 9 章

第 15 回 項目 復習とまとめ

●教科書・参考書 教科書：入門 多変量解析の実際, 朝野ひろ彦, 講談社, 2000 年

| | | | | | |
|------|-------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 社会調査法演習 III | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 山本真弓 | | | | |

●授業の概要 この授業は、日本以外の国に生きる人々の歴史を、オーラル・リサーチの手法を使って研究する手法とその成果の表現方法について扱う。まず、日本国内の場合には問題にならない出入国等の行政的手続きや政治情勢が、調査の動向やテーマ選択、ひいては調査の視点そのものをも左右しかねないほど大きな問題であることを押さえる。また、調査者の言語能力、生活能力（衣食住の条件など）が大きな意味をもつことも確認する。そのうえで、具体的な調査の過程とそこで得られた成果の分析、評価、解釈、そして報告に際しての道義的責任などについて考察する。

●授業の一般目標 現代史を、その真っ只中を生きてきた人々の〈語り〉、個人的な記憶（忘却と捏造）と経験を人々の口から導き出すことで、公文書や、教科書的な公けの歴史とは異なる動的なものとして捉えることを目的とする。

●授業の計画（全体） 技術面や方法論を扱う部分が半分くらいを占めるが、その場合にも、抽象的な説明ではなく、ネパール、インドでの調査を事例にとりあげつつ、実際に作成された資料等を読み込む作業も行なう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 現代史とオーラルリサーチ：その位置づけ (1)
- 第 2 回 項目 現代史とオーラルリサーチ：その位置づけ (2)
- 第 3 回 項目 技術的側面の調査・技能習得（治安等政治状況、調査許可およびビザ取得、入国後手続き、禁止事項、使用言語の選択と習得など）とテーマとの関係 (1)
- 第 4 回 項目 技術的側面の調査・技能習得（治安等政治状況、調査許可およびビザ取得、入国後手続き、禁止事項、使用言語の選択と習得など）とテーマとの関係 (2)
- 第 5 回 項目 テーマおよび調査地選定の方法と課題 (1)
- 第 6 回 項目 テーマおよび調査地選定の方法と課題 (2)
- 第 7 回 項目 インフォーマント探しとネットワーク形成 (1)
- 第 8 回 項目 インフォーマント探しとネットワーク形成 (2)
- 第 9 回 項目 関連資料・史料の収集と特定 (1)
- 第 10 回 項目 関連資料・史料の収集と特定 (2)
- 第 11 回 項目 成果の活用（信頼度、基礎文献資料の併用、インフォーマントの位置付けなど） (1)
- 第 12 回 項目 成果の活用（信頼度、基礎文献資料の併用、インフォーマントの位置付けなど） (2)
- 第 13 回 項目 成果の記録と活用法、分析、評価、解釈（何をどのように書くか、書かないか） (1)
- 第 14 回 項目 成果の記録と活用法、分析、評価、解釈（何をどのように書くか、書かないか） (2)
- 第 15 回 項目 成果の記録と活用法、分析、評価、解釈（何をどのように書くか、書かないか） (3)

●成績評価方法（総合） 出席、授業への参加度、期末試験の3つを総合的に評価する。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 原始文化論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 村田裕一 | | | | |

●授業の概要 縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の側面を描き出す。本講義は、上記のテーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別の考古資料および題材は、毎年・開講学期毎に異なる。／検索キーワード 考古学、石器、鉄器、弥生時代、生産と流通

●授業の一般目標 1. 事例研究の一つとして、石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。2. 遺物および遺構のデータを操作して、社会構造の復元に応用してゆく過程を習得する。3. 学術論文を批判的に読解することで抽出できる問題点から出発し、自らの理論を構築する力を養う。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：A. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。
思考・判断の観点：A. 学術論文を批判的に読解し批評することができる。B. 考古学の方法論を自分の選んだ考古学的題材に効果的に適用し、自らの考えを論理的に説明できる。

●授業の計画（全体）【弥生時代の石器・鉄器】弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ、石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で、集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し、製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期の講義では、遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置きながら、山口県や福岡県西部地域の状況を中心に扱う。後期の講義では、前期に整理した基本的な事項を基礎として、九州全域から瀬戸内・山陰地域へと視野を拡大する。＜留意点＞開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に基礎的事項を整理するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。基本的には講義スタイルの授業だが、受講生の理解のために必要と判断すれば、遺物実測図の並べ替えといった、作業を伴うような時間を設定する。また、時間内に受講生に意見を求めることもあるので自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので、受講生は考古学概説の単位を取得するか、同等の知識を習得しておくこと。

●成績評価方法（総合）小テスト・授業内レポート 10%，授業外レポート 90%。

●教科書・参考書 参考書：倭人と鉄の考古学、村上恭通、青木書店、1998年；石器入門事典—先土器—縄文—、加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助、柏書房、1991年；石器研究入門、大沼克彦・西秋良宏、鈴木美保 訳、クバプロ、1998年；考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器、北条芳隆・瀬田佳男 監修、小学館、2002年；ここにあげたものは、特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

●メッセージ 石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれません。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

●連絡先・オフィスアワー E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp、オフィスアワー：水曜日7・8時限

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 原始文化論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 村田裕一 | | | | |

●授業の概要 縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の側面を描き出す。本講義は、上記のテーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別の考古資料および題材は、毎年・開講学期毎に異なる。／検索キーワード 考古学、石器、鉄器、弥生時代、生産と流通

●授業の一般目標 1. 事例研究の一つとして、石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。2. 遺物および遺構のデータを操作して、社会構造の復元に応用してゆく過程を習得する。3. 学術論文を批判的に読解することで抽出できる問題点から出発し、自らの理論を構築する力を養う。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：A. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。
思考・判断の観点：A. 学術論文を批判的に読解し批評することができる。B. 考古学の方法論を自分の選んだ考古学的題材に効果的に適用し、自らの考えを論理的に説明できる。

●授業の計画（全体）【弥生時代の石器・鉄器】弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ、石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で、集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し、製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期の講義では、遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置きながら、山口県や福岡県西部地域の状況を中心に扱う。後期の講義では、前期に整理した基本的な事項を基礎として、九州全域から瀬戸内・山陰地域へと視野を拡大する。＜留意点＞開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に基礎的事項を整理するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。基本的には講義スタイルの授業だが、受講生の理解のために必要と判断すれば、遺物実測図の並べ替えといった、作業を伴うような時間を設定する。また、時間内に受講生に意見を求めることもあるので自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので、受講生は考古学概説の単位を取得するか、同等の知識を習得しておくこと。

●成績評価方法（総合）小テスト・授業内レポート 10%，授業外レポート 90%。

●教科書・参考書 参考書：倭人と鉄の考古学、村上恭通、青木書店、1998年；石器入門事典—先土器—縄文—、加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助、柏書房、1991年；石器研究入門、大沼克彦・西秋良宏、鈴木美保 訳、クバプロ、1998年；考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器、北条芳隆・瀬田佳男 監修、小学館、2002年；ここにあげたものは、特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

●メッセージ 石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれません。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

●連絡先・オフィスアワー E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp，オフィスアワー：水曜日7・8時限

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 原始文化論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 中村友博 | | | | |

- 授業の概要 縄文・弥生過渡期の土器研究；縄文土器の終末と初期弥生土器が、どのような関係にあるのか、比較研究をする。ここでいう比較とは、年代的な分野のみならず、文化的な比較を遺物である土器をつうじて、対照することである。授業は、毎回配布するプリントに収録する土器を検討しながら、全体として日本列島を東から西に進行する予定である。／検索キーワード 遠賀川式土器 条痕紋土器 刻目突帯文土器
- 授業の一般目標 1. 縄文時代・弥生時代の基本的な概念を検討する。 2. 型式学の実践的な方法を修得する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：文化変化にかんする基本概念を理解する。 思考・判断の観点：到達した問題点を理解する。 関心・意欲の観点：学説について修得する。
- 授業の計画（全体）近畿地方の縄文晩期・弥生土器を遺跡ごとに取り上げて、既知の報告とつきあわせながら検討する。後半には西に移動し、中国地方まで取り上げる予定である。
- 成績評価方法（総合）授業は特殊な講義であるから、成績の評価は受講生独自の研究を期末にレポートとして提出していただき、その成果・到達度を判定する。従って、あまりにも難解なテーマ、逆にあまりにも容易、簡単なテーマを選ばずに、あらかじめ十分に勉強し、正しく理解の及ぶ範囲の内容を徹底的に調べたかどうか、評価のポイントとなる。
- 教科書・参考書 教科書：とくに指定せず。／参考書：授業中に言及する。
- 連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー金曜日 16:10～17.40

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 原始文化論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 中村友博 | | | | |

- 授業の概要 縄紋・弥生過渡期の土器研究；縄紋土器の終末と初期弥生土器が、どのような関係にあるのか、比較研究をする。ここでいう比較とは、年代的な分野のみならず、文化的な比較を遺物である土器をつうじて、対照することである。授業は、毎回配布するプリントに収録する土器を検討しながら、日本列島を東から西に進行する予定である。／検索キーワード 遠賀川式土器 刻目突帯文土器
- 授業の一般目標 1. 考古学の研究がどのように進行するのか、実践的に修得する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：文化の変化の基礎概念を理解する。思考・判断の観点：従来の研究が到達した問題点を理解する。関心・意欲の観点：考古学的方法について、興味をもつ。
- 授業の計画（全体）前期の授業の継続であり、中国地方を予定している。この地域は後に古墳文化の中心になる地域であって、とくに弥生時代にその徴証がどのように認められるか、注意しながら講義を進行させる。代表的な資料については、取材を終了しているので、順次講義のなかで紹介してゆくつもりである。
- 成績評価方法（総合）成績の評価は主に期末のレポートによって判定する。この授業の主題は特殊なものであるから、受講生も考古学にかんする範囲で、自由に特殊な主題を扱い、その研究成果を提出しなくてはならない。
- 教科書・参考書 参考書：突帯文と遠賀川, 土器持寄会論文集刊行会, 2000 年
- 連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 3 階 オフィスアワー金曜日 16:10～17.40

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 原始文化論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 山中一郎 | | | | |

- 授業の概要 日本考古学の方法（型式学と技術学）；考古学の方法とは先史考古学の方法でしかありませんが、その方法を確立させた Oscar MONTELIUS までのヨーロッパでの作業を見たうえで、モンテリウス型式学の日本への導入と、その後の展開を概観して、日本考古学の方法論的問題を考えます。型式学を補完する別の体系を併用する必要を説き、ひとつの試みとして技術学の体系を探ります。／検索キーワード 型式学 動作連鎖 石器製作 造瓦 技術学
- 授業の一般目標 考古学の研究で分かることは何かを知ってもらいます。過去の世界や過去のヒトについて語るとき何を根拠にそう言えるのかと、根拠を懐疑的に求める姿勢を身につけましょう。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 過去を理解しようとするときにまず、なぜそう言えるのかと疑問を抱くこと。 思考・判断の観点： 石器、土器、瓦の見るべきところとその見方（授業でお話しする主要点です）。 関心・意欲の観点： 提示されている考え方（通説）を懐疑的に捉えること。 技能・表現の観点： 考古資料に関わった過去のヒトのジェスチャーを重複させて資料を見ること。
- 授業の計画（全体） ドゥ・モルチエおよびモンテリウスに焦点を当てて、先史考古学の方法を説明し、モンテリウス型式学の日本への導入とその後の展開からの方法論的問題を指摘します。最後にその克服へのひとつの試みに技術的な考古資料の見方があることを説きます。
- 成績評価方法（総合） 最終回に試験を実施して判定する。
- 教科書・参考書 教科書： なし。／ 参考書： 授業中に紹介します。
- 連絡先・オフィスアワー 考古学研究室・最後の授業時間（試験日を除く）の次の時間
- 備考 集中授業

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 原始文化論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 村田裕一 | | | | |

- 授業の概要 受講生の研究能力を高める訓練を目的とする演習である。受講生自らが設定したテーマにそって研究を進め成果を発表する。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行う。
- 授業の一般目標 1. 応用的な考古資料の操作方法を習得する。2. 事例研究を行い、発表、討議することで、プレゼンテーションの技術を高めるとともに、いわゆるディベートの能力を訓練する。3. 自らが設定した研究テーマを掘り下げ、修士論文につながる研究成果を導き出す。
- 授業の到達目標／ 技能・表現の観点： A. 考古資料に対して、より効果的な資料操作を行うことができる。 B. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを駆使して説明できる。 C. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。 D. 発表に際しての討議で、的確な受け答えができる。
- 授業の計画（全体） 【考古学の諸問題】 受講生は、各自が設定したテーマにそって研究発表を行う。発表者は、レジメの図版の組み方、図表類の効果的な使用を心がける。発表については、受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。
- 成績評価方法（総合） 受講者の発表（プレゼン）・授業内での制作作品 100 %。
- メッセージ 研究を進展させ、学外の調査研究機関に資料調査に行く機会、あるいは学術研究会等で情報収集を行う機会を多く作ってください。研究は一朝一夕に進展するものではないので、各自の日頃の取り組みが重要です。地道に努力し、多彩な研究分野に興味関心を持って研究を進めてください。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。可能であれば、発表者は、パソコンによるプレゼンテーションを取り入れた発表を1回以上行ってください。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー：水曜日7・8時限

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 原始文化論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 村田裕一 | | | | |

- 授業の概要 受講生の研究能力を高める訓練を目的とする演習である。受講生自らが設定したテーマによって研究を進め成果を発表する。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行う。
- 授業の一般目標 1. 応用的な考古資料の操作方法を習得する。2. 事例研究を行い、発表、討議することで、プレゼンテーションの技術を高めるとともに、いわゆるディベートの能力を訓練する。3. 自らが設定した研究テーマを掘り下げ、修士論文につながる研究成果を導き出す。
- 授業の到達目標／ 技能・表現の観点： A. 考古資料に対して、より効果的な資料操作を行うことができる。 B. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを駆使して説明できる。 C. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。 D. 発表に際しての討議で、的確な受け答えができる。
- 授業の計画（全体） 【考古学の諸問題】 受講生は、各自が設定したテーマによって研究発表を行う。発表者は、レジメの図版の組み方、図表類の効果的な使用を心がける。発表については、受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。
- 成績評価方法（総合） 受講者の発表（プレゼン）・授業内での制作作品 100 %。
- メッセージ 研究を進展させ、学外の調査研究機関に資料調査に行く機会、あるいは学術研究会等で情報収集を行う機会を多く作ってください。研究は一朝一夕に進展するものではないので、各自の日頃の取り組みが重要です。地道に努力し、多彩な研究分野に興味関心を持って研究を進めてください。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。可能であれば、発表者は、パソコンによるプレゼンテーションを取り入れた発表を1回以上行ってください。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー：水曜日7・8時限

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 原始文化論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 中村友博 | | | | |

- 授業の概要 比較考古学演習：考古資料の取り扱いを実践する。主題については、学生の希望にしたがう。資料検索の方法、およびその取り扱いが考古学の正規の手順に則るように指導するが、主な分野は図書で独学では修得不可能な分野に力点を置く。
- 授業の一般目標 1. 専門的な論文が読めるようになる。 2. 専門的な論文が書けるようになる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：従来の学説を承知する。思考・判断の観点：問題点を明確に整理する。関心・意欲の観点：徹底した資料収集をはかる。態度の観点：論点の公共化を図る。技能・表現の観点：資料の適正な表現法を修得する。
- 授業の計画（全体）受講生に年間研究計画を立てさせ、それに従って進行するように務める。
- 成績評価方法（総合）演習の平常時をもって、採点する。専門的な水準に到達していなければ、いくら出席率がよくても高く評価しない。逆に、今まで研究者がだれも気が付かなかったことを、周到に調べ上げ、体系づけ、新たに独創的な研究分野を切り開けば、高く評価する。普通、従来の研究の成果を理解し、問題解決のための資料を検索、検討し、一歩でも研究が前進できればよしとする。
- 教科書・参考書 教科書：指定せず。／参考書：授業中に紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー金曜日 16:10～17.40

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 原始文化論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 中村友博 | | | | |

- 授業の概要 比較考古学演習：考古資料の取り扱いを実践する。主題については、学生の希望にしたがう。その取り扱いが考古学の正規の手順に則るようこころがける。
- 授業の一般目標 1. 専門的な論文が読めるようになる。 2. 専門的な論文が書けるようになる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：従来の学説を承知する。 思考・判断の観点：問題点を整理し、明確化する。 関心・意欲の観点：資料収集の徹底を図る。 態度の観点：論点の公共化をはかる。 技能・表現の観点：効果的な表現法の修得する。
- 授業の計画（全体） 研究計画を事前にたずね、それに従って進行する。特に苦手とおもう分野があれば、指導が対応できれば、改善するから申し出が可能である。
- 成績評価方法（総合） 演習の平常時をもって、採点する。専門的な水準に到達していなければ、いくら出席率がよくても高く評価しない。逆に、今まで研究者がだれも気が付かなかったことを、周到に調べ上げ、体系づけ、新たに独創的な研究分野を切り開けば、高く評価する。普通、従来の研究の成果を理解し、問題解決のための資料を検索、検討し、一歩でも研究が前進できればよしとする。
- 教科書・参考書 教科書：指定せず。／参考書：授業中に紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー金曜日 16:10～17.40

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 芸術論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 奥津 聖 | | | | |

●授業の概要 イメージという言葉の意味は多義的です。従来のイメージの解釈学は、造形芸術におけるイメージの意味内容の解釈にその主題は限定されていました。この講義では、現代芸術一般を対象とすることの可能な広義の「イメージの解釈学」の構築を目指します。この講義では日本の美学に焦点を当てます。／検索キーワード イメージ、解釈学、視覚的思索、明治、日本の美学

●授業の一般目標 明治以降の日本の美学の読解を通じて、美学の基礎に通じること。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：明治時代の日本語の読解力を養う 思考・判断の観点：解釈の実践 技能・表現の観点：レポート作成

●授業の計画（全体） 明治の美学を読む

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 序論 オリエンテーション 内容 講義内容、履修方法等の説明。Web 上の美学関連資料の紹介。活用。

第 2 回 項目 美学とは何か 1 内容 簡単な美学の歴史の解説 1

第 3 回 項目 美学とは何か 2 内容 簡単な美学の歴史の解説 2

第 4 回 項目 美学とは何か 3 内容 簡単な美学の歴史の解説 3

第 5 回 項目 明治の美学 1 内容 西周の美妙學説を英訳を参照しつつ読む 1

第 6 回 項目 明治の美学 2 内容 西周の美妙學説を英訳を参照しつつ読む 2

第 7 回 項目 明治の美学 3 内容 西周の美妙學説を英訳を参照しつつ読む 3

第 8 回 項目 明治の美学 4 内容 逍遙を読む 1

第 9 回 項目 明治の美学 5 内容 逍遙を読む 2

第 10 回 項目 明治の美学 6 内容 天心を読む 1

第 11 回 項目 明治の美学 7 内容 天心を読む 2

第 12 回 項目 明治の美学 8 内容 樗牛を読む 1

第 13 回 項目 明治の美学 9 内容 樗牛を読む 2

第 14 回 項目 明治の美学 10 内容 樗牛を読む 3

第 15 回 項目 終論 エピローグ 内容 講義の補足と総括。

●成績評価方法（総合） レポートを随時提出

●教科書・参考書 教科書：教科書プリントを配布。ホームページ上に随時資料を掲載。／参考書：参考文献は、講義中に提示する。

●メッセージ 教科書は無い。プリント資料を配布。

●連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 芸術論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 奥津 聖 | | | | |

●授業の概要 イメージという言葉の意味は多義的です。従来のイメージの解釈学は、造形芸術におけるイメージの意味内容の解釈にその主題は限定されていました。この講義では、現代芸術一般を対象とすることの可能な広義の「イメージの解釈学」の構築を目指します。この講義では日本の美学に焦点を当てます。／検索キーワード イメージ、解釈学、視覚的思索、明治、日本の美学

●授業の一般目標 明治以降の日本の美学の読解を通じて、美学の基礎に通じること。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：明治時代の日本語の読解力を養う 思考・判断の観点：解釈の実践 技能・表現の観点：レポート作成

●授業の計画（全体） 明治の美学を読む

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 序論 オリエンテーション 内容 講義内容、履修方法等の説明。Web 上の美学関連資料の紹介。活用。

第 2 回 項目 明治の美学とは何か 1 内容 前期のまとめ 1

第 3 回 項目 明治の美学とは何か 2 内容 前期のまとめ 2

第 4 回 項目 明治の美学とは何か 3 内容 前期のまとめ 3

第 5 回 項目 明治の美学 1 内容 大西祝を読む 1

第 6 回 項目 明治の美学 2 内容 大西祝を読む 2

第 7 回 項目 明治の美学 3 内容 大西祝を読む 3

第 8 回 項目 明治の美学 4 内容 抱月を読む 1

第 9 回 項目 明治の美学 5 内容 抱月を読む 2

第 10 回 項目 明治の美学 6 内容 抱月を読む 3

第 11 回 項目 明治の美学 7 内容 抱月を読む 4

第 12 回 項目 明治の美学 8 内容 抱月を読む 5

第 13 回 項目 明治の美学 9 内容 抱月を読む 6

第 14 回 項目 明治の美学 10 内容 抱月を読む 7

第 15 回 項目 終論 エピローグ 内容 講義の補足と総括。

●成績評価方法（総合） レポートを随時提出

●教科書・参考書 教科書：教科書プリントを配布。ホームページ上に随時資料を掲載。／参考書：参考文献は、講義中に提示する。

●メッセージ 教科書は無い。プリント資料を配布。

●連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 芸術論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 佐藤 文昭 | | | | |

●授業の概要 この講義では、建築における美の捉え方について解説する。講義毎にキーワードを設定し、それを中心としながら、前近代、近代、ポスト近代のそれぞれの時代にみられる美の特徴を、多くの事例を用いながら解説する。さらに、今日の建築を取り巻く問題点について明らかにするとともに、芸術としての建築の重要性について言及する。

●授業の一般目標 芸術としての建築の捉え方について理解する。多様な角度から建築のもつ美しさに関心を持つ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：・各キーワードからみた建築の特徴について理解する。・各時代の建築の特徴について理解する。思考・判断の観点：・各自の価値観に基づき、建築やそれがもつ美しさについて評価することが出来る。関心・意欲の観点：・身近にある建物の美しさに関心を持つ。・建築と社会との関係について興味を持つ。態度の観点：・国内の有名建築を訪ね、その美しさを体感する。

●授業の計画（全体）はじめに、建築とその空間が生み出す美について解説する。その内容を踏まえ、以下のキーワードについて、時代背景による特徴や、地域の風土や文化との関係などを比較しながら解説する。・強さ（構造）・形（スタイル）・場所と空間・光と影・歴史・経済

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 イントロダクション 内容 講義の目的や全体スケジュールなどについて紹介する。

第 2 回 項目 強さ（1） 内容 建築の構造や材料と、その組み合わせが生み出す美について解説する。

第 3 回 項目 強さ（2） 内容 同上

第 4 回 項目 形（1） 内容 建築様式の意味や、自然の形態の引用など、建築に関わる様々な形について解説する。

第 5 回 項目 形（2） 内容 同上

第 6 回 項目 場所と空間（1） 内容 建築を取り巻く環境や風土、場所のもつ力などとの関係について解説する。

第 7 回 項目 場所と空間（2） 内容 同上 授業外指示 講義の最後に、中間レポートの課題を指示する。

第 8 回 項目 光と影（1） 内容 建築が生み出す光と影の美しさ、その中に込められた意味について解説する。

第 9 回 項目 光と影（2） 内容 同上

第 10 回 項目 歴史（1） 内容 建築デザインと過去の歴史との関係について解説する。

第 11 回 項目 歴史（2） 内容 同上

第 12 回 項目 経済（1） 内容 近代以降の資本主義社会における建築デザインの変容について解説する。

第 13 回 項目 経済（2） 内容 同上

第 14 回 項目 最終レポート 内容 時間内で、レポートを作成し、発表する。

第 15 回 項目 まとめ 内容 これまでの講義内容についてまとめる。

●成績評価方法（総合）2回のレポート（中間と最終）により評価する。【全体】授業の内容を各自なりに咀嚼し、それに基づいて建築の体験をどのように分析しているかにより評価する。【観点別】○知識・理解の観点：各自の建築体験に基づき、各キーワードの意味を理解している。○思考・判断の観点：各自の建築体験を、自らの価値観に基づき評価している。

●教科書・参考書 教科書：各回にプリントを配布する。／参考書：参考書等は、各回の授業の中で紹介する、

●備考 集中授業

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 芸術論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 藤川哲 | | | | |

●授業の概要 この講義では、国内外で開催されている国際美術展の現況について解説します。デジタル画像やビデオの上映を交えながら国際美術展の歴史、代表的な国際美術展を紹介したのち、特に1990年代以降のグローバリゼーションの影響について、ヨーロッパとアジアとの対比の中で見ていきます。／検索キーワード 国際美術展、現代美術、グローバリゼーション、ビエンナリゼーション

●授業の一般目標 (1) 国際美術展の現況について理解する。(2) 現代美術に関心をもつ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 現代美術の面白さ、展覧会の面白さがわかる。2. 代表的な国際美術展について簡単な説明ができる。思考・判断の観点：1. 幅広く深い教養を背景に、美術作品の好悪巧拙の判断ができる。2. 国際美術展について肯定的な側面と課題とを指摘できる。関心・意欲の観点：1. 自分の感性を絶えず磨き続ける。2. 幅広い教養を身につける。態度の観点：1. 国内で開催されている展覧会情報をチェックし、心の琴線に触れた展覧会には実際に出掛けてみる。2. 海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展を訪れる。

●授業の計画（全体）前半は、国際美術展の歴史、日本の参加・開催の経緯等について概観する。中盤は毎回1つの国際美術展を取り上げ、話題を集めた作品の紹介や、企画者の意図等の解説を行う。後半は、ヨーロッパとアジアとの対比の中で、国際美術展におけるグローバリゼーションの問題を究明する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 事例研究1

第3回 項目 事例研究2

第4回 項目 事例研究3

第5回 項目 事例研究4

第6回 項目 事例研究5

第7回 項目 中間まとめ

第8回 項目 事例研究6

第9回 項目 事例研究7

第10回 項目 事例研究8

第11回 項目 事例研究9

第12回 項目 総括

第13回

第14回

第15回

●成績評価方法（総合）(1) 期末試験による評価、(2) コメント票による評価、(3) 出席による評価

●教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。／参考書：『12人の挑戦—大観から日比野まで』、茨城新聞社、2002年 石井元章『ヴェネツィアと日本—美術をめぐる交流』、ブリュッケ、1999年 『ヴェネツィア・ビエンナーレー—日本参加の40年』、国際交流基金、毎日新聞社、1995年、ほか講義の中で随時紹介する。

●メッセージ 「ビエンナリゼーション」という呼ばれ方で、アートの世界でもグローバリゼーションが進んでいます。現代美術の明日はどっちだ!?

●連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 芸術論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 藤川哲 | | | | |

●授業の概要 この講義では、2004 年度に開催される展覧会を紹介しします。特に、企画趣旨や出品作品、作家について解説します。／検索キーワード 展覧会企画、現代美術、近代美術、西欧美術

●授業の一般目標 (1) 各展覧会の企画趣旨について理解を深める。(2) 美術に関心をもつ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 作品や展覧会の面白さがわかる。2. 美術史の基本的な用語を作品に即して説明できる。思考・判断の観点：. 展覧会のテーマが社会に投げかける問いを読み解き、自らの考えを述べる ことができる。2. 展覧会企画における現実的な制約と先取的な企図とのせめぎあいを看取できる。関心・意欲の観点：1. 自分の感性を絶えず磨き続ける。2. 幅広い教養を身につける。態度の観点：1. 国内で開催されている展覧会情報をチェックし、心の琴線に触れた展覧会には実際に 出掛けてみる。2. 海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展を訪れる。

●授業の計画（全体） 基本的に各週 1 つの展覧会を紹介しします。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 事例研究 1

第 3 回 項目 事例研究 2

第 4 回 項目 事例研究 3

第 5 回 項目 事例研究 4

第 6 回 項目 事例研究 5

第 7 回 項目 事例研究 6

第 8 回 項目 事例研究 7

第 9 回 項目 事例研究 8

第 10 回 項目 事例研究 9

第 11 回 項目 事例研究 10

第 12 回 項目 総括

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●成績評価方法（総合）(1) 期末試験による評価、(2) コメント票による評価、(3) 出席による評価

●メッセージ 実戦経験を積んで強くなってください。芸術論における実戦経験とは、すなわち、作品を前にあなたが何を感じる ことができるか、です。むしろあなたが作品から挑まれている、と想像してみてください。さあ、展覧会へ出掛けましょ う！

●連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 芸術論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 奥津聖 | | | | |

- 授業の概要 修士論文作成準備 課題の講読／検索キーワード 修士論文
- 授業の一般目標 修士論文作成準備 課題の講読
- 授業の到達目標／ 思考・判断の観点： 独自の方法論の模索
- 授業の計画（全体） 修士論文作成準備 課題の講読
- 連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 芸術論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 奥津聖 | | | | |

- 授業の概要 修士論文作成準備 課題の講読／検索キーワード 修士論文
- 授業の一般目標 修士論文作成準備 課題の講読
- 授業の到達目標／ 思考・判断の観点： 独自の方法論の模索
- 授業の計画（全体） 修士論文作成準備 課題の講読
- 連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 芸術論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 藤川哲 | | | | |

●授業の概要 各自の研究に関係のある論文を紹介してもらいます。レジュメ作成のこと。外国語文献の場合は、訳文作成をお願いします。授業は、発表内容に対する討議を中心とします。

●授業の一般目標 専門的かつ横断的な視野と思考力の獲得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：自らの研究課題の解明に必要な専門的知識を習得する。 思考・判断の観点：自らの研究課題をめぐって幅広い視野から多面的に考え抜く。 関心・意欲の観点：身の周りのさまざまな物事に対して常に問題意識をもつ。 態度の観点：適切な課題設定を行い、解決に向けた最適な筋道を構想した上で、それを着実に実現できる。

●授業の計画（全体） 1人の発表者が1～3週間、同じテーマで発表を担当し、集中的に討議します。その後、別の学生による発表と討議、と続けます。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 研究発表

第 3 回 項目 研究発表

第 4 回 項目 研究発表

第 5 回 項目 研究発表

第 6 回 項目 研究発表

第 7 回 項目 中間討議

第 8 回 項目 研究発表

第 9 回 項目 研究発表

第 10 回 項目 研究発表

第 11 回 項目 研究発表

第 12 回 項目 総括

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●成績評価方法（総合） 発表内容と期末のレポートによって評価します。

●教科書・参考書 参考書：適宜紹介します。

●連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 芸術論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 藤川哲 | | | | |

●授業の概要 各自の研究に関係のある論文を紹介してもらいます。レジュメ作成のこと。外国語文献の場合は、訳文作成をお願いします。授業は、発表内容に対する討議を中心とします。

●授業の一般目標 専門的かつ横断的な視野と思考力の獲得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：自らの研究課題の解明に必要な専門的知識を習得する。思考・判断の観点：自らの研究課題をめぐって幅広い視野から多面的に考え抜く。関心・意欲の観点：身の周りのさまざまな物事に対して常に問題意識をもつ。態度の観点：適切な課題設定を行い、解決に向けた最適な筋道を構想した上で、それを着実に実現できる。

●授業の計画（全体）1人の発表者が1～3週間、同じテーマで発表を担当し、集中的に討議します。その後、別の学生による発表と討議、と続けます。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 研究発表1

第3回 項目 研究発表2

第4回 項目 研究発表3

第5回 項目 研究発表4

第6回 項目 研究発表5

第7回 項目 中間討議

第8回 項目 研究発表6

第9回 項目 研究発表7

第10回 項目 研究発表8

第11回 項目 研究発表9

第12回 項目 総括

第13回

第14回

第15回

●成績評価方法（総合）発表内容と期末レポートによって評価します。

●教科書・参考書 参考書：適宜紹介します。

●連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

言語文化専攻

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 添田建治郎 | | | | |

●授業の概要 日本語のアクセントについて、その機能、特徴、成立と変遷について理解する。／検索キーワード 方言の形成, 方言研究の意義

●授業の一般目標 日本語のアクセントを分析する視点を獲得する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点：日本語のアクセントも意義を再認識する。 思考・判断の観点：日本語の方言についての分析視点を獲得する。 関心・意欲の観点：日本語のアクセントも意義を再認識する。

●授業の計画（全体） 日本語のアクセントの機能、特徴、成立と変遷、方言アクセントの実態・分布等について述べる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 アクセントとは何か
- 第 3 回 項目 アクセントの意義
- 第 4 回 項目 アクセントの意義
- 第 5 回 項目 アクセントとイントネーション
- 第 6 回 項目 日本語のアクセントの特徴
- 第 7 回 項目 日本語のアクセントの機能
- 第 8 回 項目 日本語のアクセントの機能
- 第 9 回 項目 日本語のアクセントの機能
- 第 10 回 項目 日本語のアクセントの単位
- 第 11 回 項目 アクセントの単位
- 第 12 回 項目 アクセントの単位
- 第 13 回 項目 日本語のアクセントの成立・変遷
- 第 14 回 項目 日本語アクセントの分布
- 第 15 回 項目 筆記試験

●成績評価方法（総合） 定期試験、質問カード、出席

●教科書・参考書 参考書：国語アクセントの史的研究, 金田一春彦, 塙書房, 1974 年

●連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階（9 3 3－5 2 4 9） オフィスアワー火曜日 1:00～2:30

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 添田建治郎 | | | | |

●授業の概要 日本語のアクセントについて、その機能、特徴、成立と変遷、方言アクセントの実態、分布、調査法等を述べる。

●授業の一般目標 日本語のアクセントの意義について理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：日本語のアクセントについて、その機能、特徴、成立と変遷について理解する。思考・判断の観点：日本語のアクセントについての分析視点を獲得する。関心・意欲の観点：日本語の方言の意義を再認識する。

●授業の計画（全体）日本語のアクセントについて、その機能、特徴、成立と変遷、方言アクセントの実態、分布、調査法等を述べる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本語のアクセントの分布の実態
- 第 2 回 項目 日本語のアクセントの分布の実態
- 第 3 回 項目 日本語のアクセントの分布の実態
- 第 4 回 項目 日本語のアクセントの分布の実態
- 第 5 回 項目 日本語のアクセントの分布の実態
- 第 6 回 項目 日本語のアクセントの分布の実態
- 第 7 回 項目 日本語のアクセントの歴史的な大系の変遷
- 第 8 回 項目 日本語のアクセントの歴史的な大系の変遷
- 第 9 回 項目 日本語のアクセントの歴史的な大系の変遷
- 第 10 回 項目 日本語のアクセントの歴史的な大系の変遷
- 第 11 回 項目 日本語のアクセントの歴史的な大系の変遷
- 第 12 回 項目 日本語のアクセントの歴史的な大系の変遷
- 第 13 回 項目 方言調査法
- 第 14 回 項目 方言調査法
- 第 15 回 項目 筆記試験

●成績評価方法（総合）定期試験、質問カード、出席

●連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階（9 3 3－5 2 4 9） オフィスアワー火曜日 1:00～2:30

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 林伸一 | | | | |

- 授業の概要 日本語学特殊講義の前期概要に準ずる 大学院生にとっては、修士論文の作成のヒントになるような授業になるようにする。／検索キーワード 日本語教授法、エンカウンター
- 授業の一般目標 日本語学特殊講義前期に準ずる。大学院生としては、自ら構成的グループ・エンカウンターの実施者として、リーダーシップを 発揮できるようにする。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1、構成的グループ・エンカウンターと類似の活動との異同について説明できる。 2、人間関係づくり、リレーションづくりのしかけとしくみを理解する。 3、日本語教育とカウンセリングの接点について理解を深める。 思考・判断の観点： 特殊講義に同じ 関心・意欲の観点： 特殊講義に同じ 態度の観点： 特殊講義に同じ 技能・表現の観点： 1、他者の立場を尊重しながらも、説得力のある自己主張をする。 2、簡潔に自分の意見を述べ、書けるようにする。 3、質問力を身につけ、日本語教授法につながる技法を身につける。
- 授業の計画（全体） 特殊講義に準ずる
- 成績評価方法（総合） 出席とレポートを重視し、テストはしない。
- 教科書・参考書 教科書： 多文化共生のコミュニケーション, 徳井厚子, アルク, 2002 年／ 参考書： エンカウンターとは何か, 国分康孝ほか, 図書文化, 2000 年； エンカウタースキルアップ, 国分康孝ほか, 図書文化, 2001 年； 質問力, 齋藤孝, 筑摩書房, 2003 年； 多文化共生時代の日本語教育, 縫部義憲, 瀝々社, 2002 年； エンカウターで学級が変わるシリーズ, 国分康孝他, 図書文化, 1999 年
- メッセージ 日本語教師志望者、留学生歓迎
- 連絡先・オフィスアワー 人文学部 2 階 210-2 号室（研究室）, オフィスアワー木曜： 11 時～12 時
E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯： 090 - 6415 - 8203

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 林伸一 | | | | |

- 授業の概要 日本語学特殊講義後期の授業概要に準ずる／検索キーワード 日本語教授法、エンカウンター
- 授業の一般目標 同上
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 特殊講義に準じる 思考・判断の観点： 同上 関心・意欲の観点： 同上 態度の観点： 同上 技能・表現の観点： 同上
- 授業の計画（全体） 特殊講義に準ずる
- 成績評価方法（総合） 特殊講義に準ずる
- 教科書・参考書 教科書： 特殊講義に同じ／ 参考書： 特殊講義に同じ
- メッセージ 日本語教師志望者、留学生歓迎、他学科・他コースの学生歓迎
- 連絡先・オフィスアワー 前期に同じ

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 磯部佳宏 | | | | |

- 授業の概要 ～文法論と文法学史～ 近世以前の文法学史を概観するとともに、近代以降の代表的な文法論を紹介しながら、日本語の文法研究史と、その特徴について考察する。
- 授業の一般目標 日本語の文法論と文法学史に関する基礎知識を身に付けるとともに、日本語の文法研究に関する諸問題について考える。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 日本語の文法論と文法学史に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。 思考・判断の観点： 日本語の文法論と文法学史に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 関心・意欲の観点： 授業に対する取り組みを判断する。
- 授業の計画（全体） ○中世の「てにをは」研究 ○近世の文法研究－富士谷成章、本居宣長、鈴木胤、本居春庭、東条義門 ○近代の文法研究－大槻文彦、山田孝雄、松下大三郎、橋本進吉、時枝誠記
- 成績評価方法（総合） 期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。
- 教科書・参考書 教科書： 国語文法論, 渡辺実, 笠間書院, 1974 年； 教科書は生協で扱う。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 磯部佳宏 | | | | |

- 授業の概要 ～日本語構文論～ 「時枝文法」以降の代表的な文法論である「渡辺文法」を中心に扱いつながりながら、先行の文法論と比較対照することにより、日本語の文法的特色について考察を加える。さらに、その後の「北原文法」についても触れる。
- 授業の一般目標 日本語を構文論の立場で考えることにより、日本語の文法の諸問題について深く考察する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 「渡辺文法」に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。 思考・判断の観点： 構文論的な視点に基づいて、日本語の文法に対する思考力を判断する。 関心・意欲の観点： 授業に対する取り組みを判断する。
- 授業の計画（全体） ○時枝文法の問題点 ○渡辺文法の特徴 ○構文的職能 ○統叙の職能 ○陳述の職能 ○単語の分類 ○助動詞の相互承接 ○文の種類 ○北原文法の特徴
- 成績評価方法（総合） 期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。
- 教科書・参考書 教科書： 国語文法論, 渡辺実, 笠間書院, 1974 年； 教科書は生協で扱う。／ 参考書： 国語構文論, 渡辺実, 塙書房, 1971 年； 日本語助動詞の研究, 北原保雄, 大修館書店, 1981 年； 日本語の世界 6, 北原保雄, 中央公論社, 1981 年

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 添田建治郎 | | | | |

- 授業の概要 『音曲玉淵集』を読む。／検索キーワード 近世音韻史資料, 三浦庚妥
- 授業の一般目標 これにより, 日本語の音韻史の中世から近世にかけて, そして現代への変化を実際に読みとる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点: 中世日本語の音韻の実態を知る。 思考・判断の観点: 中世以降の日本語の音韻変化の流れ・要因を考察する 関心・意欲の観点: 自国の言語の歴史を再認識する。
- 授業の計画(全体) 『音曲玉淵集』の巻一の影印本本文を読む。
- 授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等
 - 第 1 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 2 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 3 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 4 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 5 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 6 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 7 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 8 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 9 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 10 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 11 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 12 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 13 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 14 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 15 回 項目 レポート
- 成績評価方法(総合) 出席, レポートの内容
- 教科書・参考書 教科書: 『音曲玉淵集』(臨川書店)
- 連絡先・オフィスアワー 研究室: 人文学部5階(933-5249) オフィスアワー: 火曜日 1:00~2:30 研究室: 人文学部5階 オフィスアワー: 火曜日 10:00~12:00 研究室: 人文学部5階 オフィスアワー: 10:00~12:00

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 添田建治郎 | | | | |

- 授業の概要 『音曲玉淵集』を読む。／検索キーワード 近世音韻史資料, 三浦庚妥
- 授業の一般目標 これにより, 日本語の音韻史の中世から近世にかけて, そして現代への変化を実際に読みとる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点: 近世記日本語の音韻の実態を知る。 思考・判断の観点: 中世以降の日本語の音韻変化の流れ・要因を考察する 関心・意欲の観点: 自国の言語の歴史を再認識する。
- 授業の計画(全体) 『音曲玉淵集』の巻一の影印本本文を読む。
- 授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等
 - 第 1 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 2 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 3 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 4 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 5 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 6 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 7 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 8 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 9 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 10 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 11 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 12 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 13 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 14 回 項目 音曲玉淵集(巻一)
 - 第 15 回 項目 レポート
- 成績評価方法(総合) 出席, レポートの内容
- 教科書・参考書 教科書: 『音曲玉淵集』(臨川書店)
- 連絡先・オフィスアワー 研究室: 人文学部5階(9 3 3-5 2 4 9) オフィスアワー: 火曜日 1:00~2:30

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 林伸一 | | | | |

- 授業の概要 主に日本語教育、日本語教授法関連の学術論文、実践報告を材料に大学院生レベルの演習をおこなう。特に修士論文の作成に直結するような内容の検討を相互に実施する。／検索キーワード 論文文化、研究発表
- 授業の一般目標 1、学術論文、実践報告を批判的に読む。 2、修士論文のテーマを明確にしなが、その目的と意義を考える。 3、修士論文の研究手法と手順について検討する。 4、修士論文のデータの取り方、処理のしかたを検討する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1、論文とエッセイの違い 2、学術論文と報告書の違い 3、先行研究とオリジナリティの関係 4、論文と教科書風記述の問題 思考・判断の観点： 1、論旨の一貫性 2、放射思考としてのマインドマップの活用 3、一般論に対して適切な具体例の提示 関心・意欲の観点： 1、テーマに関する関心と意欲 2、研究方法に関する関心と意欲 3、表現方法に関する関心と意欲
- 授業の計画（全体） 上記のような授業の各目標を達成するために授業を対話的なゼミ形式で進めていく。例えば「論文とエッセイの違い」など二項対立的な問いをペアワーク形式で考えていく。院生一人一人の興味と関心に合わせて、具体的な課題を設定し、ディスカッションする。学術論文産出に貢献するような形で、検討とアドバイスを積み重ねていく。
- 成績評価方法（総合） 出席と論文発表・授業内小レポート（質問・感想カード）を重視し、テストはしない。
- 教科書・参考書 教科書：プリント配布／参考書：プリント配布
- メッセージ 事実を発見し、育み、発表して形にする知の広場としてのゼミナール。地道に探求し、独自性を尊重する態度を大切にしたい。
- 連絡先・オフィスアワー 人文学部 2 階 210 - 2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時-12 時
E-mail:hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090 - 6145 - 8203

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 林伸一 | | | | |

- 授業の概要 前期概要に準ずるが、その発展として、修士論文の内容の吟味をする 実際に修士論文の一部を取り出し、先行的に研究を試行してみる できれば学会発表を経験するための準備をする／検索キーワード 前期と同じ
- 授業の一般目標 1、学会発表を想定して、発表申請書を作成する。 2、学会発表のためのハンドアウトを作成する。 3、学会発表のリハーサルをゼミで実施する。 4、指摘された不十分な点を補い、内容を修正する。 5、学会発表の積み重ねで、修士論文を作成する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1、先行研究の知識と理解 2、仮説と検証の関係 思考・判断の観点： 1、独話論の世界に入り込んでいないか 2、序論一本論一結論といった論文の構成の適否 技能・表現の観点： 1、図や表の処理の技能 2、文章表現能力
- 授業の計画（全体） 上記の目標を達成するための演習を対話的ゼミナール形式で行なう。
- 成績評価方法（総合） 出席と発表を重視し、テストは行なわない。
- 教科書・参考書 教科書： プリント配布／ 参考書： プリント配布
- メッセージ 前期と同じ
- 連絡先・オフィスアワー 前期と同じ

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 磯部佳宏 | | | | |

- 授業の概要 ～『とはずがたり』を読む(1)～ 中世の女流日記文学『とはずがたり』を演習形式で講読する。
- 授業の一般目標 『とはずがたり』の語法・語彙について、自発的に問題提起し、調査発表する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点： 発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点： 質疑応答への参加度。 技能・表現の観点： 口頭発表における技術、表現。資料・参考文献の取り扱い方。
- 授業の計画（全体） 当該作品の語法・語彙について調査するとともに、平安時代の作品の語法・語彙との比較も行い、資料を作成して口頭発表してもらおう。
- 成績評価方法（総合） 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの現代語訳。
- 教科書・参考書 教科書： とはずがたり, 伊地知鉄男編, 笠間書院, 1972 年

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本語論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 磯部佳宏 | | | | |

- 授業の概要 ～『とはずがたり』を読む(2)～ 中世の女流日記文学『とはずがたり』を演習形式で講読する。
- 授業の一般目標 『とはずがたり』の語法・語彙について、自発的に問題提起し、調査発表する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点： 発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点： 質疑応答への参加度。 技能・表現の観点： 口頭発表における技術、表現。資料・参考文献の取り扱い方。
- 授業の計画（全体） 当該作品の語法・語彙について調査するとともに、平安時代の作品の語法・語彙との比較も行い、資料を作成して口頭発表してもらおう。
- 成績評価方法（総合） 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの現代語訳。
- 教科書・参考書 教科書： とはずがたり, 伊地知鉄男編, 笠間書院, 1972 年

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 森野正弘 | | | | |

- 授業の概要 平安文学作品を対象として、研究史の上で営まれてきた様々な読解を紹介しつつ、そこで提起された諸問題について検討を加えていく。／検索キーワード 古典文学
- 授業の一般目標 平安文学作品を研究する上で必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力を養成する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：平安文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：平安文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。関心・意欲の観点：自発的に平安文学作品を読み進め、関連する事項について調査・研究する意欲を高める。態度の観点：平安文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができるようになる。
- 授業の計画（全体） 『源氏物語』第一部の物語について先行研究が提示してきた読解の視点を検証していく。
- 成績評価方法（総合） 期末試験・小テストによる。
- 教科書・参考書 教科書：新編日本古典文学全集『源氏物語（1）～（6）』, 阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男, 小学館, 1994年／参考書：授業時に紹介する。
- メッセージ 80パーセント以上出席すること。
- 連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 森野正弘 | | | | |

- 授業の概要 平安文学作品を対象として、研究史の上で営まれてきた様々な読解を紹介しつつ、そこで提起された諸問題について検討を加えていく。／検索キーワード 古典文学
- 授業の一般目標 平安文学作品を研究する上で必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力を養成する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：平安文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：平安文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。関心・意欲の観点：自発的に平安文学作品を読み進め、関連する事項について調査・研究する意欲を高める。態度の観点：平安文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができるようになる。
- 授業の計画（全体） 『源氏物語』第一部の物語について先行研究が提示してきた読解の視点を検証していく。
- 成績評価方法（総合） 期末試験・レポートによる。
- 教科書・参考書 教科書：新編日本古典文学全集『源氏物語（1）～（6）』, 阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男, 小学館, 1994年／参考書：授業時に紹介する。
- メッセージ 80パーセント以上出席すること。
- 連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 尾崎千佳 | | | | |

●授業の概要 近世文学研究のためのアプローチ法について講述する。文学の周辺にある資料群へも目配りしつつ、適宜演習形態も取り入れながら、文献収集の方法・文献読解の技術・書誌的基礎知識の習得を指導する。

●授業の一般目標 近世文学諸作品の読解、及び文学史的位置付けを目指し、その方法論を習得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 近世文学の作品を原本によりの確に解読することができる。2. 書誌調査の基礎を習得する。思考・判断の観点：1. 近世文学の作品を適切に読解することができる。2. 書誌情報を作品の理解に利用することができる。

●授業の計画（全体） 附属図書館所蔵の旧制山口高校および旧制山口高等商業学校旧蔵和書を素材として、書誌調査の基礎を講じる。第2回以降は、図書館内貴重書庫室にて授業を行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 書誌調査 (1) 内容 写本 (1)
- 第 3 回 項目 書誌調査 (2) 内容 写本 (2)
- 第 4 回 項目 書誌調査 (3) 内容 写本 (3)
- 第 5 回 項目 書誌調査 (4) 内容 写本 (4)
- 第 6 回 項目 書誌調査 (5) 内容 写本 (5)
- 第 7 回 項目 書誌調査 (6) 内容 版本 (1)
- 第 8 回 項目 書誌調査 (7) 内容 版本 (2)
- 第 9 回 項目 書誌調査 (8) 内容 版本 (3)
- 第 10 回 項目 書誌調査 (9) 内容 版本 (4)
- 第 11 回 項目 書誌調査 (9) 内容 版本 (5)
- 第 12 回 項目 書誌調査 (10) 内容 版本 (6)
- 第 13 回 項目 書誌調査 (11) 内容 版本 (7)
- 第 14 回 項目 書誌調査 (12) 内容 版本 (8)
- 第 15 回 項目 書誌調査 (13) 内容 版本 (9)

●成績評価方法（総合）各自が採録した調査カードや授業時の質疑応答により評価する。試験は行わない。

●教科書・参考書 教科書：使用しない。／参考書：日本古典書誌学総説, 藤井隆, 和泉書院, 1991 年；くずし字用例辞典普及版, 児玉幸多編, 東京堂出版, 1981 年；日本文学論所属で古典文学専攻者は購入することが望ましい。

●メッセージ 参加者各自、鉛筆（シャープペンシル不可）数本・メジャー（ビニル製）・電卓を第2回の授業時まで準備しておくこと。

●連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話;933-5257 E-mail;ozaki@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー; 木曜 14:30—16:00

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 尾崎千佳 | | | | |

●授業の概要 【連歌俳諧師の行動と文学】近世前期における連歌師・俳諧師の行動とその文学について、西山宗因・岡西惟中・井原西鶴などの場合を例に考察する。近世前期の文学は、京坂の新進町人層の経済的勃興によってもたらされたと一般に理解されてきたが、為政者層の文化的関心や宗教的象徴性の存在をも重要な要素として視野に入れつつ、連歌師および俳諧師という存在が、ときの幕藩体制のもとでいかなる役割を帯び、いかなる活躍をしたのか、その意義と背景につき、新知見を提出したい。／検索キーワード 連歌師、俳諧師、西山宗因、岡西惟中、井原西鶴

●授業の一般目標 1. 連歌師・俳諧師という存在の特殊性を、時代の思潮や政治的背景と併せて理解する。2. 研究上の問題設定と論証のあり方の例に触れ、自らの修士論文への備えとする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 連歌師・俳諧師の行動とその文学について理解する。 思考・判断の観点： 1. 研究上の問題設定と論証のあり方を習得する。 関心・意欲の観点： 1. 問題設定・論証のあり方を自らの課題に反映させることができる。

●授業の計画（全体）以下の3つのトピックを選択しつつ進める。(1) 大坂の復興と西山宗因 (2) もう一人の一時軒惟中 (3) 西鶴と武家社会

●成績評価方法（総合）主に期末テストによって評価する。4回の無断欠席でその受験資格を失う。

●教科書・参考書 教科書： 使用しない。／参考書： 授業時に適宜指示する。

●連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話;933-5257 E-mail;ozaki@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー; 木曜 14:30—16:00

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 小野美典 | | | | |

●授業の概要 百人一首古注や他の資料を用いながら、『小倉百人一首』を読み進め、和歌研究の方法を身につけることを目標とする。『小倉百人一首』は、鎌倉時代に藤原定家が選んだとされる秀歌撰で、天智天皇から順徳院にいたる、上代・中古・中世の代表的歌人百人の和歌が収載されている。それらの和歌は選者定家の好みを反映しているとはいえ、各時代の和歌の概要をつかむには好個な作品といえる。今回は、この『小倉百人一首』の中から、平安末～鎌倉初期の時代の作品（主として後半部分の収載歌）を中心に上げ、室町時代に作られた『応永抄』『長享抄』『経厚抄』などの古注をも参考にしながら、和歌研究の方法を身につけていきたいと思う。なお、授業形態は、テキストと資料プリント（講師の側で用意）を参照しながら、板書と口頭での説明を中心とした講義形式とする。／検索キーワード 百人一首、応永抄、長享抄、経厚抄

●授業の一般目標 和歌研究の方法を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1) 『小倉百人一首』の成立の概要を知る。 2) 百人一首古注の実態を知る。 3) 和歌文学の研究法を身につける。 思考・判断の観点： 和歌作品の解釈と鑑賞ができる。古注を読み解くことができる。 関心・意欲の観点： 古注を使いながら作品を読むことに興味を持つ。 態度の観点： 歌人・歌集に関して自分で調査・研究する。 技能・表現の観点： 和歌の解釈文・鑑賞文を書く。

●授業の計画（全体） 第一章では、最初に、『小倉百人一首』に関して概要を説明する。次いで、二条家流の百人一首伝授のあり方と室町時代の古注の概要について説明し、現段階での百人一首研究の問題点を紹介する。第二章では、平安末～鎌倉初期の歌人たちの歌を中心に、解釈と鑑賞を進める。歌一首に限定するのではなく、その歌人の伝記などにも注意しながら、歌人の歌風等についても説明したい。第三章では、受講者の要望を取り入れて、1～89 番歌の中で要望の高い歌を解釈する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 百人一首概説 1 内容 成立について
- 第 2 回 項目 百人一首概説 2 内容 古注について
- 第 3 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 1
- 第 4 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 2
- 第 5 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 3
- 第 6 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 4
- 第 7 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 5
- 第 8 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 6
- 第 9 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 7
- 第 10 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 8
- 第 11 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 9
- 第 12 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 10
- 第 13 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 11
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験

●成績評価方法（総合） 出席点 20 パーセント、レポート点 40 パーセント、試験点 40 パーセント

●教科書・参考書 教科書：（講談社学術文庫）百人一首 全訳注，有吉保，講談社，1983 年；その他、プリントも使用する。／参考書：百人一首入門，有吉保・神作光一，淡交社，2004 年；（角川文庫）百人一首 新版，島津忠夫，角川書店，1999 年

●メッセージ 江戸時代の版本や写本の実物にも触れてもらう。生の資料の迫力を感じ取って欲しい。

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 平野芳信 | | | | |

●授業の概要 本年度は演習と連動させて中原中也、安岡章太郎、中上健次の三人の作家について、それぞれの芸術形成史の軌跡を先行研究史との関わりの中で確認していきたい。

●授業の一般目標 一人の作家がどのようにして、自己の個人様式を確立させていくかという問題を検証したい。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 中原中也先行研究史論（1）
- 第 3 回 項目 安岡章太郎先行研究史論（1）
- 第 4 回 項目 中上健次先行研究史論（1）
- 第 5 回 項目 中原中也先行研究史論（2）
- 第 6 回 項目 安岡章太郎先行研究史論（2）
- 第 7 回 項目 中上健次先行研究史論（2）
- 第 8 回 項目 中原中也先行研究史論（3）
- 第 9 回 項目 安岡章太郎先行研究史論（3）
- 第 10 回 項目 中上健次先行研究史論（3）
- 第 11 回 項目 中原中也先行研究史論（4）
- 第 12 回 項目 安岡章太郎先行研究史論（4）
- 第 13 回 項目 中上健次先行研究史論（4）
- 第 14 回 項目 総括（1）
- 第 15 回 項目 総括（2）

●成績評価方法（総合） 授業態度や授業への参加度 = 30 % 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 30 % 演習 = 30 % 出席 = 10 %

●教科書・参考書 教科書：テキストは各自で購入しておいてください。／参考書：適宜指示します。

●連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：水曜日 9. 1 0 時限

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 平野芳信 | | | | |

●授業の概要 今回は「メディアの往還」とでもいうべき問題を考えたいと思う。メディアとは、もっとも広義にとれば、情報が送信者から受信者に移動する際に経由する媒体一般を指すと思われる。よって本講義では、様々なレベルにおける、メディア間の流通の問題を考えたいと思っている。もう少し具体的にいえば、「原作とは何か？」というアポリアの一斑を炙り出したと考えている。前年のこの場でも断っておいたが、シラバスの入力と実際の講義の間には、タイムラグがある。昨年は8ヶ月、今年の場合は10ヶ月である。内容的に時事的な問題を取り込む必要がある以上、以下提示する講義内容は、あくまでも予定であることはいうまでもない。

●授業の一般目標 この講義の最大の目論見は、日本文学、文化の現在を切り取ることにある。ある意味で、アクロバティックな内容にしたいと思っている。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 プレゼンテーション
- 第 2 回 項目 小説と映画（1）
- 第 3 回 項目 小説と映画（2）
- 第 4 回 項目 小説と映画（3）
- 第 5 回 項目 小説と映画（4）
- 第 6 回 項目 小説と映画（5）
- 第 7 回 項目 漫画とアニメーション
- 第 8 回 項目 歌詞と小説
- 第 9 回 項目 ノベライズの意味（1）
- 第 10 回 項目 ノベライズの意味（2）
- 第 11 回 項目 世界観の共有、あるいはスピニアウト（1）
- 第 12 回 項目 世界観の共有、あるいはスピニアウト（2）
- 第 13 回 項目 世界観の共有、あるいはスピニアウト（3）
- 第 14 回 項目 トリビュートと二次創作のはざままで（1）
- 第 15 回 項目 トリビュートと二次創作のはざままで（2）

●成績評価方法（総合） 定期試験（中間・期末試験）＝70％ 授業態度や授業への参加度＝10％ 出席＝20％

●教科書・参考書 教科書：毎回プリントを配布する。／参考書：適宜、紹介する。

●連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：火曜日9.10時限

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 中原 豊 | | | | |

●授業の概要 詩人中原中也の詩の特質を、昭和初期までの代表的な日本の近代詩歌との比較を通じて捉える。／検索キーワード 中原中也 近代詩 詩

●授業の一般目標 まずは詩の本質と表現の特徴を理解し、中原中也の作品の読解を通じて、中也の詩と詩想、およびその成立に関わった先行文学あるいは同時代の文学についての理解を深める。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：詩の表現の特色、および日本の近代詩歌の特質を理解する。思考・判断の観点：言葉によって形成されるイメージについて自覚的になり、さらにそれを拡充していく。関心・意欲の観点：進んで中原中也および他の詩人の詩を読もうとする。技能・表現の観点：自身の抱くイメージを自分なりの言葉で表現できる。

●授業の計画（全体）詩の本質について語った詩人の言葉を紹介し、中原中也が影響を受けた昭和初期までの日本の近代詩歌を概観した後に、中也の詩の特質の説明と読解を行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 詩とは何か
- 第 2 回 項目 日本の近代詩歌 I 内容 近代短歌
- 第 3 回 項目 日本の近代詩歌 II 内容 文語詩と口語詩 I
- 第 4 回 項目 日本の近代詩歌 III 内容 文語詩と口語詩 II
- 第 5 回 項目 日本の近代詩歌 IV 内容 日本の象徴主義 I
- 第 6 回 項目 日本の近代詩歌 V 内容 日本の象徴主義 II
- 第 7 回 項目 日本の近代詩歌 VI 内容 モダニズム詩
- 第 8 回 項目 中原中也 I 内容 詩的履歴書・初期短歌
- 第 9 回 項目 中原中也 II 内容 ダダイズムと象徴主義
- 第 10 回 項目 中原中也 III 内容 『山羊の歌』の世界 1
- 第 11 回 項目 中原中也 IV 内容 『山羊の歌』の世界 2
- 第 12 回 項目 中原中也 V 内容 『在りし日の歌』の世界 1
- 第 13 回 項目 中原中也 VI 内容 『在りし日の歌』の世界 2
- 第 14 回 項目 おわりに 内容 中原中也と日本の近代詩
- 第 15 回 項目 予備

●成績評価方法（総合）期末試験による。

●教科書・参考書 教科書：『山羊の歌 中原中也詩集』、佐々木幹郎編、角川書店、1997 年；『在りし日の歌 中原中也詩集』、佐々木幹郎編、角川書店、1997 年／参考書：『詩とは何か』、嶋岡晨、新潮社、1998 年

●メッセージ 講義で取り上げる詩を読んでおいてください。

●連絡先・オフィスアワー 中原中也記念館（山口市湯田温泉 1-11-21 083-932-6430）

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 平野芳信 | | | | |

●授業の概要 本年度は中原中也、安岡章太郎、中上健次の三人の詩人と小説家について、それぞれの芸術形成史の軌跡を確認していきたい。

●授業の一般目標 一人の作家がどのようにして、自己の個人様式を確立させていくかという問題を検証したい。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 中原中也研究（1）
- 第 3 回 項目 安岡章太郎研究（1）
- 第 4 回 項目 中上健次研究（1）
- 第 5 回 項目 中原中也研究（2）
- 第 6 回 項目 安岡章太郎研究（2）
- 第 7 回 項目 中上健次研究（2）
- 第 8 回 項目 中原中也研究（3）
- 第 9 回 項目 安岡章太郎研究（3）
- 第 10 回 項目 中上健次研究（3）
- 第 11 回 項目 中原中也研究（4）
- 第 12 回 項目 安岡章太郎研究（4）
- 第 13 回 項目 中上健次研究（4）
- 第 14 回 項目 総括（1）
- 第 15 回 項目 総括（2）

●成績評価方法（総合） 授業態度や授業への参加度 = 30 % 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 30 % 演習 = 30 % 出席 = 10 %

●教科書・参考書 教科書：テキストは各自で購入しておいてください。／参考書：適宜指示します。

●連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：水曜日 9. 1 0 時限

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 平野芳信 | | | | |

●授業の概要 前期に引き続き中原中也、安岡章太郎、中上健次の三人の詩人と小説家について、それぞれの芸術形成史の軌跡を確認していきたい。

●授業の一般目標 一人の作家がどのようにして、自己の個人様式を確立させていくかという問題を検証したい。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 中原中也研究（5）
- 第 3 回 項目 安岡章太郎研究（5）
- 第 4 回 項目 中上健次研究（5）
- 第 5 回 項目 中原中也研究（6）
- 第 6 回 項目 安岡章太郎研究（6）
- 第 7 回 項目 中上健次研究（6）
- 第 8 回 項目 中原中也研究（7）
- 第 9 回 項目 安岡章太郎研究（7）
- 第 10 回 項目 中上健次研究（7）
- 第 11 回 項目 中原中也研究（8）
- 第 12 回 項目 安岡章太郎研究（8）
- 第 13 回 項目 中上健次研究（8）
- 第 14 回 項目 総括（3）
- 第 15 回 項目 総括（4）

●成績評価方法（総合） 授業態度や授業への参加度 = 30 % 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 30 % 演習 = 30 % 出席 = 10 %

●教科書・参考書 教科書：テキストは各自で購入しておいてください。／参考書：適宜指示します。

●連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3-5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：水曜日 9. 1 0 時限

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 森野正弘 | | | | |

- 授業の概要 輪読形式による平安文学作品の研究。／検索キーワード 平安文学、中古文学
- 授業の一般目標 平安文学作品を研究するうえで必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力などを養成する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 平安文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 思考・判断の観点： 平安文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。 関心・意欲の観点： 自発的に平安文学作品を読み進め、関連する事項について調査・研究する意欲を高める。 態度の観点： 平安文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができる。 技能・表現の観点： 考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。
- 授業の計画（全体） 平安文学作品を取りあげ、本文の異同や諸注釈について検討を加え、発表担当者の考察を展開していく。
- 成績評価方法（総合） レジюме・発表内容・質疑応答・レポートによる。
- 教科書・参考書 教科書： 授業時に指示する。／ 参考書： 授業時に紹介する。
- メッセージ 80 パーセント以上出席すること。
- 連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 森野正弘 | | | | |

- 授業の概要 輪読形式による平安文学作品の研究。／検索キーワード 平安文学、中古文学
- 授業の一般目標 平安文学作品を研究するうえで必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力などを養成する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 平安文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 思考・判断の観点： 平安文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。 関心・意欲の観点： 自発的に平安文学作品を読み進め、関連する事項について調査・研究する意欲を高める。 態度の観点： 平安文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができる。 技能・表現の観点： 考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。
- 授業の計画（全体） 平安文学作品を取りあげ、本文の異同や諸注釈について検討を加え、発表担当者の考察を展開していく。
- 成績評価方法（総合） レジюме・発表内容・質疑応答・レポートによる。
- 教科書・参考書 教科書： 授業時に指示する。／ 参考書： 授業時に紹介する。
- メッセージ 80 パーセント以上出席すること。
- 連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 尾崎千佳 | | | | |

- 授業の概要 作品作家の選定・研究史の整理と把握・問題の設定について、各自の研究計画に即して指導する。
- 授業の一般目標 修士論文作成のための具体的な方法習得を目的とする。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：1. とりあげる作家や作品を選定することができる。2. 先行研究を収集し整理することができる。思考・判断の観点：1. 研究史を把握し問題を提起することができる。2. 論文テーマを自ら設定することができる。関心・意欲の観点：1. 選定した作家や作品の史的位置付けについて、適切に説明することができる。2. 研究史とその問題点について適切に説明することができる。
- 授業の計画（全体） 口頭発表、レポート提出、個別面談の3段階で行う。
- 成績評価方法（総合） 授業時の口頭発表や提出レポートにより評価する。試験は行わない。
- 教科書・参考書 教科書：プリント配付による。／参考書：授業時に指示する。
- メッセージ より具体的な授業計画は、参加者と相談のうえ、初回時に提示します。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話;933-5257 E-mail;ozaki@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー; 木曜 14:30—16:00

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 日本文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 尾崎千佳 | | | | |

- 授業の概要 作品作家の選定・研究史の整理と把握・問題の設定について、各自の研究計画に即して指導する。
- 授業の一般目標 修士論文作成のための具体的な方法習得を目的とする。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：1. とりあげる作家や作品を選定することができる。2. 先行研究を収集し整理することができる。思考・判断の観点：1. 研究史を把握し問題を提起することができる。2. 論文テーマを自ら設定することができる。関心・意欲の観点：1. 選定した作家や作品の史的位置付けについて、適切に説明することができる。2. 研究史とその問題点について適切に説明することができる。
- 授業の計画（全体） 口頭発表、レポート提出、個別面談の3段階で行う。
- 成績評価方法（総合） 授業時の口頭発表や提出レポートにより評価する。試験は行わない。
- 教科書・参考書 教科書：プリント配付による。／参考書：授業時に指示する。
- メッセージ より具体的な授業計画は、参加者と相談のうえ、初回時に提示します。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話;933-5257 E-mail;ozaki@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー; 木曜 14:30—16:00

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国語論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 更科慎一 | | | | |

- 授業の概要** 明清時代の中国や同時代の周辺国において、漢語と漢語以外の言語の対音・対訳文献が多数作られた。これらの文献は、中国語学の研究資料として魅力の大きいものだが、対訳 という性質上とつきづらいいこともまた事実である。本授業では、中国の「華夷訳語」や朝鮮の「老乞大」などの代表的文献を取り扱いながら、近代以前の東アジアにおける 外国語学習の営みの一端に触れ、同時にそれらの文献を中国語学の資料として活かす方法を考える。なお、受講にあたり、中国語以外の外国語の知識はなくともよい。／検索キーワード 対音・対訳文献、華夷訳語、老乞大
- 授業の一般目標** (1) 明清時代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について理解する。(2) 明代を中心とする近代漢語の音韻、語彙、文法の特徴について理解する。
- 授業の到達目標**／ 知識・理解の観点： 1. 明清時代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について、自身の研究の観点から説明できる。 2. 近代から現代に到る漢語の変化について説明できる。 3. 干渉や類推など、対音対訳資料に特有の非母語話者の言語現象について指摘できる。 思考・判断の観点： 1. 非母語話者が記述した資料に基づいて言語を研究することの意味を十分に理解し、これを自身の研究と結びつけることができる。 技能・表現の観点： 1. 異体文字を一定の方式に基づいたローマ字に転写することができる。 2. 韻書などを使って、漢字の音韻的地位を検索することができる。
- 授業の計画（全体）** 授業では、対音対訳文献が提起する諸問題についてテーマを設けて解説するとともに、対音対訳文献の実物について問題の実際を見てゆく。受講者にも対音対訳文献を扱ってもらう場合がある。受講者は、期末に、授業内容と関連したレポートを提出する。
- 成績評価方法（総合）** 学期末に提出させるレポートによるほか、授業内レポートや授業への参加度を一定程度考慮する。
- 教科書・参考書** 教科書：教科書は使いません。教官がプリントを用意します。／参考書：授業中に適宜指示します。
- 連絡先・オフィスアワー** 更科慎一 研究室：人文516、電話：933-5250 e-mail:sarasina@yamaguchi-u.ac.jp 来室は在室時に随時可。

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国語論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 更科慎一 | | | | |

- 授業の概要 前期に引き続き、明清代の中国や同時代の周辺国において、漢語と漢語以外の言語の対音・対訳文献を取り扱いながら、近代以前の東アジアにおける外国語学習の営みの一端に触れ、同時にそれらの文献を中国語学の資料として活かす方法を考える。なお、受講にあたり、中国語以外の外国語の知識はなくともよい。／検索キーワード 対音・対訳文献、華夷訳語、老乞大
- 授業の一般目標 (1) 明清代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について理解する。(2) 明代を中心とする近代漢語の音韻、語彙、文法の特徴について理解する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 明清代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について、自身の研究の観点から説明できる。2. 近代から現代に到る漢語の変化について説明できる。3. 干渉や類推など、対音対訳資料に特有の非母語話者の言語現象について指摘できる。思考・判断の観点：1. 非母語話者が記述した資料に基づいて言語を研究することの意味を十分に理解し、これを自身の研究と結びつけることができる。技能・表現の観点：1. 異体文字を一定の方式に基づいたローマ字に転写することができる。2. 韻書などを使って、漢字の音韻的地位を検索することができる。
- 授業の計画（全体） 後期授業では、「甲種本華夷訳語来文」または「老乞大諺解」の読解を行う予定である。非漢語については教官が解説するが、漢語と関連する部分について、受講者が自分の可能な範囲で読解を手助けすることを期待する。受講者は、期末に、授業内容と関連したレポートを提出する。
- 成績評価方法（総合） 学期末に提出させるレポートによるほか、授業内レポートや授業への参加度を一定程度考慮する。
- 教科書・参考書 教科書：教科書は使いません。教官がプリントを用意します。／参考書：授業中に適宜指示します。
- 連絡先・オフィスアワー 更科慎一 研究室：人文516、電話：933-5250 e-mail:sarasina@yamaguchi-u.ac.jp 来室は在室時に随時可。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国語論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 守屋 宏則 | | | | |

●授業の概要 現代中国語の文法体系を概観し、これまでの研究成果を踏まえて、より精密で合理的な記述説明を行う方法を探る。

●授業の一般目標 学校文法の視点に基づく現代中国語文法の体系を把握する。内外の主要な文献を読む。今後の文法研究進展の道筋を探求する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：現代中国語の文法規則について知識と理解を深める。思考・判断の観点：中国語の誤用例を見てどこがどのように誤っているかを考え、判断する。関心・意欲の観点：母語である日本語、学習経験のある英語と比較対照しながら中国語文法の特徴に対する関心を高める。態度の観点：言語に内在する文法上の特徴を考えることの楽しさを知る。技能・表現の観点：現代中国語を雰囲気ではなくあくまでも理詰めに読解し、さらに文法的に正しい文を書けるようにする。

●授業の計画（全体）現代中国語文法の概要を解説する。さらに練習問題を解きながら理解を深める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の進め方の説明 現代中国語文法の概要を解説する
- 第 2 回 項目 動詞述語文 内容 動詞述語文について解説する
- 第 3 回 項目 形容詞述語文 内容 形容詞述語文について解説する
- 第 4 回 項目 数詞・量詞・副詞・介詞 内容 項目に掲げた品詞について解説する
- 第 5 回 項目 各種フレーズ 内容 中国語の各種フレーズについて解説する
- 第 6 回 項目 主語・目的語・定語・状語などの文成分 内容 項目に掲げた文成分について解説する
- 第 7 回 項目 補語（1） 内容 数量補語・結果補語・方向補語について解説する
- 第 8 回 項目 補語（2） 内容 可能補語・様態補語について解説する
- 第 9 回 項目 アスペクト 内容 完了・経験・持続などのアスペクトについて解説する
- 第 10 回 項目 疑問文 内容 各種の疑問文について解説する
- 第 11 回 項目 複文 内容 複文の分類、複文の型などについて解説する
- 第 12 回 項目 受動文・使役文・処置文 内容 項目に掲げた文型について解説する
- 第 13 回 項目 存現文・連動文・「是～的」文 内容 項目に掲げた文型について解説する
- 第 14 回 項目 未来の表現・比較の表現 内容 項目に掲げた表現形式について解説する
- 第 15 回 項目 総括説明・質疑応答・試験 内容 現代中国語文法の特徴について総括説明する 質疑応答を通じて理解を深める 試験を実施する

●成績評価方法（総合）最終回に筆記試験を行う。

●教科書・参考書 教科書：やさしくくわしい中国語文法の基礎, 守屋 宏 則, 東方書店, 1995 年

●メッセージ 現代中国語の文法に興味・関心のある院生の受講を希望します。

●備考 集中授業

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国語論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 富平美波 | | | | |

- 授業の概要 中国語音韻学に関連する内容の文献を講読しつつ、同分野の基本的知識の習得と問題点に関する考察を行う。なお、取り扱う領域や講読文献に関しては、受講者と相談の上決定することも可能である。最後に、各自研究テーマを決めてレポートを作成する。／検索キーワード 中国語学 音韻学 講読 考察
- 授業の一般目標 中国語音韻学に関する基本的知識をマスターするとともに、中国語学関連文献の読解力と、問題点への考察力を養う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 中国語音韻学の基本知識をマスターする。 2. 文献資料の内容が正しく理解できる。 思考・判断の観点： 中国語に見られる特定の事象に関して、正しい考察・判断ができる。 技能・表現の観点： 自身の研究成果を、レポートの形式により効果的に報告できる。
- 授業の計画（全体） 最初の回に、各自の研究テーマを発表しあい、授業で取り扱う領域について共通認識を得る。次回までに、講読すべき文献資料を決定する。その後、順次講読に入る。受講者は、毎回の講読部分を担当するほか、授業中に疑問点・問題点を指摘し、討論に加わる。
- 成績評価方法（総合） 授業中の課題の達成度と学期末のレポート、授業中の考察・討論への参加度によって総合的に評価する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国語論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 富平美波 | | | | |

- 授業の概要 前期の授業に引き続き、中国語音韻学に関連する内容の文献を講読しつつ、同分野の基本的知識の習得と問題点に関する考察を行う。なお、取り扱う領域や講読文献に関しては、受講者と相談の上決定することも可能である。最後に、各自研究テーマを決めてレポートを作成する。／検索キーワード 中国語学 音韻学 講読 考察
- 授業の一般目標 中国語音韻学に関する基本的知識をマスターするとともに、中国語学関連文献の読解力と、問題点への考察力を養う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 中国語音韻学の基本知識をマスターする。 2. 文献資料の内容が正しく理解できる。 思考・判断の観点： 中国語に見られる特定の事象に関して、正しい考察・判断ができる。 技能・表現の観点： 自身の研究成果を、レポートの形式により効果的に報告できる。
- 授業の計画（全体） 最初の回に、各自の研究テーマを確認しあい、授業で取り扱う領域について共通認識を得た上で、講読すべき文献資料を決定する。その後、順次講読に入る。受講者は、毎回の講読部分を担当するほか、授業中に疑問点・問題点を指摘し、討論に加わる。
- 成績評価方法（総合） 授業中の課題の達成度と学期末のレポート、授業中の考察・討論への参加度によって総合的に評価する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国文学論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 阿部泰記 | | | | |

- 授業の概要 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。／検索キーワード 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟
- 授業の一般目標 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 思考・判断の観点： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 関心・意欲の観点： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 態度の観点： 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 技能・表現の観点： 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。
- 授業の計画（全体） 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。
- 成績評価方法（総合） 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。
- 教科書・参考書 参考書： 阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 莊司格一『中国の公案小説』（研文出版）

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国文学論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 阿部泰記 | | | | |

- 授業の概要 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。／検索キーワード 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟
- 授業の一般目標 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 思考・判断の観点： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 関心・意欲の観点： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 態度の観点： 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 技能・表現の観点： 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。
- 授業の計画（全体） 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。
- 成績評価方法（総合） 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。
- 教科書・参考書 参考書： 阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 莊司格一『中国の公案小説』（研文出版）

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国文学論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 大塚 博久 | | | | |

- 授業の概要 —「古典文学」から「現代文学」への過渡期の文学状況— 中国文学は、時期上「古典文学」と「現代文学」とに大別される。「古典文学」とは、世界文学の中で最も古い歴史をもち、独自の文学形式である典故と対句を重んじる「詩文」の豊富な文学遺産をもち、主として士人によって担われた文学であり、ほぼ清朝末期までを指す。これに対して「現代文学」とは 1840 年アヘン戦争以後、西欧の帝国主義の侵略とともに西欧＝「近代」の価値観が中国に及んだいわゆる Western-Impact が文学上にも徐々に影響しはじめ、具体的には 1917 年胡適の「文学改良芻議」（『新青年』誌 2 巻 5 号）で「空虚で陳腐、難解な文語による旧文学の殻を破って口語の文学を創造しよう」との提唱を契機に、五・四「文学革命」運動が起きて以後の近・現代文学」を指す。この 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての旧～新「過渡期」（近代文学「胎動期」）の文学思想の具体的様相を明らかにする。／検索キーワード 辛亥革命、『新青年』誌、五・四「文学革命」、五・四運動、魯迅、胡適、 陳独秀、
- 授業の一般目標 （１）19 世紀末～20 世紀初頭における「古典文学」世界から「現代文学」世界への過渡期の文学的状況とその歴史的背景について理解する。（２）この時期に出現した文学的主張や運動、とくに「五・四文学革命」について理解する。（３）個々の作家と作品（翻訳を含む）について興味、関心を深め、その文学的営為の内実を考える。（４）同時代の日本の作家、作品との関係、影響について考える。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：近代中国の問題状況、文学的背景および作家、作品について、理解を深め、説明できる。 思考・判断の観点：関連する内外の研究書や論文を読んで、的確に要点を把握、分析し、しっかりした自分の見解を持つ。 関心・意欲の観点：中国の「近・現代文学」の作家、作品に今後とも興味、関心を持続することができる。 態度の観点：これらの作品を積極的によみ、鑑賞する習慣を培う。 技能・表現の観点：読解の能力を高め、自分の考えをを文章や口頭で適切に表現できる。
- 授業の計画（全体） 授業は、この時期の文学・思想上の出来事、流れ、運動と人物、作品などについて、毎回資料を提示して紹介、解説し、「伝統」的中国社会が直面した西洋近代の「異質」な文物に如何に対処、受容し、その文学はどのように変容していったか、を理解する。そして、この世界史的「近代」に生きざるを得なかった苦悩に満ちた当時の中国人の心理や論理に関心を持つ。また受講者にこの時期を代表するいくつかの「作品」を読解することを通じて関心を抱かせる。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
 - 第 1 回 項目 オリエンテーション 授業外指示 「シラバス」を読んでおくこと
 - 第 2 回 項目 清朝の危機と「変法自強」運動 内容 「亡国の危機感」と「慷慨」の詩人たち
 - 第 3 回 項目 啓蒙的「報刊」活動と近代西欧思潮の紹介 内容 (1)「白話報」の出現(2) 嚴復の『天演論』などと桐城派古文
 - 第 4 回 項目 西洋(日本)の「翻訳小説」 内容 林琴南の『巴黎茶花女遺事』と『不如帰』の漢訳例
 - 第 5 回 項目 『清議報』『新民叢報』の新文体と「政治小説」 内容 梁啓超の「詩界革命」、「小説界革命」の提唱と『新中国未来記』
 - 第 6 回 項目 「譴責小説」の盛行 内容 『官場現形記』『老残遊記』ほか
 - 第 7 回 項目 留日学生の動向と「覚醒」— {辛亥革命}前後 内容 魯迅の『域外小説』と「文化偏至論」など
 - 第 8 回 項目 『新青年』と文学革命(1) 内容 『新青年』誌の創刊と陳独秀の「新青年宣言」
 - 第 9 回 項目 『新青年』と文学革命(2) 内容 胡適の「文学改良芻議」と陳独秀の「文学革命論」
 - 第 10 回 項目 五・四運動と文学界 内容 李大 の「庶民の勝利」と、胡適—「問題と主義」論争および「新旧文学」論争
 - 第 11 回 項目 近代小説の誕生—「魯迅の文学」 内容 「狂人日記」講読、『呐喊』集の小説
 - 第 12 回 項目 「文学研究会」の作家たちと『小説月報』 内容 日本の文学状況と周作人、沈雁冰らの作品

- 第13回 項目 「創造社」の文学 内容 郭沫若の『女神』、郁達夫の『沈淪』など
- 第14回 項目 五・四退潮期から新旧、左右分裂期を経て「国民革命」へ 内容 「新青年」グループの分裂、左翼文芸運動と「革命文学論戦」、「中国自由運動大同盟」、「左聯」の結成
- 第15回 項目 新しい作家たちの登場と「三十年代文学」段階へ。(まとめ) 内容 巴金、老舍、丁玲らと「新月派」詩人、聞一多ら

- 成績評価方法(総合) (1) 授業内容によっては、著名な「作品」、「評論」を指名読解させることがある。(2) 試験を実施する(自筆のノートのみ持ち込み可)。なお出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書 教科書：なし。／参考書：毎回、講義概要、作品・作家解説、関連資料などを配布。また必要に応じて参考文献を紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー 083-923-2362(自宅)、または第1学務係。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 根ヶ山 徹 | | | | |

- 授業の概要 『元曲選』『六十種曲』等に収録される元明の戯曲脚本を取り上げ、注釈を施しながら読解する。
- 授業の一般目標 古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。
- 授業の計画（全体） 原文の解釈につき、毎回担当し、発表・討議する。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 中国文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 根ヶ山 徹 | | | | |

- 授業の概要 前期に引き続き、『元曲選』『六十種曲』等に収録される元明の戯曲脚本を取り上げ、注釈を施しながら読解する
- 授業の一般目標 古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。
- 授業の計画（全体） 原文の解釈につき、毎回担当し、発表・討議する。

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米語論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 岩部浩三 | | | | |

●授業の概要 語法と語用論に関係する基本的な問題点を解説する。／検索キーワード 語法、語用論、時制

●授業の一般目標 語法と語用論について基本的な知識を身につける。日本語で書かれた専門文献を自力で読みこなし、疑問点があればそれを整理して質問できるようになる。問題意識を持って 毎回の授業に臨むことで、課題解決能力への第一歩を踏み出す。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 語法と語用論に関する基本的な知識を身につけ、例を用いて説明できる。 関心・意欲の観点： 常に、問題意識を持って授業に臨む。 技能・表現の観点： 日本語で書かれた文献を読みこなし、疑問点を質問できる。相手にわかりやすい文章で簡潔に説明できる。

●授業の計画（全体） 講義予定にしたがって、テキストの熟読を宿題として課し、授業時に実施する質問レポートに質問を書いてもらう。その質問に答える形で講義を進める。質問は内容に直接関わるものだけでなく、テキストの修辞上の疑問点などあらゆる疑問点を含む。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 インTRODakシ ョン 現在時制

第 2 回 項目 視点論と語法研究

第 3 回 項目 視点論と語法研究

第 4 回 項目 視点論と語法研究

第 5 回 項目 焦点化と語法研究

第 6 回 項目 焦点化と語法研究

第 7 回 項目 焦点化と語法研究

第 8 回 項目 中間試験

第 9 回 項目 否定認識と語法研究

第 10 回 項目 否定認識と語法研究

第 11 回 項目 会話の含意と語法研究

第 12 回 項目 会話の含意と語法研究

第 13 回 項目 会話の含意と語法研究

第 14 回 項目 質疑応答

第 15 回 項目 期末試験

●成績評価方法（総合） 中間試験、期末試験の結果により評価する。

●教科書・参考書 教科書：『語法と語用論の接点』, 田中廣明, 開拓社, 1998 年； テキストは文栄堂（大学前）で販売予定。

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米語論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 太田聡 | | | | |

●授業の概要 Chomsky に始まる生成文法は言語についての考え方を大きく変革し、現在でも言語研究の一大潮流をなしている。生成文法では言語をどのように捉え、何を狙っているのか、といったことを解説する。そして、基本概念から最新の理論まで分かりやすく紹介する。

●授業の一般目標 生成文法理論の目標や特徴、その発展を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：生成文法のテクニカルな分析方法を理解する。思考・判断の観点：生成文法理論に基づいて、英語や日本語の基本的な分析が行えるようになる。関心・意欲の観点：幼児の言語獲得のなぞや、ことばを通して見えてくる人間の精神・脳の特質などにも関心を寄せる。従来の理論の不備な点を見つけ出し、代案を考える。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の主な狙いや課題などについて説明する。授業外指示 教科書の「学習の手引き」という箇所を目を通す。

第 2 回 項目 生成文法：目標と理念 内容 生成文法理論の目標、言語とは何か、文法と説明の理論、経験科学と理想化、などについて解説する。授業外指示 教科書の第 1 章を読む。

第 3 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //

第 4 回 項目 // 内容 // 授業外指示 課題を解く。

第 5 回 項目 第 1 次認知革命 内容 なぜ Chomsky 理論は「認知革命」か、ことばの特質、ことばの知識の仕組み、初期の生成文法のモデル、説明的妥当性を求めて、といったテーマを扱う。授業外指示 教科書の第 2 章を読む。

第 6 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //

第 7 回 項目 // 内容 // 授業外指示 課題を解く。

第 8 回 項目 第 2 次認知革命 内容 「規則の体系から原理の体系への転換」という 1980 年代に入ってから起こった第 2 次認知革命について解説する。いわゆる「統率・束縛理論」の枠組みの発展をたどる形になる。授業外指示 教科書第 3 章を読む。

第 9 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //

第 10 回 項目 // 内容 // 授業外指示 課題を解く。

第 11 回 項目 極小モデルの展開 内容 極小モデルの基本的発想と考え方、極小モデルにおける普遍文法の構成、などについて解説する。授業外指示 教科書第 4 章を読む。

第 12 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //

第 13 回 項目 // 内容 // 授業外指示 課題を解く。

第 14 回 項目 まとめ 内容 全体の補足とまとめを行う。授業外指示 //

第 15 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //

●成績評価方法 (総合) 各テーマが終わるごとに課題を出すので、それを解いて次の授業時に提出のこと。この課題レポートの合計点で評価する。欠席は 1 回につき 5 点減点とする。

●教科書・参考書 教科書：生成文法、田窪行則他、岩波書店、2004 年／参考書：チョムスキー小事典、今井邦彦編、大修館書店、1986 年；チョムスキー理論辞典、原口庄輔・中村捷編、研究社出版、1992 年；生成文法用語辞典、安藤貞雄・小野隆啓、大修館書店、1993 年；自然科学としての言語学、福井直樹、大修館書店、2001 年；日本語の統語構造、三原健一、松柏社、1994 年

●連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米語論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 中村 捷 | | | | |

- 授業の概要 意味現象を、意味の合成、組み替え、埋め込みなどの動的意味操作によって扱う、動的意味論を概観し、動的意味論の思考法に基づいて、いくつかの構文に見られる諸特徴を説明することを試みる。この講義で扱う具体的な構文や現象として、結果構文、中間構文、意味の埋め込み現象、非対格性と意味の関係、補文動詞の意味と補文の統語形式の相関関係、推論規則による意味と統語の不整合の説明、意味合成の事例研究などの問題がある。
- 授業の一般目標 意味論、特に語彙意味論の基礎を理解するとともに、意味分析の方法、意味構造と統語構造の関係を理解する。
- 授業の計画（全体） 意味論に関して、（１）意味論の基礎、（２）意味の合成現象、（３）意味の埋め込み関係、（４）意味合成と構文の関係などについて段階的に検討する。
- 成績評価方法（総合） 授業外レポートに基づいて評価する。
- 教科書・参考書 教科書：プリントを使用する。／参考書：意味論 -動的意味論-, 中村 捷, 開拓社, 2003 年
- 備考 集中授業

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米語論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 島越郎 | | | | |

●授業の概要 英語における以下の3つの省略構文について考える。(1) The galaxy contains more stars than the eyes can see. (2) Although I wouldn't introduce Fred to Sally, I would to Martha. (3) Jack bought something, but I don't know what. (1)は比較削除構文(Comparative Deletion)の例で、動詞 see の目的語である stars が省略されている。(2)は擬似空所化構文(Pseudogapping)の例で、動詞 introduce とその目的語である Fred が省略されている。(3)は間接疑問縮約構文(Sluicing)の例で、疑問詞 what の後ろで Jack bought が省略されている。授業では、これら三つの省略構文の諸特性を、生成文法の枠組みにおいて考察する。／検索キーワード 省略文、統語構造、意味解釈、形態特性、生成文法

●授業の一般目標 英語の省略構文の統語的、形態的、意味的特徴についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：英語の省略文の特徴について説明できる。思考・判断の観点：表面的な省略文の現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。技能・表現の観点：考察したことを論理的に文書で表現できる。

●授業の計画(全体) 英語の省略構文が示す諸特徴を、(1)比較構文削除、(2)擬似空所化、(3)間接疑問縮約の順に考えていく。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。

第2回 項目 比較削除構文(1) 内容 比較削除構文と比較部分削除構文の類似点について説明する。

第3回 項目 比較削除構文(2) 内容 比較削除構文と比較部分削除構文と比較部分削除構文の相違点について説明する。

第4回 項目 比較削除構文(3) 内容 比較削除構文には顕在部門における移動が含まれていることを説明する。

第5回 項目 比較削除構文(4) 内容 比較部分削除構文には非顕在部門における移動が含まれていることを説明する。

第6回 項目 擬似空所化構文(1) 内容 代名詞、再帰代名詞、構成素統御について説明する。

第7回 項目 擬似空所化構文(2) 内容 Larson (1988) が提案する VP shell 分析を説明する。

第8回 項目 擬似空所化構文(3) 内容 Lasnik (1995) が提案する AgrO-P 分析を説明する。

第9回 項目 擬似空所化構文(4) 内容 擬似空所化における動詞移動の可能性について説明する。

第10回 項目 間接疑問縮約構文(1) 内容 英語、ドイツ語、オランダ語における間接疑問縮約が示す COMP の一般化について説明する。

第11回 項目 間接疑問縮約構文(2) 内容 COMP の一般化を使って、削除分析と復元分析を比較検討する。

第12回 項目 間接疑問縮約構文(3) 内容 間接疑問縮約と島の効果について説明する。

第13回 項目 間接疑問縮約構文(4) 内容 島の効果に関する、間接疑問縮約と動詞句削除文の違いを説明する。

第14回 項目 期末テスト

第15回 項目 テスト返却・解説

●成績評価方法(総合) 定期試験の結果に基づいて評価する。

●教科書・参考書 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

●メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

●連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米語論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 島越郎 | | | | |

●授業の概要 前期に引き続き、生成文法の枠組みにおいて英語の省略文を考察する。後期は、特に、次の二つの省略文に焦点を当てる。(1) John loves Mary, and Peter does, too. (2) Bill ate more peaches than Harry did grapes. 省略文(1)では、動詞と目的語(love Mary)が省略されており、このような文は動詞句省略文(VP ellipsis)と呼ばれている。一方、(2)では、動詞(eat)のみが省略されており、このような省略文は擬似空所化(pseudo-gapping)と呼ばれている。この授業では、この二つの省略文の類似点と相違点について考えていく。動詞句省略文と擬似空所化文の二つの省略文の類似点・相違点について考えていく。／検索キーワード 省略文、動詞句省略文、擬似空所化、生成文法

●授業の一般目標 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：英語の省略文についての特徴を説明できる。思考・判断の観点：表面的な省略文の現象の底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。技能・表現の観点：考察したことを論理的に文章で表現できる。

●授業の計画(全体) 動詞句削除文と擬似空所化が示す三つの相違点と一つの類似点について順次考察していく。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第 2 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (1) 内容 動詞句削除文における解釈の多義性について説明する。
- 第 3 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (2) 内容 擬似空所化における解釈の局所性効果について説明する。
- 第 4 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (3) 内容 動詞句削除文における解釈の局所性効果について説明する。
- 第 5 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 2：strict/sloppy の読み (1) 内容 動詞句削除文における strict/ sloppy の読みについて説明する。
- 第 6 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化のその 2：strict/ sloppy の読み (2) 内容 sloppy の読みを認可する意味的条件について説明する。
- 第 7 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 2：strict/sloppy の読み (3) 内容 擬似空所化における sloppy の読みの可能性について説明する。
- 第 8 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (1) 内容 擬似空所化における逆行削除について説明する。
- 第 9 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (2) 内容 文解析の原理と逆行削除について説明する。
- 第 10 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (3) 内容 動詞句削除文における逆行削除の可能性について説明する。
- 第 11 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (1) 内容 動詞句削除文と擬似空所化における削除問題について説明する。
- 第 12 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (2) 内容 島の効果と削除について説明する。
- 第 13 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (3) 内容 擬似空所化における削除の義務性について説明する。
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 テスト返却・解説

- 成績評価方法 (総合) 定期試験の結果に基づいて評価する。
- 教科書・参考書 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年
- メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。
- 連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米語論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 岩部浩三 | | | | |

- 授業の概要 受講生の興味に合わせた内容の演習を行なう。原則として、1 週間に論文を 1 本または 本の 1 章に相当する内容を発表してもらふ。ただし、受講生のレベルや人数に応じて 内容も柔軟に対応したい。／検索キーワード 英語学 意味論 語用論
- 授業の一般目標 各自の興味に応じて、文献を読み、研究を進める。独力で論文を読みこなし、その内容をまとめてわかりやすく説明する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 研究テーマに応じた過去の文献を読み、その内容をわかりやすくまとめて発表できる。 関心・意欲の観点： 独自の研究テーマを持ち、研究を進める意欲を持つ。 技能・表現の観点： 従来の研究をまとめ、自己の論点をわかりやすく英語で書ける。
- 授業の計画（全体） 受講者各自の研究に関する発表を中心に進める。受講者の人数に応じて、論文講読等を取り入れる。
- 成績評価方法（総合） 授業内でのオーラルレポートが 5 0 パーセント、期末の英文レポートが 5 0 パーセントの割合で評価します。

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米語論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 太田聡 | | | | |

- 授業の概要 最新の言語理論の知見をふんだんに盛り込んだ英文法書を丹念に読んでいく。／検索キーワード 英文法
- 授業の一般目標 英語・英文学を専攻した者として恥ずかしくない程度の英文法の知識を身につける。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 学校文法だけでは不十分であった文法知識を補う。 思考・判断の観点： テキストの中の分析法・理論を理解する。 関心・意欲の観点： テキストの中の問題点を発見し、代案を考える。
- 授業の計画（全体） テキストを精読していく。取り上げるトピックスは「動詞」、「節（補文）」、「名詞と名詞句」、「形容詞と副詞」、「前置詞と前置詞句」、「節（付加詞）」、「否定」、「関係節」、「比較構文」、「等位構造」、「照応」、「屈折形態論」、「句読法」などである。
- 成績評価方法（総合） 授業時の発表と期末レポートによって評価する。
- 教科書・参考書 教科書： Huddleston, R. & G. K. Pullum (2002) The Cambridge Grammar of the English Language. Cambridge University Press.
- メッセージ 毎回1章ずつのペースで進むので、予習をしっかりとしておくこと。
- 連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米語論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 島越郎 | | | | |

●授業の概要 生成文法の枠組みにおいて英語の省略文を考察する。省略文では、省略された要素が復元できるように同一の要素が文脈に存在しなければいけない。この場合、どのようなメカニズムで復元されるのかを明らかにすることが重要な問題となる。この問題を、動詞句省略文 (VP-ellipsis) と空所化 (gapping) と呼ばれる省略文を手掛かりに考えていく。／検索キーワード 省略文、動詞句省略文、空所化、生成文法

●授業の一般目標 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：英語の動詞句省略文についての特徴を説明できる。思考・判断の観点：表層的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。技能・表現の観点：考察したことを論理的に文書に表現できる。

●授業の計画（全体） 授業では、1) 動詞句削除文について英語で書かれた専門論文 (Andrew Kehler 2002, Coherence and VP-ellipsis, Coherence and Gapping) を段落単位で精読し、2) 論文で提示されている分析を解説し、3) その分析に対する問題点を適宜指摘していく。受講者は、担当箇所を正確に日本語訳し、また、専門用語を事前に調べておくことが最低限要求される。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。

第 2 回 項目 論文講読

第 3 回 項目 論文講読

第 4 回 項目 論文講読

第 5 回 項目 論文講読

第 6 回 項目 論文講読

第 7 回 項目 論文講読

第 8 回 項目 論文講読

第 9 回 項目 論文講読

第 10 回 項目 論文講読

第 11 回 項目 論文講読

第 12 回 項目 論文講読

第 13 回 項目 論文講読

第 14 回 項目 論文講読

第 15 回 項目 論文講読

●成績評価方法 (総合) レポートの結果に基づいて評価する。

●教科書・参考書 教科書：プリントを随時配布する。／参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

●メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

●連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米語論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 島越郎 | | | | |

●授業の概要 生成文法の枠組みにおいて英語の省略文を考察する。省略文では、省略された要素が復元できるように同一の要素が文脈に存在しなければいけない。この場合、どのようなメカニズムで復元されるのかを明らかにすることが重要な問題となる。この問題を、動詞句省略文 (VP-ellipsis) と空所化 (gapping) と呼ばれる省略文を手掛かりに考えていく。／検索キーワード 省略文、動詞句省略文、空所化、生成文法

●授業の一般目標 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：英語の動詞句省略文についての特徴を説明できる。思考・判断の観点：表層的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。技能・表現の観点：考察したことを論理的に文書に表現できる。

●授業の計画（全体） 授業では、1) 動詞句削除文について英語で書かれた専門論文 (Andrew Kehler 2002, Coherence and VP-ellipsis, Coherence and Gapping) を段落単位で精読し、2) 論文で提示されている分析を解説し、3) その分析に対する問題点を適宜指摘していく。受講者は、担当箇所を正確に日本語訳し、また、専門用語を事前に調べておくことが最低限要求される。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。

第 2 回 項目 論文講読

第 3 回 項目 論文講読

第 4 回 項目 論文講読

第 5 回 項目 論文講読

第 6 回 項目 論文講読

第 7 回 項目 論文講読

第 8 回 項目 論文講読

第 9 回 項目 論文講読

第 10 回 項目 論文講読

第 11 回 項目 論文講読

第 12 回 項目 論文講読

第 13 回 項目 論文講読

第 14 回 項目 論文講読

第 15 回 項目 論文講読

●成績評価方法 (総合) レポートの結果に基づいて評価する。

●教科書・参考書 教科書：プリントを随時配布する。／参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

●メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

●連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 田中 晋 | | | | |

- 授業の概要 シェイクスピアの生きたルネサンス期は二つの大きな自然観がその相克を見た時代である。即ち、中世以来自然は一つの秩序をもったものと考えられてきた、そこには秩序の予定者としての超越者の意思があり、人間世界もその中に含まれたものであったのに対し、新しい自然観では、人間は 独立独歩の存在であり、己の意思が最後の権威となる。シェイクスピアは悲劇を描くに当たり、この 両者の葛藤に深い洞察を示しながら「人間とは何か」の根本問題を追及している。このことに注目してまず四大悲劇を論じ、次いでロマンス劇への展開を見ることにする。
- 授業の一般目標 シェイクスピアの悲劇における新旧二つの自然観の葛藤を作品に即してその具体相において把握し、次いで崩壊から再生への転換を晩年のロマンス劇において考察する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 二つの自然観に即して作品の具体的内容を論ずることができる。
思考・判断の観点： 悲劇の分析を通して、「人間とは何か」について論ずることができる。
- 授業の計画（全体） 四大悲劇、『ハムレット』、『オセロウ』、『リア王』、『マクベス』を中心に考察する。
- 成績評価方法（総合） レポート提出
- 教科書・参考書 教科書： プリント配布／ 参考書： 授業において言及する。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 田中 晋 | | | | |

- 授業の概要 シェイクスピアの生きたルネサンス期は二つの大きな自然観がその相克を見た時代である。即ち、中世以来自然は一つの秩序をもったものとして考えられてきた、そこには秩序の予定者としての超越者の意思があり、人間世界もその中に含まれるものであったのに対し、新しい自然観では、人間は独立独歩の存在であり、己の意思が最後の権威となる。シェイクスピアは悲劇を描くに当たり、この両者の葛藤に深い洞察を示しながら「人間とは何か」の根本問題を追求している。このことに注目してまず四大悲劇を論じ、次いでロマンス劇への展開を見ることにする。
- 授業の一般目標 シェイクスピアの悲劇における新旧二つの自然観の葛藤を作品に即してその具体相において把握し、次いで崩壊から再生への転換を晩年のロマンス劇において考察する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：ロマンス劇の本質に即して作品の具体的内容を論ずることができる。思考・判断の観点：ロマンス劇の構成を「時」の観点より論ずることができる。
- 授業の計画（全体）後期はロマンス劇、『ペリクリーズ』、『シンベリーン』、『冬物語』、『嵐』を中心に考察する。
- 成績評価方法（総合）レポート提出
- 教科書・参考書 教科書：プリント配布／参考書：授業において言及する。

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 伊豆大和 | | | | |

- 授業の概要 20世紀前半のアメリカ小説をいくつか取り上げ、紹介・説明を加えながら、それぞれの作品の意義・問題点を検討する。
- 授業の一般目標 アメリカ小説を読み、意義・問題点を発見する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 作家や作品の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点： 諸作品に盛り込まれたテーマを分析できる。 関心・意欲の観点： アメリカ文学を積極的に読む。
- 授業の計画（全体） Sister Carrie(1900), Babbitt(1922), The Great Gatsby(1925), etc. を紹介・説明し、それぞれの作品の問題点を検討する。作品テキストからの引用文（英文）をかなり多く読むことになる。
- 成績評価方法（総合） 期末試験により評価する。
- 教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。／ 参考書： 講義の中で紹介する。

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 伊豆大和 | | | | |

- 授業の概要 前期に引き続いて 20 世紀前半のアメリカ小説をいくつか取り上げ、紹介・説明を加えながら、それぞれの作品の意義・問題点を検討する。
- 授業の一般目標 アメリカ小説を読み、意義・問題点を発見する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 作家や作品の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点： 諸作品に盛り込まれたテーマを分析できる。 関心・意欲の観点： アメリカ文学を積極的に読む。
- 授業の計画（全体） A Cool Million(1934), The Grapes of Wrath(1939), East of Eden(1952), etc. を紹介・説明し、それぞれの作品の問題点を検討する。作品テキストからの引用文（英文）をかなり多く読むことになる。
- 成績評価方法（総合） 期末試験により評価する。
- 教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。／ 参考書： 講義の中で紹介する。

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 宮原一成 | | | | |

- 授業の概要 George Hughes 著 Reading Novels_(2002) を講じる。講義と言うよりかなり演習に近い形態で実施するので、その点承知しておいてほしい。
- 授業の一般目標 小説鑑賞論について見識を深め、またそれに対して自分なりの批評を加える能力を育てる。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：大学院生として十分な英語構文理解力と、文学解釈論の知識を持つ。
- 授業の計画（全体） George Hughes, Reading Novels_一冊 260 ページを、半期で講じる。学生には、毎回応分の予習を求める。
- 成績評価方法（総合） 毎回、授業中の質疑応答で、理解度を確かめる。必要に応じて、レポート課題を出す。その総合で、成績評定を行う。
- 教科書・参考書 教科書： Reading Novels, George Hughes, Vanderbilt UP, 2002 年／ 参考書： 小説論に関する各種の本を、必要に応じて紹介する。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 田中 哲 | | | | |

- 授業の概要 エリザベス朝の詩人エドマンド・スペンサーの畢生の大作『妖精の女王』第1巻を精読し、英詩の語法、リズムをつかんで、物語に寓意されていることを考察する。／検索キーワード Allegory, Epic, Romance
- 授業の一般目標 語源に遡り言葉本来の意味を知る。英詩の語法を学び、リズムを身につける。寓意詩、叙事詩、ロマンスの要素を併せもつ本作品の内実を考える。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：スペンサーの英詩の語法に精通し、語源に遡って言葉の意味を知る。思考・判断の観点：作品に寓意されている内実と、ロマンスの語り口を考える。
- 授業の計画（全体） 第1篇から第6篇までを読む。
- 成績評価方法（総合） 平常点
- 教科書・参考書 教科書：Edmund Spenser's Poetry, Maclean & Prescott (eds), W.W.Norton, 1993年
／参考書：The Faerie Queene, A.C.Hamilton(ed.), Longman, 1977年；The Faerie Queene, 細江逸記（注）, 研究社, 1929年

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 田中 晉 | | | | |

- 授業の概要 前期に引き続き、エリザベス朝の詩人エドモンド・スペンサーの『妖精の女王』第1巻を精読する。／検索キーワード Allegory, Epic, Romance
- 授業の一般目標 語源に遡り言葉本来の意味を知る。英詩の語法を学び、リズムを身につける。寓意詩、叙事詩、ロマンスの要素を併せもつ本作品の内実を考える。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：スペンサーの英詩の語法に精通し、語源に遡って言葉の意味を知る。思考・判断の観点：作品に寓意されている内実と、ロマンスの語り口を考える。
- 授業の計画（全体） 第7篇から第12篇まで、第1巻を精読する。
- 成績評価方法（総合） 平常点
- 教科書・参考書 教科書：Edmund Spenser's Poetry, Maclean & Prescott (eds), W.W.Norton, 1993年
／参考書：The Faerie Queene, A.C.Hamilton(ed.), Longman, 1977年；The Faerie Queene, 細江逸記（注），研究社, 1929年

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 伊豆大和 | | | | |

- 授業の概要 F. Scott Fitzgerald の最後の小説 The Love of the Last Tycoon (1993) を精読する。／検索キーワード アメリカ文学
- 授業の一般目標 テキストの精読を通して小説研究の意義を認識する。また、文学と映画との関係についても考察する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 原語（英語）で小説を読む力を深める。 思考・判断の観点： 1. 文学（小説）研究の方法を検証する。
- 授業の計画（全体） テキストを演習形式で読み進む。受講者はきちんと予習して出席し、毎回発表してもらうことになる。詳細は第1回目の授業で説明する。
- 成績評価方法（総合） 平常点で評価する。
- 教科書・参考書 教科書：教科書はプリントを用意する。／参考書：授業の中で紹介する。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 伊豆大和 | | | | |

- 授業の概要 前期に引き続いて The Love of the Last Tycoon を精読する。／検索キーワード アメリカ文学
- 授業の一般目標 テキストの精読を通して小説研究の意義を認識する。また、文学と映画との関係についても考察する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 原語（英語）で小説を読む力を深める。 思考・判断の観点： 1. 文学（小説）研究の方法を検証する。
- 授業の計画（全体） テキストを演習形式で読み進む。受講者はきちんと予習して出席し、毎回発表してもらう。
- 成績評価方法（総合） 平常点で評価する。
- 教科書・参考書 教科書： プリントを用意する。／参考書： 授業の中で紹介する。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 宮原一成 | | | | |

- 授業の概要 19世紀英国の文豪 Charles Dickens の *Bleak House* (1852-3) を読み、作品について討論する。
前期は第 35 から 36 章あたりまで読む予定。続きは後期に読むので、前期後期通しての受講を強く望む。
／検索キーワード Dickens Bleak House
- 授業の一般目標 小説作品について、専門的な議論をする力を養う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：原文をまず英語として正確に理解する。心理描写、社会風俗描写を正しく理解する。思考・判断の観点：作品の訴えかけるものについて、自分なりの所見を形成する。
- 授業の計画（全体） 輪番で精読・討論する。当番はレジュメを毎回作成。
- 成績評価方法（総合） 発表の出来具合＋討論への貢献度。3 回以上欠席したら、不可。
- 教科書・参考書 教科書： *Bleak House*, Charles Dickens, Penguin USA, 2003 年； ISBN 0141439726
- メッセージ 千ページ弱の長編を 1 年間で読む。1 回に進む分量はそこから逆算してほしい。
- 連絡先・オフィスアワー 受講者には知らせる。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 宮原一成 | | | | |

- 授業の概要 19 世紀英国の文豪 Charles Dickens の Bleak House_(1852-3) を読み、作品について討論する。
時間が許せば、最後の 2 週はこの作品に関する英文評論を数本読む。／検索キーワード Dickens Bleak House
- 授業の一般目標 小説作品について、専門的な議論をする力を養う。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 原文をまず英語として正確に理解する。心理描写、社会風俗描写を正しく理解する。 思考・判断の観点： 作品の訴えかけるものについて、自分なりの所見を形成する。
- 授業の計画（全体） 輪番で精読・討論する。当番はレジュメを毎回作成。
- 成績評価方法（総合） 発表の出来具合＋討論への貢献度。3 回以上欠席したら、不可。
- 教科書・参考書 教科書： Bleak House, Charles Dickens, Penguin USA, 2003 年； ISBN 0141439726 ／
参考書： 評論を読む場合、教官が資料を準備する。
- 連絡先・オフィスアワー 受講者には知らせる。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 池園宏 | | | | |

- 授業の概要 19 世紀イギリスの小説家 Anthony Trollope の『The Warden』、及びこの作品に関する論文を読む。／検索キーワード Anthony Trollope、英国小説、ヴィクトリア朝
- 授業の一般目標 テキストと論文を読む作業を通して、Trollope の作家像及び 19 世紀ヴィクトリア朝文学における位置づけを理解する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 作家や作品、及び関連する論文の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点： 作品に盛り込まれた諸テーマを、自分なりの視点で分析できる。 態度の観点： 常に問題意識を持って議論に参加できる。
- 授業の計画（全体） 一週間に 20 ページのペースで作品を読み進め、読了後これに関する論文を読む。受講者の発表とそれを元にしたディスカッションを中心に授業を行う。
- 成績評価方法（総合） (1) 本作品について 4000-5000 字程度のレポートを作成し、提出する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書 教科書： 教科書：『The Warden』 著者：Anthony Trollope 出版社：Penguin ／ 参考書：授業の中で紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー ikezono@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 英米文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 池園宏 | | | | |

- 授業の概要 19 世紀イギリスの小説家 Anne Bronte の *Agnes Grey*、及びこの作品に関する論文を読む。
／検索キーワード Anne Bronte、英国小説、ヴィクトリア朝
- 授業の一般目標 テキストと論文を読む作業を通して、Anne Bronte の作家像及び 19 世紀ヴィクトリア朝文学における位置づけを理解する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 作家や作品、及び関連する論文の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点： 作品に盛り込まれた諸テーマを、自分なりの視点で分析できる。 態度の観点： 常に問題意識を持って議論に参加できる。
- 授業の計画（全体） 一週間に 20-30 ページのペースで作品を読み進め、読了後これに関する論文を読む。受講者の発表とそれを元にしたディスカッションを中心に授業を行う。
- 成績評価方法（総合） (1) 本作品について 4000-5000 字程度のレポートを作成し、提出する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書 教科書： 教科書： *Agnes Grey* 著者： Anne Bronte 出版社：Penguin / 参考書： 授業の中で紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー ikezono@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ語論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 下嶋正利 | | | | |

●授業の概要 ドイツ語の歴史を、インド・ヨーロッパ祖語から古高ドイツ語まで、時代を追って概観する。

●授業の一般目標 ドイツ語ができるまでの歴史について、基本的なことを学習するとともに、比較言語学及び歴史言語学の方法論を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：ドイツ語ができるまでの歴史について、基本的なことを学習するとともに、比較言語学及び歴史言語学の方法論を身につける。

●授業の計画（全体）ドイツ語の歴史を、インド・ヨーロッパ祖語から古高ドイツ語まで、時代を追って概観する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

| | | | | |
|--------|----|-------------|----|-------------|
| 第 1 回 | 項目 | 授業に関する一般的説明 | 内容 | 授業に関する一般的説明 |
| 第 2 回 | 項目 | インド・ヨーロッパ祖語 | 内容 | インド・ヨーロッパ祖語 |
| 第 3 回 | 項目 | インド・ヨーロッパ祖語 | 内容 | インド・ヨーロッパ祖語 |
| 第 4 回 | 項目 | インド・ヨーロッパ祖語 | 内容 | インド・ヨーロッパ祖語 |
| 第 5 回 | 項目 | インド・ヨーロッパ祖語 | 内容 | インド・ヨーロッパ祖語 |
| 第 6 回 | 項目 | ゲルマン祖語 | 内容 | ゲルマン祖語 |
| 第 7 回 | 項目 | ゲルマン祖語 | 内容 | ゲルマン祖語 |
| 第 8 回 | 項目 | ゲルマン祖語 | 内容 | ゲルマン祖語 |
| 第 9 回 | 項目 | ゲルマン祖語 | 内容 | ゲルマン祖語 |
| 第 10 回 | 項目 | ゲルマン祖語 | 内容 | ゲルマン祖語 |
| 第 11 回 | 項目 | 古高ドイツ語 | 内容 | 古高ドイツ語 |
| 第 12 回 | 項目 | 古高ドイツ語 | 内容 | 古高ドイツ語 |
| 第 13 回 | 項目 | 古高ドイツ語 | 内容 | 古高ドイツ語 |
| 第 14 回 | 項目 | 古高ドイツ語 | 内容 | 古高ドイツ語 |
| 第 15 回 | 項目 | 期末試験 | 内容 | 期末試験 |

●成績評価方法（総合）レポートと期末試験による。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ語論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 下嶋正利 | | | | |

- 授業の概要 ドイツ語の歴史を、古高ドイツ語から現代ドイツ語まで、時代を追って概観する。
- 授業の一般目標 古高ドイツ語から現代ドイツ語までの歴史を、歴史的・社会的背景を考え合わせながら、時代を追って概観するとともに、歴史言語学に関する理解を深める。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：古高ドイツ語から現代ドイツ語までの歴史を、歴史的・社会的背景を考え合わせながら、時代を追って概観するとともに、歴史言語学に関する理解を深める。
- 授業の計画（全体）ドイツ語の歴史を、古高ドイツ語から現代ドイツ語まで、時代を追って概観する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 古高ドイツ語から中高ドイツ語へ 内容 古高ドイツ語から中高ドイツ語への変化について概説する
- 第 2 回 項目 古高ドイツ語から中高ドイツ語へ 内容 古高ドイツ語から中高ドイツ語への変化について概説する
- 第 3 回 項目 中高ドイツ語 内容 中高ドイツ語
- 第 4 回 項目 中高ドイツ語 内容 中高ドイツ語
- 第 5 回 項目 中高ドイツ語から初期新高ドイツ語へ 内容 中高ドイツ語から初期新高ドイツ語への変化について概説する
- 第 6 回 項目 中高ドイツ語から初期新高ドイツ語へ 内容 中高ドイツ語から初期新高ドイツ語への変化について概説する
- 第 7 回 項目 初期新高ドイツ語 内容 初期新高ドイツ語
- 第 8 回 項目 初期新高ドイツ語 内容 初期新高ドイツ語
- 第 9 回 項目 初期新高ドイツ語から新高ドイツ語へ 内容 初期新高ドイツ語から新高ドイツ語への変化について概説する
- 第 10 回 項目 初期新高ドイツ語から新高ドイツ語へ 内容 初期新高ドイツ語から新高ドイツ語への変化について概説する
- 第 11 回 項目 新高ドイツ語 内容 新高ドイツ語
- 第 12 回 項目 新高ドイツ語 内容 新高ドイツ語
- 第 13 回 項目 新高ドイツ語 内容 新高ドイツ語
- 第 14 回 項目 新高ドイツ語 内容 新高ドイツ語
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 期末試験

- 成績評価方法（総合）レポートと期末試験による。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ語論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 本田義昭 | | | | |

- 授業の概要 ドイツ語学の専門文献を、論の展開の仕方などに注意しながら、読んで行きます。／検索キーワード 専門文献, 批判的な読みこなし
- 授業の一般目標 ドイツ語学の専門文献を批判的に読みこなせる能力を養う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. ドイツ語学の専門的知識をさらに深める。 思考・判断の観点： 1. 論の展開を把握する。 関心・意欲の観点： 1. 広く言語現象への関心を深める。
- 授業の計画（全体） ドイツ語学の文献を要約し、その中で論じられている事柄を確認し、その論の展開に問題がないか批判的に読んで行く。
- 成績評価方法（総合） 平素の学習状況 5 割＋レポート 5 割で評価する。
- 教科書・参考書 教科書：プリントを使用する。
- メッセージ 文章も内容も平易ではないので、十分に予習して授業に臨んでください。
- 連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ語論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 本田義昭 | | | | |

- 授業の概要 ドイツ語学の専門文献を、論の展開の仕方などに注意しながら、読んで行きます。／検索キーワード 専門文献, 批判的な読みこなし
- 授業の一般目標 ドイツ語学の専門文献を批判的に読みこなせる能力を養う。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1. ドイツ語学の専門的知識をさらに深める。 思考・判断の観点： 1. 論の展開を把握する。 関心・意欲の観点： 1. 広く言語現象への関心を深める。
- 授業の計画（全体） ドイツ語学の文献を要約し、その中で論じられている事柄を確認し、その論の展開に問題がないか批判的に読んで行く。
- 成績評価方法（総合） 平素の学習状況 5 割＋レポート 5 割で評価する。
- 教科書・参考書 教科書： プリントを使用する。
- メッセージ 文章も内容も平易ではないので、十分に予習して授業に臨んでください。
- 連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|------------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ文学論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | Hintereeder-Emde Franz | | | | |

●授業の概要 宮崎駿作『アルプスの少女ハイジ』は、日本人なら誰でも知っているし、世界的に有名である。原作品は、スイスの女流作家ヨハンナ・スピーリ (Johanna Spyri, 1827-1901) の代表的な児童文学の『ハイジの修業時代と遍歴時代』(1880年) や『ハイジは習ったことを使うことができる』(1881年) である。原作のタイトルは、ドイツ文学の文豪ゲーテの代表作『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』(1795/96年) と『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』(1821年) の意識したもので、教養小説の伝統をついでいる作品でもある。／検索キーワード スイス文学、児童文学、異文化理解

●授業の一般目標 この講義では、『アルプスの少女ハイジ』を出発点にしながら、アニメの映像を取り入れて、原作と比較する一方、「スイス」という文化的なイメージと現実のスイスの差異を論じる。当時の社会、歴史、経済や宗教の意味を把握し、ヨーロッパやドイツ文化圏の多様性を考察したい。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：19世紀や世紀末の中央ヨーロッパの文化的な背景を把握することができる。思考・判断の観点：原文や周辺資料の解読によって、19世紀後半の中央ヨーロッパの時代性や文化的な実体を理解する。関心・意欲の観点：スイスやドイツ語圏の文学への関心をもって、文化的なイメージや文化の現状について学ぶ。態度の観点：自分の異文化観(「ハイジのスイス」)を再検討し、さらに異文化理解を深める。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 アニメの「ハイジ」と原作「ハイジ」(1) 内容 アニメのいくつかの場面を選び、現作品と比較する(1)
- 第 2 回 項目 アニメの「ハイジ」と原作「ハイジ」(2) 内容 アニメのいくつかの場面を選び、現作品と比較する(2)
- 第 3 回 項目 アニメの「ハイジ」と原作「ハイジ」(3) 内容 アニメのいくつかの場面を選び、現作品と比較する(3)
- 第 4 回 項目 「ハイジ」と自然(1) 内容 作品の自然描写について
- 第 5 回 項目 「ハイジ」と自然(2) 内容 作品の自然描写について
- 第 6 回 項目 「ハイジ」と自然(3) 内容 作品の自然描写について
- 第 7 回 項目 「ハイジ」と宗教(1) 内容 作品に描かれた宗教生活について
- 第 8 回 項目 「ハイジ」と宗教(2) 内容 作品に描かれた宗教生活について
- 第 9 回 項目 「ハイジ」と宗教(3) 内容 作品に描かれた宗教生活について
- 第 10 回 項目 「ハイジ」と産業化(1) 内容 産業化の時代における子供の生活環境
- 第 11 回 項目 「ハイジ」と産業化(2) 内容 産業化の時代における子供の生活環境
- 第 12 回 項目 「ハイジ」と産業化(3) 内容 産業化の時代における子供の生活環境
- 第 13 回 項目 「ハイジ」と異文化意識(1) 内容 スイスのイメージと異文化理解
- 第 14 回 項目 「ハイジ」と異文化意識(2) 内容 スイスのイメージと異文化理解
- 第 15 回 項目 「ハイジ」と異文化意識(3) 内容 スイスのイメージと異文化理解

●教科書・参考書 教科書：アルプスの少女、(世界の名作全集；14), ヨハンナ・スピーリ作；山口四郎訳, 国土社, 1992年

●連絡先・オフィスアワー tel: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp office hour: 木曜日 3・4時限 (10:20~11:50)

| | | | | | |
|------|-----------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ文学論演習 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | Hintereder-Emde Franz | | | | |

- 授業の概要 『アルプスの少女ハイジ』を読む。スイスの女流作家ヨハンナ・スピーリ (Johanna Spyri, 1827-1901) の『ハイジ』は、世界的に有名な児童文学作品である。宮崎駿のアニメ作品『アルプスの少女ハイジ』は多くの日本人がスイスの大自然について抱くイメージを作り上げて、無垢な子供の世界を賛美している。原作の『ハイジの修業時代と遍歴時代』(1880年) や『ハイジは習ったことを使うことができる』(1881年) は、当時のスイスの初期産業化の中の子供における生活環境を冷静な目で描いている。／検索キーワード 児童文学、スイス文学、ドイツ語圏文学
- 授業の一般目標 『アルプスの少女ハイジ』は一般は、文学作品としてではなく、映像化された形の方が知られている。この演習では、原作を読みながら、当時の経済や社会の背景を探ってみる。スイスの児童文学をドイツ文化圏のファセットとして知ってもらい、ヨーロッパの宗教・文化・社会の諸相を勉強していく。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 原作の解読力を身に付け、内容について理解を深める。 思考・判断の観点： 自発的に作品や関係資料を読み進め、内容について討論をする。 関心・意欲の観点： 本文や関連した研究文献などの読書に意欲を持ち、定期的に授業で発表や紹介すること。資料の分析や発表の技術に重点を置く。
- 教科書・参考書 教科書： 原文の作品は手に入るににくいから、コピーで読む箇所を配ります。Heidis Lehr- und Wanderjahre, Heidi kann brauchen, was es gelernt hat / Johanna Spyri ; mit den Illustrationen von Rudolf Munzer. - 4 Aufl. Muenchen: Lentz 1978
- 連絡先・オフィスアワー tel: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp office hour : 木曜日 3・4時限 (10:20~11:50)

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ文学論演習 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 岡光一浩 | | | | |

- 授業の概要 トーマス・マンの作品を読む。／検索キーワード 文学とはなにか。
- 授業の一般目標 ドイツ語の読解力をみがく。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：ドイツ語をよむことができる。 思考・判断の観点：文献の分析ができる。 関心・意欲の観点：トーマス・マンへの理解を深める。
- 授業の計画（全体） トーマス・マンの作品の読解を通して、トーマス・マンの文学の考え方を学ぶ。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
 - 第 1 回 項目 導入 内容 全体的な計画。トーマス・マンについて。
 - 第 2 回 項目 輪読 内容 トーマス・マンの作品
 - 第 3 回 項目 以下、同上 内容 以下、同上。
 - 第 4 回
 - 第 5 回
 - 第 6 回
 - 第 7 回
 - 第 8 回
 - 第 9 回
 - 第 10 回
 - 第 11 回
 - 第 12 回
 - 第 13 回
 - 第 14 回
 - 第 15 回
- 成績評価方法（総合） 授業中の発表やレポートにおいて評価する。
- 教科書・参考書 教科書：プリントで行う。／参考書：講義中に、適宜、指摘する。
- メッセージ 一生懸命すれば、面白さも見えてくる。
- 連絡先・オフィスアワー 人文学部 岡光研究室

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 坂本貴志 | | | | |

- 授業の概要 ドイツにおけるメディア論をリードするうちの一人、ノルベルト・ボルツの『ゲーテンベルク銀河系の終焉—新しいコミュニケーションのすがた（法政大学出版局より邦訳あり）』をドイツ語原文で読む。／検索キーワード メディア論
- 授業の一般目標 読書会形式でテキストに対する理解を得ることを目標とし、活字文化の終焉とコンピューター時代の到来における、人間の身体、コミュニケーション、表象についての可能性を考える。
- 授業の計画（全体） 参加者は、訳本を参照しても良いので、ドイツ語テキストの読解を予習として行ってから、ゼミに参加し、内容理解のための発表や討論を行う。
- 成績評価方法（総合） 期末レポートによる。
- 教科書・参考書 教科書： テキストは、Am Ende der Gutenberg - Galaxis. Die neuen Kommunikationsverhaeltnisse. Fink (Wilhelm) 1995 / 参考書： ノルベルト・ボルツ『ゲーテンベルク銀河系の終焉—新しいコミュニケーションのすがた』法政大学出版局 M・マクラーハン『ゲーテンベルクの銀河系』みすず書房

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | ドイツ文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 坂本貴志 | | | | |

- 授業の概要 ドイツにおけるメディア論をリードするうちの一人、ノルベルト・ボルツの『ゲーテン ベルク銀河系の終焉—新しいコミュニケーションのすがた（法政大学出版局より邦訳あり）』をドイツ語原文で読む。
- 授業の一般目標 前期に準ずる。
- 授業の計画（全体） 前期に準ずる。
- 成績評価方法（総合） 期末レポートによる。

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | フランス語論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 武本 雅嗣 | | | | |

- 授業の概要 フランス語の与格について講義します。
- 授業の一般目標 フランス語の与格を体系的に理解する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：フランス語の与格を体系的に理解する。 思考・判断の観点：代名詞の与格と前置詞与格の違いを説明できる。
- 授業の計画（全体） 先行研究を概観したうえで、与格について認知的な観点から分析していく。
- 成績評価方法（総合） 平常点
- 教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00

| | | | | | |
|------|--------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | フランス語論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 山田 博志 | | | | |

- 授業の概要 フランス語の空間表現を対象に分析を行う。場所を表す前置詞および場所の状況補語が具体的な分析対象となるが、空間表現の基本となる「存在」と「移動」をめぐって、空間以外の範疇－「道具・手段」や「受益者」－との関連についても考えてみたい。
- 授業の一般目標 フランス語の場所の前置詞の意味を確実に把握すると同時に、フランス語を研究対象として捉え、考えるための方法を身につける。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： フランス語を分析対象とする際に必要な基本的概念を身につけると共に、例えば次のような前置詞の用法の違いを理解することができるようになる。 au mur / sur le mur, au plafond / ?sur le plafond, essuyer avec un mouchoir / essuyer sur la chemise 思考・判断の観点： フランス語のデータ（文法的に適格な文と不適格な文）をもとに、何故そのような違いが生じるのか、そこにはどのような文法的メカニズムが働いているのか、などを考えていく態度と方法を身につける。
- 授業の計画（全体） 次のような項目を扱う。 1. 前置詞の特徴 2. 空間前置詞の分類 3. 前置詞分析の方法 4. dans と sur 5. 前置詞 a の特殊性 6. 場所の状況補語 7. 場所と道具 8. 移動と受益者
- 成績評価方法（総合） 平常点（授業への参加度，など）とレポートの両方をもとに総合的に判断する。
- 備考 集中授業

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | フランス語論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 武本 雅嗣 | | | | |

- 授業の概要 フランス語の冠詞に関する論文を読んでいます。
- 授業の一般目標 フランス語の冠詞に関する主要な文献を読み、自己の研究を発展させていく。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： フランス語の冠詞に関する先行研究のを理解する。 思考・判断の観点： 先行研究を批判的に分析する。 関心・意欲の観点： 分析し、発表を行う。
- 授業の計画（全体） フランス語の冠詞に関する主要な文献を読み、批判的に検討していく。
- 成績評価方法（総合） 発表，レポート。
- 教科書・参考書 教科書： プリントを配布します。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | フランス語論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 武本 雅嗣 | | | | |

- 授業の概要 フランス語の冠詞に関する論文を読んでいます。
- 授業の一般目標 フランス語の冠詞に関する主要な文献を読み、自己の研究を発展させていく。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：フランス語の冠詞に関する先行研究のを理解する。 思考・判断の観点：先行研究を批判的に分析する。 関心・意欲の観点：分析し、発表を行う。
- 授業の計画（全体） フランス語の冠詞に関する主要な文献を読み、批判的に検討していく。
- 成績評価方法（総合） 発表，レポート。
- 教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | フランス文学論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 井上三朗 | | | | |

- 授業の概要 講義題目を「サド学入門」とし、サドの作品世界を概観したい。サドの作品は、『ジュスチーンまたは美德の不幸』と『ジュリエット物語または悪徳の栄え』を取り扱う。サドの作品世界が情念の世界であり、想像力の世界であることを論じ、サドの文学言語について考察したい。
- 授業の一般目標 サドの文学は、キリスト教文学と真っ向から対立し、反キリスト教文学と規定できるが、この反キリスト教文学あるいは悪の文学がいかなるものであるのか、サドの文学を具体的に検討することをおして、理解したい。
- 授業の計画（全体） フランス文学特殊講義と同じ。
- 成績評価方法（総合） 定期試験の点数と平常点との総合で、成績評価する。
- 教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。／参考書：授業中、適宜紹介する。
- メッセージ 授業への積極的な参加を希望する。
- 連絡先・オフィスアワー 月曜日 14：30－16：00. 613研究室。

| | | | | | |
|------|------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | フランス文学論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 平山 豊 | | | | |

- 授業の概要 スタンダールの代表的作品を取り上げ解説する。またその生涯を彼の自伝的作品や研究者の論考を通してつづさに辿り、作品創造の秘密に迫る。
- 授業の一般目標 小説や日記、エッセイの読み方、分析や論述の展開の仕方を学ぶ。背景となる時代や社会環境への理解を深める。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 作品の内容及び背景の理解 思考・判断の観点： 作品に書かれていること、そしてまた各論者の見方に関して
- 授業の計画（全体） まず、『アンリ・ベールの生涯』などで窺がわれる作家以前の生き方から説き起こし、それから年代順に『恋愛論』、『赤と黒』、『パルムの僧院』などの主要作品をたどる。 その間にアンリ・マルチノー、ジャン・プレボー、ジャン・スタロバンスキーなどのスタンダール論を紹介する。
- 成績評価方法（総合） レポート評価70％ 授業参加・授業内発表30％
- 教科書・参考書 教科書：プリント配布／ 参考書：スタンダール著作集（フランス語版および訳本）ほか

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | フランス文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 井上三朗 | | | | |

- 授業の概要 ヌーヴェル・クリティックの大家、ジョルジュ・プーレの『批評的意識』を読む。この書物は、19世紀のスタール夫人以後の、批評の流れをたどったものである。この作品を読むことによって、ボードレー、プルーストらの批評がいかなるものであったかを学びたい。
- 授業の一般目標 使用するテキストは、文芸批評の流れをたどったものなので、批評とは何か、文学研究とは何か、を考えることができる。文学研究の方法論を確立することができれば幸いである。
- 授業の計画（全体） 使用するテキストは全体として300頁から成り、したがって、すべてを読み通すことは不可能である。1回の授業につき、1頁半ほど読みすすめることで、序文と、ボードレー、プルーストの批評を論じた部分を検討したい。
- 成績評価方法（総合） 平常の成績を重視する。平常点で成績評価することができれば、期末試験をおこなうこと、あるいは、レポートを課すことは考えていない。
- 教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。／参考書：授業中、適宜紹介する。
- メッセージ 授業への積極的な参加を望む。

| | | | | | |
|------|-----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | フランス文学論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 平山 豊 | | | | |

- 授業の概要 『書簡』で有名なセヴィニエ夫人の生涯と彼女の生きたルイ14世の時代を描いたジャック・イスレールの『セヴィニエ侯爵夫人』を読むことによって、作品の背景としての当時の貴族社会の姿や歴史的・文学的事件を理解する。
- 授業の一般目標 生来の人間性の発露と政治的・文化的・歴史的要素が交錯する文学表現の妙味を感得する。
- 授業の計画（全体） 作者の才知、美貌、娘への情愛等の女性的美質を浮き彫りする手紙を『書簡集』の中に探り、併せて、サロンの模様、財務卿フーケ、劇作家モリエールとの交際、地方への旅によって知る厳しい現実等をフランス語テキスト抜粋を拾い読みすることにより理解する。
- 成績評価方法（総合） 平素の授業参加度 40% 定期試験 60% の割合で総合評価する。
- 教科書・参考書 教科書：プリント配布／参考書： Jacques Hilaire, La Marquise de Sevigne, LE CRI Madame de Sevigne, Lettres choisies, folio

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語構造論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 平野 尊識 | | | | |

- 授業の概要 前期は、日本語・英語の連体修飾構造もしくは関係節構造を統語的な観点から取り扱う。いわゆる先行詞は、関係節中の主語、目的語、間接目的語、時間・場所・道具などを表すものなどがあるが、これらに基づき日本語と英語の類似点と相違点を明らかにする。それによって、関係節構造について、言語全般に亘る洞察への足掛かりとする。／検索キーワード 連体修飾、文法関係、項
- 授業の一般目標 1. 日本語の連体修飾構造と英語の関係節構造が同一の言語現象であることを理解させる 2. それらを構造的に捉える能力 3. 類似点と相違点を形式化できるか 4. 他の言語との比較につながるか 5. これらを基に、科学的に考察する能力を養う
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：参考文献を読んで理解できること。思考・判断の観点：科学的に考察できること。問題点を正しく把握できること。関心・意欲の観点：日本語の連体修飾についてだけでなく、英語をはじめとするその他の言語の同じような構文にまで興味が広がること。態度の観点：積極的に発表し、授業に参加すること。
- 授業の計画（全体）内容から見て、セメスターを次の4期に分けて進めていく。1. 連体修飾構造が意味するもの 2. 英語の連体修飾（関係）節構造を形式的に表すこと 3. 両言語における類似点と相違点は 4. 世界の言語と連体修飾
- 成績評価方法（総合）学期末試験を中心にする。授業外レポート（2回の予定）と授業への参加状況を勘案する。
- 教科書・参考書 教科書：An introduction to Japanese linguistics, Tsujimura, Natsuko, Blackwell, 1996年
- メッセージ 予習して出席すること。講義に出て話を聞き、そこで理解できれば講義の目は達成できたことになる。
- 連絡先・オフィスアワー e-mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun 617

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語構造論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 平野尊識 | | | | |

- 授業の概要 後期は、連体修飾または関係節構造について、言語横断的に考察する。この構造の理解と構成に関しては、2つのタイプが観察される。統語論タイプと語用論タイプである。英語は前者のタイプであり、日本語は後者のタイプである。これらのタイプについて具体例に基づき整理し、理解を図る。後者のタイプの関係節構造（この場合は、連体修飾節と言った方が適切である）の本質を明らかにし、その形式化を試みる。／検索キーワード 連体修飾、関係節、統語論、語用論
- 授業の一般目標 言語現象の背後にどのような一般性、原則が潜んでいるか、それを洞察する能力と体系化する能力を養う。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： テキストを読んで理解できること。 思考・判断の観点： 科学的に考察できること。 関心・意欲の観点： 日本語の連体修飾についてだけでなく、英語をはじめとするその他の言語の同じような構文にまで関心を広げられるか。 態度の観点： 積極的に授業に参加し、自身の見解を述べること。
- 授業の計画（全体） 授業概要で述べた項目について、理解が得られたかどうか確認しながら、次の項目に進んでいく。講義に使う拙論を読んできることが前提であり、毎回の講義で内容の理解を図る。関係節構造に関する英語、日本語、その他の言語からのデータの収集と分析を行うので、演習形式を取り入れた講義も行う。
- 成績評価方法（総合） 内容についてのレポートを2回提出してもらおう。更に学期末試験を行う。
- 教科書・参考書 教科書： 日本語の分析と言語類型, 影, くろしお出版, 2004 年； 上の論文集中の拙論、Relative clause formation:Toward a new typology.
- 連絡先・オフィスアワー e-mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun level 6, 617

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語構造論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 金子 亨 | | | | |

- 授業の概要 今日の本国の領土にある・あったと思われる先住民族の言語について考えます。アイヌ語とニヴフ語です。これらの言語の概要について学ぶと共にその言語の研究とその方法、更にその維持に関する問題を提起します。
- 授業の一般目標 北の先住民族言語について関心を呼び、その研究者を育てること。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：多分、殆どが耳新しい事柄です。理解してください。思考・判断の観点：理解を基礎に将来の研究について考えてください。関心・意欲の観点：どこを言わず先住民族とその言語について研究を勧めます。態度の観点：先住民族の生活の背景についての考えをしっかりさせましょう。遊び事ではないのですから。技能・表現の観点：この問題に取りかかるにはかなりの「スキル」を前提とします。根気の要る作業が必要ですので覚悟しましょう。
- 授業の計画（全体）問題を提起してゼミ形式で討論します。特にアイヌ語に関してはその専門家（田村雅史氏）に助力を仰ぎます。氏からは研究の将来に関しても有効な助言が得られるでしょう。
- 成績評価方法（総合）講義批判小論を求めます。
- 教科書・参考書 参考書：先住民族言語のために、金子 亨, 草風館, 1999 年；アイヌ民族に関する指導資料, 編集委員長奥田統己, 文化振興研究推進機構, 2000 年；アイヌ語（エキスプレス, 中川 裕, 白水社, 1994 年；ニヴフ語会話帳・語彙集, ローク・金子編, ELPER, 2003 年；www.ne.jp/asahi/kaneko-tohru/languages-nowar
- 連絡先・オフィスアワー 集中講義期間中随時
- 備考 集中授業

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語構造論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 乾 秀行 | | | | |

●授業の概要 世界にはいろいろな言語が話されており、母語である日本語やヨーロッパの主要言語のみを頼りに言語の特性を論じては正しいとは限らない。またことばの変化について考える場合も同じである。本講義ではまず言語の多様性を実感し、その上で言語の類型化や言語変化について論じる。具体的には言語類型論関連の主要論文を読みながら、そこに出てくるいろいろな言語の共時的・通時的言語現象を一つ一つ吟味しながら、考察を加えることになる。なお理論研究にありがちな性急な一般化をめざすことよりも、言語現象の多様性を理解することの方がはるかに大切である。言語の類型化や言語変化の説明をする上での問題点を探ってみたい。

●授業の一般目標 1. 言語の多様性について理解を深める。 2. 言語変化について理解を深める。 3. 言語の類型化について理解を深める。

●授業の計画(全体) グループ学習。

●授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 授業の進め方の説明

第 2 回 項目 7-1 内容 偏流

第 3 回 項目 7-2 内容 偏流

第 4 回 項目 7-3 内容 偏流

第 5 回 項目 7-4 内容 偏流

第 6 回 項目 7-5 内容 偏流

第 7 回 項目 8-1 内容 音法則

第 8 回 項目 8-2 内容 音法則

第 9 回 項目 8-3 内容 音法則

第 10 回 項目 8-4 内容 音法則

第 11 回 項目 9-1 内容 言語接触

第 12 回 項目 9-2 内容 言語接触

第 13 回 項目 9-3 内容 言語接触

第 14 回 項目 9-4 内容 言語接触

第 15 回 項目 予備

●成績評価方法(総合) 出席点。発表。テスト。

●教科書・参考書 教科書：『言語-ことばの研究序説-』, エドワード・サピア, 岩波文庫, 1998 年; 別資料は必要に応じてコピーで配布します。

●メッセージ ノートパソコンを使用します。最初からパソコンについての特別な技能は必要ありません。一年を通してパワーポイントやホームページ作成能力を同時に養っていきます。

●連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|----------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語構造論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 乾 秀行 | | | | |

●授業の概要 世界にはいろいろな言語が話されており、母語である日本語やヨーロッパの主要言語のみを頼りに言語の特性を論じても正しいとは限らない。またことばの変化について考える場合も同じである。本講義ではまず言語の多様性を実感し、その上で言語の類型化や言語変化について論じる。具体的には言語類型論関連の主要論文を読みながら、そこに出てくるいろいろな言語の共時的・通時的言語現象を一つ一つ吟味しながら、考察を加えることになる。なお理論研究にありがちな性急な一般化をめざすことよりも、言語現象の多様性を理解することの方がはるかに大切である。言語の類型化や言語変化の説明をする上での問題点を探ってみたい。

●授業の一般目標 1. 言語の多様性について理解を深める。 2. 言語変化について理解を深める。 3. 言語の類型化について理解を深める。

●授業の計画（全体） グループ毎に発表形式で読んでいきます。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 授業の進め方の説明

第 2 回 項目 語順の類型論 1

第 3 回 項目 語順の類型論 2

第 4 回 項目 語順の類型論 3

第 5 回 項目 語順の類型論 4

第 6 回 項目 語順の類型論 5

第 7 回 項目 主語の諸問題 1

第 8 回 項目 主語の諸問題 2

第 9 回 項目 主語の諸問題 3

第 10 回 項目 主語の諸問題 4

第 11 回 項目 類型地理論 1

第 12 回 項目 類型地理論 2

第 13 回 項目 類型地理論 3

第 14 回 項目 類型地理論 4

第 15 回 項目 予備

●成績評価方法（総合） 出席点。発表。テスト。

●教科書・参考書 教科書：テキストをコピーで配布します。

●メッセージ ノートパソコンを使用します。最初からパソコンについての特別な技能は必要ありません。一年を通してパワーポイントやホームページ作成能力を同時に養っていきます。

●連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語構造論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 乾 秀行 | | | | |

- 授業の概要 言語学、日本語学に関する論文を読む。
- 授業の一般目標 修士論文を書くための演習である。
- 授業の計画（全体） 受講生の研究テーマについて、毎回発表形式で行う。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 授業の進め方
 第 2 回 項目 演習 1
 第 3 回 項目 演習 2
 第 4 回 項目 演習 3
 第 5 回 項目 演習 4
 第 6 回 項目 演習 5
 第 7 回 項目 演習 6
 第 8 回 項目 演習 7
 第 9 回 項目 演習 8
 第 10 回 項目 演習 9
 第 11 回 項目 演習 1 0
 第 12 回 項目 演習 1 1
 第 13 回 項目 演習 1 2
 第 14 回 項目 演習 1 3
 第 15 回 項目 演習 1 4

- 成績評価方法（総合） 発表。レポート。
- 教科書・参考書 教科書：テキストをコピーで配布します。
- 連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語構造論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 乾 秀行 | | | | |

- 授業の概要 言語学、日本語学に関する論文を読む。
- 授業の一般目標 修士論文を書くための演習である。
- 授業の計画（全体） 受講生の研究テーマについて、毎回発表形式で行う。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 授業の進め方
第 2 回 項目 演習 1
第 3 回 項目 演習 2
第 4 回 項目 演習 3
第 5 回 項目 演習 4
第 6 回 項目 演習 5
第 7 回 項目 演習 6
第 8 回 項目 演習 7
第 9 回 項目 演習 8
第 10 回 項目 演習 9
第 11 回 項目 演習 1 0
第 12 回 項目 演習 1 1
第 13 回 項目 演習 1 2
第 14 回 項目 演習 1 3
第 15 回 項目 演習 1 4

- 成績評価方法（総合） 発表。レポート。
- 教科書・参考書 教科書：テキストをコピーで配布します。
- 連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語構造論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 平野尊識 | | | | |

- 授業の概要 修士論文作成のための演習である。従って、受講者の研究対象と関連する論文等を読み、受講者の理解を図る。／検索キーワード 言語学、音韻論と音声学、統語論、語用論
- 授業の一般目標 前期は受講者が志している研究内容を確認し、それに基づいた教材を選ぶ。また修士論文完成までのスケジュールを立てる。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 研究の現状を理解する。 思考・判断の観点： 言語現象の背後にあると思われる規則性、一般原理を発見すること。 態度の観点： 受講生が自ら問題点を見付けること。
技能・表現の観点： 自らの思考過程を第三者にどのように説明したら理解してもらえるのか工夫しながら、記述すること。
- 授業の計画（全体） 前期を次の3期に分けて進める。 1. スケジュールを立てる。 2. 研究対象の確認。 3. 参考文献を読み、理解する。 4. 問題点の整理。
- 成績評価方法（総合） 受講生の毎回の学習内容によって評価する。
- 連絡先・オフィスアワー Mail Address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun 617

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語構造論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | 平野尊識 | | | | |

- 授業の概要 修士論文作成のための演習である。従って後期は論文の完成を目標とした演習を行う。段階的に目標に到達できる演習としたい。主体はあくまでも、受講者側にある。／検索キーワード 音声学、音韻論、形態論、統語論、語用論
- 授業の一般目標 後期は、受講者が問題点を見付けだしそれを言語学的に解明すること、それを論文化する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 研究の現状を理解する。 思考・判断の観点： 問題に対して、言語学的に妥当な解決策を提示できるか。 関心・意欲の観点： 一つの問題を継続的に研究する意欲。 態度の観点： 問題の発見、その解決方法、文章化することに対して自主的に取り組むこと。 その他の観点： オリジナリティが見られるか。
- 授業の計画（全体） 毎回、受講生とのディスカッションによって進めていく。従って受講生には演習に必要な内容を調べてくることが要求される。
- 成績評価方法（総合） 毎回の演習の平常点のみによって評価する。
- 連絡先・オフィスアワー Mail Address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun # 617

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語情報論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | つる岡昭夫 | | | | |

- 授業の概要 言語情報処理の理論と歴史を学ぶ。現状と将来の課題。／検索キーワード 言語（日本語）
大量言語調査 語彙 自立語
- 授業の一般目標 言語情報処理の理論、歴史、現状と将来への課題。また、これまでの言語情報処理によって明らかになった言語（日本語）の特徴と、それを応用した言語情報処理の研究。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：言語情報処理の知識と理解。日本語の特徴。 技能・表現の観点：
コンピュータの利用技術。
- 授業の計画（全体）言語情報処理の理論と歴史。言語情報処理の結果明らかになった日本語の特徴。前期は日本語の語彙（自立語）について。
- 教科書・参考書 教科書：なし。必要なプリントは随時配付。げん
- 連絡先・オフィスアワー 電話（内線）5 2 2 6 研究室人文404 オフィスアワー木曜12. 50～14. 20

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語情報論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | つる岡昭夫 | | | | |

- 授業の概要 言語情報処理の理論と歴史を学ぶ。現状と将来への課題。／検索キーワード 言語（日本語）
大量言語調査 付属語
- 授業の一般目標 言語情報処理の理論、歴史、現状と将来への課題。またこれまでの言語情報処理によって明らかになった言語（日本語）の特徴と、それを応用した言語情報処理技術の研究。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：言語情報処理の知識と理解。日本語の特徴。 技能・表現の観点：コンピュータ利用技術。
- 授業の計画（全体） 堅固情報処理の理論と歴史。大量言語調査によって明らかになった日本語の特徴。後期は助詞・助動詞について。
- 成績評価方法（総合） 定期期末試験による。毎回出席を取り、8回以上の者のみ受験させる。試験はノート、プリント等の持ち込み可。
- 教科書・参考書 教科書：なし。必要なデータは随時プリントを配付。
- 連絡先・オフィスアワー 電話（内線）5 2 2 6 研究室人文4 0 4 オフィスアワー木曜12. 5 0～14. 2 0

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語情報論 I | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 江川 清 | | | | |

- 授業の概要 ・言語情報処理の原理、各種の調査、およびそれらの分析結果について学ぶ。 ・詳しい内容については受講者募集時、および開講時に発表する。
- 授業の一般目標 ・言語の統計処理について理解を確実にする。 ・言語情報処理の実情と将来について深く考え、理解する。
- 授業の計画（全体） ・初日 オリエンテーション、言語に関する離し ・2日目 統計処理について ・3日目 社会言語学的アプローチと日本語 ・4日目 総括、テスト
- 成績評価方法（総合） ・随時小テストを実施する ・随時宿題を課す ・最終時にテストを実施する それらを総合して成績を出す
- 教科書・参考書 教科書： 随時プリント配布する
- 連絡先・オフィスアワー 世話教員 鶴岡昭夫
- 備考 集中授業

| | | | | | |
|------|-------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語情報論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | PHILLIPSJOHNDAVID | | | | |

- 授業の概要** This course is an Introduction to Formal Semantics. What aspects of the meaning of natural language utterances are important in computational applications? How can meaning be represented in a way that is suitable for manipulation by computer and for interfacing to information stored in a computer?
- 授業の一般目標** An understanding of the basic problems and techniques of formal semantics, presented in terms of language description for computational use.
- 授業の計画 (全体)** In this first term, the course will survey the field, develop a style of representation that seems adequate for most applications, and look briefly at how representations can be produced automatically from natural language input and then used to get information from databases.
- 成績評価方法 (総合)** Written examination
- 教科書・参考書** 教科書：吉村賢治 (著) 「自然言語処理の基礎」 サイエンス社 2000 年 / 参考書：自然言語処理の基礎, 吉村賢治, サイエンス社, 2000 年； 必要に応じてプリントを配布する。
- メッセージ** 授業では英語をよく使う。

| | | | | | |
|------|-------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語情報論 II | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | PHILLIPSJOHNDAVID | | | | |

- 授業の概要** This continues last term's course on Semantics for Computational Linguistics. What aspects of the meaning of natural language utterances are important in computational applications? How can meaning be represented in a way that is suitable for manipulation by computer and for interfacing to information stored in a computer?
- 授業の一般目標** An understanding of the basic problems and techniques of formal semantics, presented in terms of language description for computational use.
- 授業の計画 (全体)** This second term of the course will concentrate on more detailed analyses of particular areas of meaning, including tense, quantification, word meaning, and discourse coherence.
- 成績評価方法 (総合)** Written examination
- 教科書・参考書** 参考書：自然言語処理の基礎, 吉村賢治, サイエンス社, 2000 年；必要に応じてプリントを配布する。
- メッセージ** 授業では英語をよく使う。

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語情報論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | つる岡昭夫 | | | | |

- 授業の概要 コンピュータによる言語情報の処理を行う。調査対象は日本語のさまざまな文章とする。／
検索キーワード 日本語の特徴。大量言語調査。
- 授業の一般目標 言語情報処理技術の習得と発展。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 言語、言語学の知識。コンピュータの知識。 技能・表現の観点：
コンピュータの利用技術。
- 授業の計画（全体） コンピュータに言語情報を入力し、さまざまな分析を行う。
- 教科書・参考書 教科書： なし（必要に応じてプリントを配付する）。
- メッセージ ノートパソコンを使用する。
- 連絡先・オフィスアワー 電話（内線） 5 2 2 6 研究室人文404 オフィスアワー木曜12. 50～1
4. 20

| | | | | | |
|------|---------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語情報論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | つる岡昭夫 | | | | |

- 授業の概要 コンピュータを用いて言語情報処理を行う。調査対象は日本語のさまざまな文章とする。／
検索キーワード 日本語の特徴。大量言語調査。
- 授業の一般目標 言語情報処理技術の習得と発展。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 言語、言語学への知識。コンピュータの知識。 技能・表現の観点： コンピュータの利用技術。
- 授業の計画（全体） コンピュータに言語情報を入力し、さまざまな分析を行う。
- 教科書・参考書 教科書： なし（必要に応じてプリントを配付する）。
- メッセージ ノートパソコンを使用する。
- 連絡先・オフィスアワー 電話（内線）5 2 2 6 研究室人文4 0 4 オフィスアワー木曜1 2. 5 0～1 4. 2 0

| | | | | | |
|------|-------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語情報論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | PHILLIPSJOHNDAVID | | | | |

- 授業の概要** Programming consists of entering data as logical permisses; running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses. Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language. First term: basic Prolog, an introduction for beginners. Second term: natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.
- 授業の一般目標** プロログ、プログラミング、自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。
- 授業の計画（全体）** Programming consists of entering data as logical permisses;running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses .Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language. First term-basic Prolog, an introduction for beginners. Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.
- 成績評価方法（総合）** 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。
- 教科書・参考書** 教科書：岡田朋子（著） 「Introduction to Prolog - Prolog 入門」（授業で配布します。）／参考書：松田紀之（著） 「PROLOGを楽しむ」 オーム社 平成5年 中島英之・上田和紀（著） 「楽しいプログラミング II」 岩波新書 1992 古川康一（著） 「Prolog 入門」 オーム社 1986 黒川利明（著） 「Prolog のソフトウェア作法」 岩波新書 1989
- メッセージ** Assessment will be by four programming assignments to be handed in during each term. 授業は殆ど英語で行います。

| | | | | | |
|------|-------------------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 言語情報論演習 | 区分 | 演習 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 後期 |
| 担当教員 | PHILLIPSJOHNDAVID | | | | |

- 授業の概要** Prolog is a largely declarative programming language based on formal logic. Programming consists of entering data as logical permisses;running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses .Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language. First term-basic Prolog, an introduction for beginners. Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.
- 授業の一般目標** プロログ、プラグラミング、自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。
- 授業の計画（全体）** Prolog is a largely declarative programming language based on formal logic. Programming consists of entering data as logical permisses;running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses .Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language. First term-basic Prolog, an introduction for beginners. Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.
- 成績評価方法（総合）** 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。
- 教科書・参考書** 教科書：岡田朋子（著） 「Introduction to Prolog - Prolog 入門」（授業で配布します。）／参考書：松田紀之（著） 「PROLOGを楽しむ」 オーム社 平成5年 中島英之・上田和紀（著） 「楽しいプログラミング II」 岩波新書 1992 古川康一（著） 「Prolog 入門」 オーム社 1986 黒川利明（著） 「Prolog のソフトウェア作法」 岩波新書 1989
- メッセージ** Assessment will be by four programming assignments to be handed in during each term. 授業は殆ど英語で行います。

| | | | | | |
|------|-------|----|------|-----|--------|
| 開設科目 | 比較文学論 | 区分 | 講義 | 学年 | 配当学年なし |
| 対象学生 | | 単位 | 2 単位 | 開設期 | 前期 |
| 担当教員 | 岡光一浩 | | | | |

●授業の概要 比較文学・比較文化的考察。ドイツ語圏の文学や文化を他の国々のそれらと比較して、受容と影響関係を学ぶとともに、固有性と普遍性を理解し、さらに日本人としての異文化理解に役立てる。対象となる作品は、グリム童話『赤ずきん』、クリムトの絵画『接吻』、トーマス・マンの『トーニオ・クレーガー』。／検索キーワード 「文学を読む」ということとは？

●授業の一般目標 ドイツ語圏の文学や文化に接し、それらを実際に具体的に読み(鑑賞し)、理解を深める。さらに、それらの様々な比較を通して、国際人としての生き方を学ぶ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：ドイツ語圏の文学や文化を知り、理解することができる。比較を通して、受容と影響関係を学ぶことができる。思考・判断の観点：比較を通してドイツ語圏の固有性と普遍性を考えることができる。関心・意欲の観点：日本人としての国際理解を深める。国際人としての生き方をまなぶ。技能・表現の観点：自分の考えを表現できる。

●授業の計画(全体) 文学とは、ドイツ文学とは、比較文学とは、を学ぶ。(1)グリム童話とは、グリム童話執筆の動機と目的、『赤ずきん』の初版と決定版の比較、ペローとの比較 (2)ウィーン世紀末とは、ウィーン・カフェ、ユーゲントシュティール、ジャポニスムス、日本人ミツコ (3)トーマス・マン『トーニオ・クレーガー』とは、アンデルセン『人魚姫』との比較、北杜夫・三島由紀夫への影響

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 講義への導入 内容 全体的な計画。シラバスの説明。授業外指示 シラバスを読んでおくこと。

第 2 回 項目 ドイツ語圏の文学と文化 内容 文学とは、ドイツ文学とは、比較文学とは。

第 3 回 項目 グリム童話『赤ずきん』(1) 内容 グリム童話とは。グリム童話執筆の動機と目的 授業外指示 当該書を読んでおくこと。

第 4 回 項目 同上(2) 内容 初版と決定版の比較 授業外指示 初版も併せて、読んでおくこと。

第 5 回 項目 同上(3) 内容 ペローとの比較 授業外指示 ペローも読んでおくこと。

第 6 回 項目 同上(4) 内容 精神分析的解釈

第 7 回 項目 クリムト『接吻』(1) 内容 ウィーン世紀末。ウィーン・カフェ。

第 8 回 項目 同上(2) 内容 ユーゲントシュティール

第 9 回 項目 同上(3) 内容 ジャポニスムス

第 10 回 項目 同上(4) 内容 クリムトの時代にウィーンで生きた日本人ミツコ

第 11 回 項目 トーマス・マン『トーニオ・クレーガー』(1) 内容 作家と作品について 授業外指示 当該書を読んでおくこと。

第 12 回 項目 同上(2) 内容 アンデルセン『人魚姫』との比較 授業外指示 同上

第 13 回 項目 同上(3) 内容 北杜夫への影響 授業外指示 『木精』など、北の作品を読んでおくこと。

第 14 回 項目 同上(4) 内容 三島由紀夫への影響 授業外指示 『仮面の告白』『金閣寺』など、三島の作品を読んでおくこと。

第 15 回 項目 全体のまとめ 内容 「文学を読む」とはどういうことか。

●成績評価方法(総合) 出席を前提とする。発表やレポートにおいて評価する。

●教科書・参考書 教科書：プリント等の資料にそって行う。／参考書：適宜、講義中に指摘する。

●メッセージ 出席しなければ、レポートは書けない。身を入れてかかわらなければ、面白さも見えてこない。

●連絡先・オフィスアワー 人文学部 岡光研究室